

第 2 回自然環境保全基礎調査要綱
(植生・湖沼・河川)

1 9 7 9

環 境 庁 自 然 保 護 局

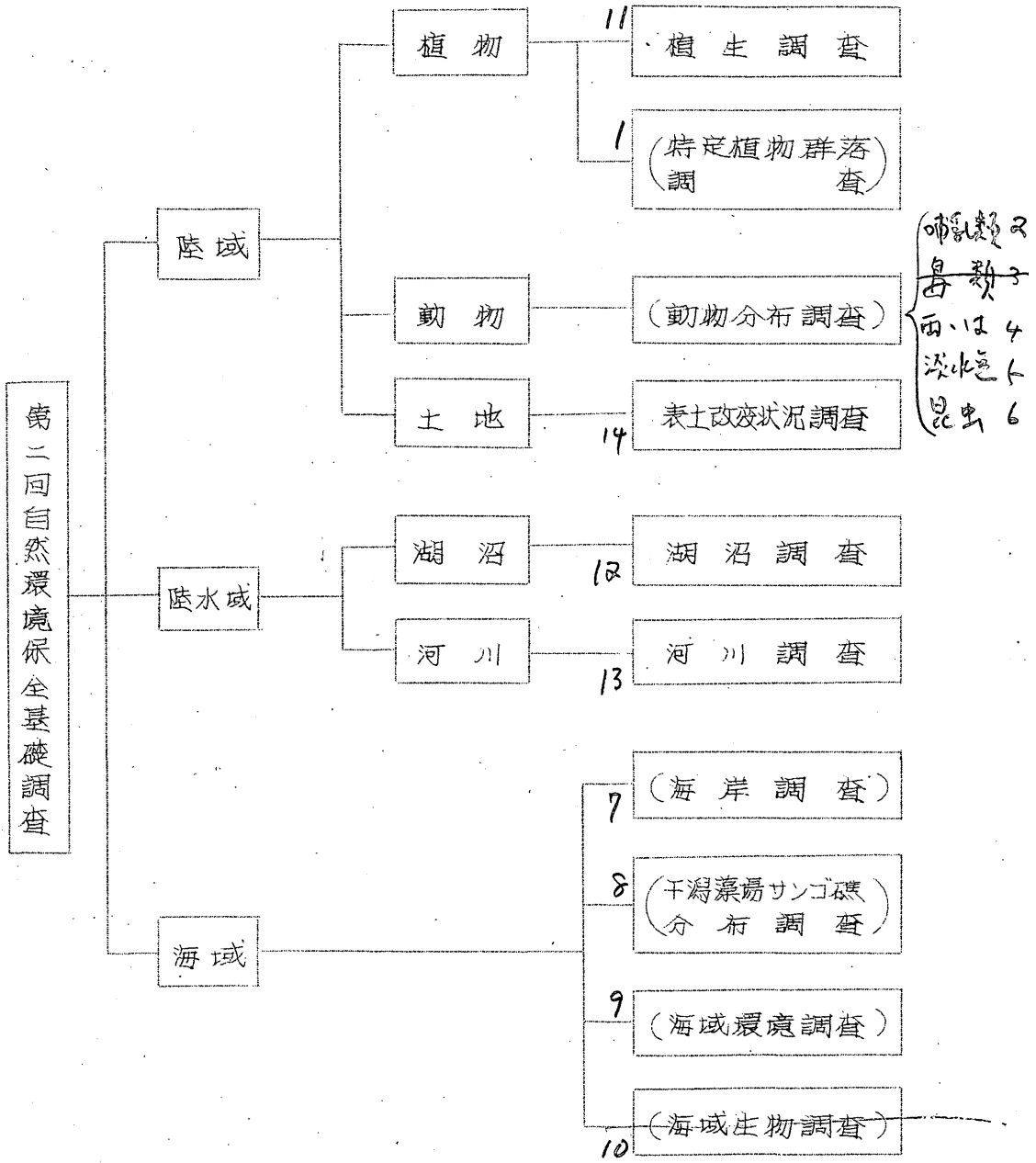
第 2 回自然環境保全基礎調査要綱

(1 9 7 9)

目 次

| | 頁 |
|-----------------|--------|
| 第 11 植生調査 | 11 - 1 |
| 第 12 湖沼調査 | 12 - 1 |
| 第 13 河川調査 | 13 - 1 |

第2回自然環境保全基礎調査骨子



()内は 53 年度実施

第 2 回自然環境保全基礎調査要綱

第 11 植生調査

1 9 7 9

環境庁自然保護局

第 11 植 生 調 查

目 次

| | 頁 |
|----------------------|----|
| 植生調査要綱 | 3 |
| 別紙 1 植生調査実施要領..... | 5 |
| 別紙 2 現存植生図..... | 17 |
| 別紙 3 植生調査表..... | 20 |
| 別紙 4 報告書作成要領..... | 28 |
| 別紙 5 現存植生図帳作成要領..... | 40 |
| | |
| 別 表 植生図凡例一覧表..... | 43 |
| 別 図 植生調査対象地域一覧図..... | 71 |

植 生 調 査 要 綱

1 . 調査目的及び調査概要

植生図は国土計画、地域開発、産業立地等のための自然診断図として、また自然保護・復元・維持のための生態学敵処方箋として重要な基礎図であり、各種の保護ないし開発のマスタープラン作成に不可欠な資料として高く位置づけられている。

本調査は、全国の植生の現況をより詳細に把握するとともに地域レベルの計画に対応できる植生図を全国的に整備するための一環として、国土の約 1/2 の地域について植生調査を実施し、縮尺 1/5 万の現存植生図を作成する。

2 . 調査実施者

国が都道府県に委託して実施する。

3 . 調査対象地域

「植生調査対象地域一覧図」(別図)に示す地域について調査する。

4 . 調査実施期間

契約締結の日から昭和 55 年 3 月 31 日までとする。

5 . 調査内容及び調査方法

第 1 回自然環境保全基礎調査による植生図及び空中写真等を参考にしながら現地において植生調査を実施する等により、「植生図凡例一覧表」(別表)に示す植生図凡例区分に従い、縮尺 1/5 万現存植生図を作成する。詳細については、別紙 1「植生調査実施要領」による。

6 . 調査結果のとりまとめ

受託者は調査結果を下記の図表にとりまとめる。

(1) 現存植生図

植生調査の結果は、別紙 2「現存植生図」にならい国土地理院発行の 1/5 万地形図に表示する。

(2) 植生調査表

現地調査の結果は、別紙 3「植生調査表」にとりまとめるものとする。

7 . 調査結果の報告

受託者は、調査結果をとりまとめ、報告書 150 部及

び現存植生図帳 1 部を、それぞれ別紙 4「報告書作成要
領」、別紙 5「現存植生図帳作成要領」により作成し、
昭和 55 年 3 月 31 日までに環境庁自然保護局長あて提
出する。

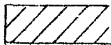
<別紙 1 >

植 生 調 査 実 施 要 領

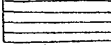
1 . 通 則

第 2 回自然環境保全基礎調査植生調査は、この実施要領に従って都道府県ごとに行う。

2 . 調査対象地域

- (1) 「植生調査対象地域一覧図」(別図)において斜線
() で示す地域については、現地において植生調査を実施し、1/5 万現存植生図を作成する。

(以下「現地調査」という。)

- (2) 「植生調査対象地域一覧図」(別図)において横線
() で示す地域については、既存の植生図等を参考資料として縮尺 1/5 万現存植生図を作成する。

(以下「資料調査」という。)

この場合、作成された植生図には参考とした資料名、調査者所属・氏名、調査年度を明記し、出典を明らかにする。

3. 現地調査等

- (1) 現地において植生調査を実施した場合、その結果は「植生調査表」(別紙3)にとりまとめる。
- (2) 現地調査の結果及び過去に作成された植生調査表(または組成表)等の既存資料により、当該都道府県で使用したすべての凡例のそれぞれについて、その植物群落の相観、立地条件、主要な構成種、県内における分布、保全上の留意事項等当該群落の特徴を記載する。

4. 植生図凡例区分

- (1) 植生図凡例区分は、原則として別表「植生図凡例一覧表」に示す凡例区分によって行う。
- (2) 当該都道府県で使用したすべての凡例には、必ず植生調査表(または組成表)を掲載することにより、その群落の構成を明らかにする。

(注1) 植生のほとんどない凡例で小面積のものについては植生調査表を省略してさしつかえない。(植林地、畑地、水田等には植生調査表を添付するよう努める。)

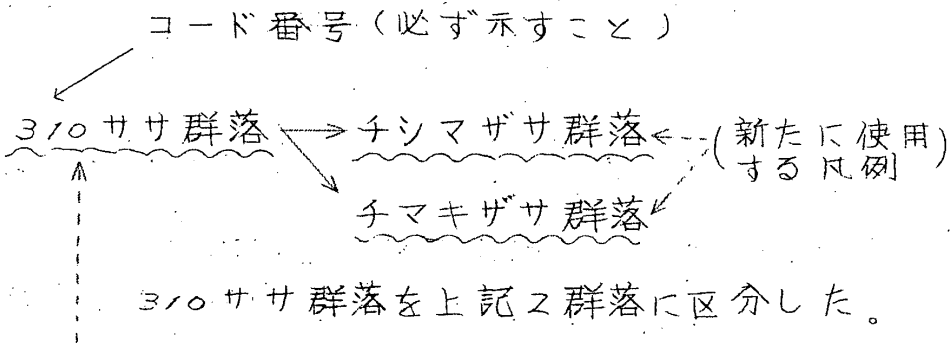
(注2) 既存資料による植生調査表(または組成

表)を使用してもさしつかえない。

- (3) なお、調査者が必要と認める場合は、別表に示す凡例以外の群落名を用いてもさしつかえない。ただし、この場合、新たに使用する凡例と別表に示す凡例との対応関係を次の例のように示す。また、新たに使用する凡例が群集(または群集レベルの群落)である場合は、植生調査表ではなく必ず組成表を掲載すること。

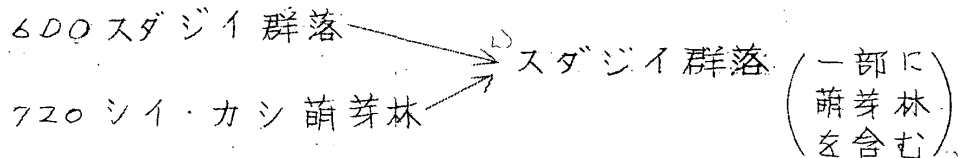
(注) できれば組成表には「標徴種」「識別種(区分種)」が明示されているものを使用することが望ましい。

(例1)



(別表に示す凡例)

(例2)



萌芽林が小面積で点在するため区分できなかつた。

に表示するよう努める。また、必要があればそれ以下の大きさの植物群落であっても表示してさしつかえない。この場合は、直径1～1.5mmの黒丸(・)(または巾0.8mmの黒線)で表示する。

(3) 図示方法

ア． 植物群落の境界は幅0.2mm程度の黒線(黒インク)でくくり線を入れ、明確に縁取りする。

イ． それぞれの都道府県で使用するすべての凡例に次の例のように別表「植生図凡例一覧表」の群落のコード番号の若い順に1から始まる通し番号(以下「表示番号」という。)を与える。

なお、別表以外の凡例を使用する場合は、表示番号を付ける順序は次の例に準じるものとする。

ウ． 植物群落は別表に示す色彩凡例により彩色するとともに、植生図の判読の便宜のため、適宜、群落の「表示番号」を黒文字で表示する。(群落のくくりごとにすべて表示番号を添える必要はないが、一見して群落が判別できるよう工夫する。)

カラー印刷が出来ない場合のことを考えると「表示番号」は添える必要あり。

(例)

(1) 寒帯 高山帯自然植生

①

高山低木群落

表示番号

2

高山ハイデ及び風衝草原

3

雪田草原

(2) 亜寒帯 亜高山帯自然植生

4

エゾマツトドマツ群落

5

アカエゾマツ群落

6

イチイトドマツ群落

(3) 亜寒帯 亜高山帯代償植生

13

ササ群落

14

ヒゲノガリヤス群落

(4) ~~ミズナラ~~ スナクラス 域自然植生

17

チシマザサースナ群落

(5) ~~ミズナラ~~ スナクラス 域代償植生

23

スナミズナラ群落

(6) ヤスツバキクラス域自然植生

31

モミシキミ群落

(7) ヤスツバキクラス域代償植生

35

コナラ群落

36

シイカシ萌芽林

(8) 河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生 (各クラス共通)

39

ツルコケモモミズゴケクラス

(9) 植林地・耕作地植生 (各クラス共通)

42

アカマツ植林

(10) その他

45

市街地

47

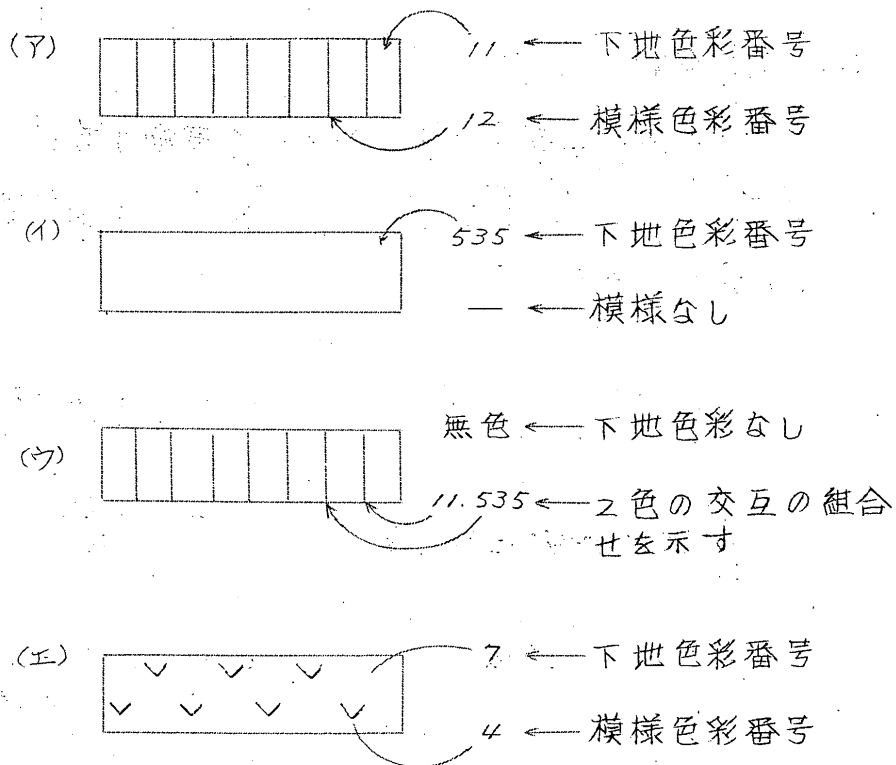
開放水域

48

自然裸地

エ． 彩色にあたっては、三菱ポリカラー（番号 1～38）、
三菱ユニカラー（番号 501～572）の色鉛筆を
使用する。

オ． 別表「植生図凡例一覧表」の色彩凡例及び色彩番
号の見方は次の例のとおりである。



(注) 色彩番号は色鉛筆の番号である。

(4) 植生図の接合部に対する配慮

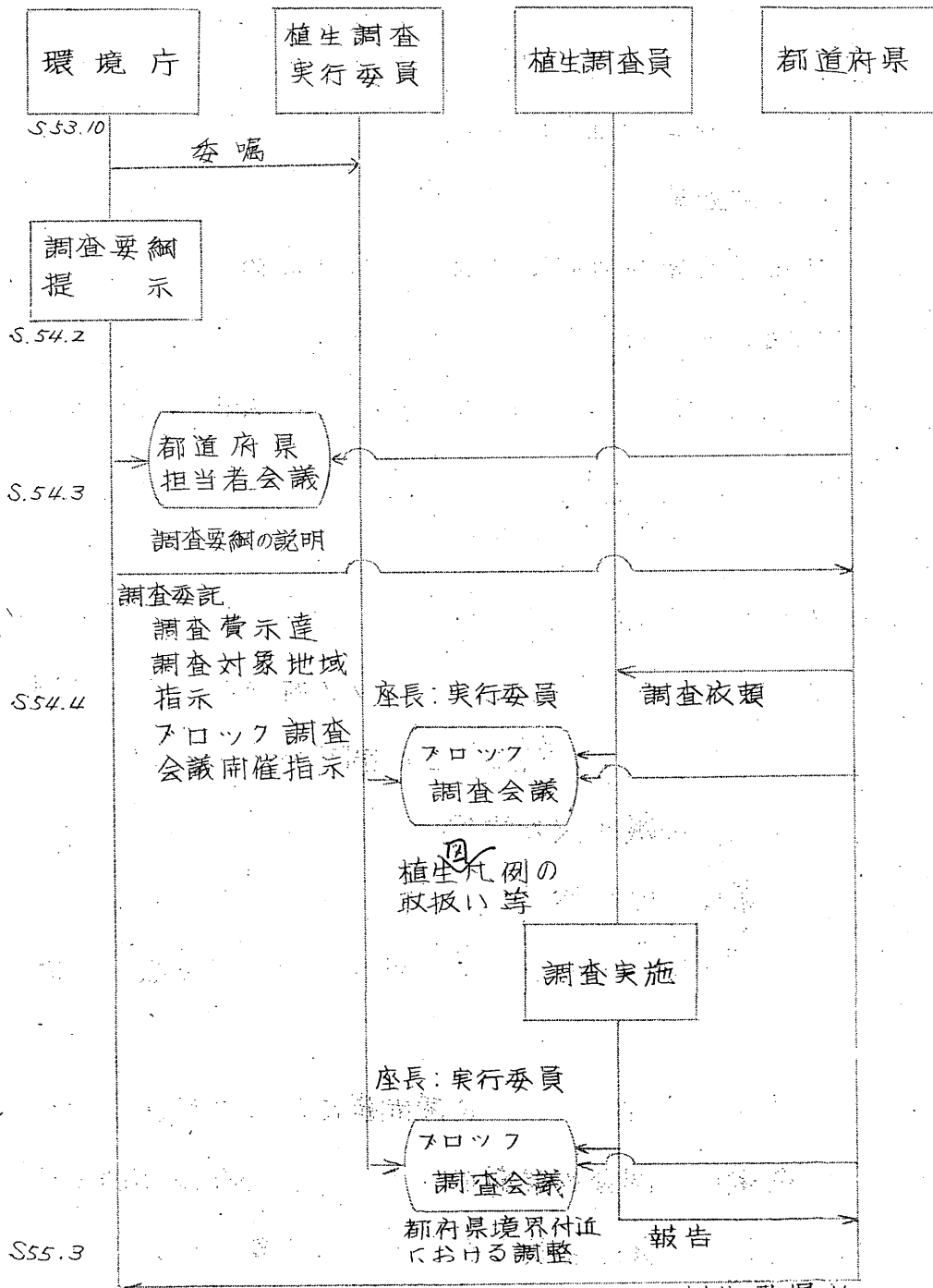
現存植生図を作成するにあたっては、隣接する地形図間及び都府県境界付近でズレが生じないように特に配慮すること。

6 . 調査実施体制

(1) 調査実施手順

この調査は、都道府県に委託して実施するが、ブロック体制のもとで調査するので、図1の手順により行うものとする。

図1 植生調査実施手順



北海道 5月~10月
(伊予路沿道) (5月~7月)

調査員自身(生徒は)報告書提出
公務あつたいに出来ないか。
学生の都合は。
会場は道でやってほしい。

(2) 植生調査実行委員

植生調査をブロック体制のもとで円滑に実施するため、表 1 に示すとおり、各ブロックごとに「植生調査実行委員」が置かれている。

(3) 植生調査員

各都道府県内の植生調査を担当する植生調査員は、植生図作成にあたり、技術上の細部について、各ブロックの植生調査実行委員と協議のうえ実施するものとする。

(4) ブロック調査会議

調査の実施にあたってはブロック内での調査の円滑を期するため、ブロックごとに調査会議を開催することとする。会議は次の要領で行う。

ア． 会議は、実行委員の要請を受けてブロック幹事県（実行委員の所在する都道府県 表 1 参照）が招集する。

ブロック幹事県は、会議開催に関する庶務を行う。

イ． 会議は、調査の実施前と後の年 2 回程度開催する。

ウ． 会議は、実行委員を座長とし、各都道府県の植生

調査員 1 名程度及び都道府県調査担当職員をもって構成する。(北海道ブロック、沖縄ブロックの場合も同様とする。)

エ. 会議においては、次の事項等について検討し、ブロック内都府県間の調整を図る。

(ア) 植生図凡例のブロック内での取扱いについて

(イ) 都府県境界付近における調整について

表 1 植生調査実行委員名簿

| ブロック | 実行委員 | 担当都道府県 |
|------|--------------------|-------------------------|
| 北海道 | 伊藤 浩 司 (北大教授) | *北海道 |
| 東北 | 飯 泉 茂 (東北大教授) | 青森、岩手、*宮城、秋田、 山形、福島 |
| 関東 | 奥 富 清 (東京農工大教授) | 茨木、栃木、群馬、埼玉、 千葉、*東京 |
| 北陸 | 香 室 昭 円 (福井大教授) | 新潟、富山、石川、*福井 |
| 中部 | 宮 脇 昭 (横浜国大教授) | *神奈川、山梨、長野、岐 阜、静岡、愛知 |

| ブロック | 実行委員 | 担当都道府県 |
|------|--------------------|---|
| 近畿 | 菅沼孝之 (奈良女子大助教授) | 三重、滋賀、京都、大阪、 兵庫、*奈良、和歌山 |
| 中国 | 鈴木兵二 (広島大教授) | 鳥取、島根、岡山、* <u>広島</u> 、 山口 |
| 四国 | 山中二男 (高知大教授) | 徳島、香川、愛媛、* <u>高知</u> |
| 九州 | 伊藤秀三 (長崎大教授) | 福岡、佐賀、* <u>長崎</u> 、熊 本、 大分、宮崎、鹿児島 |
| 沖縄 | 新納義馬 (琉球大教授) | * <u>沖縄</u> |

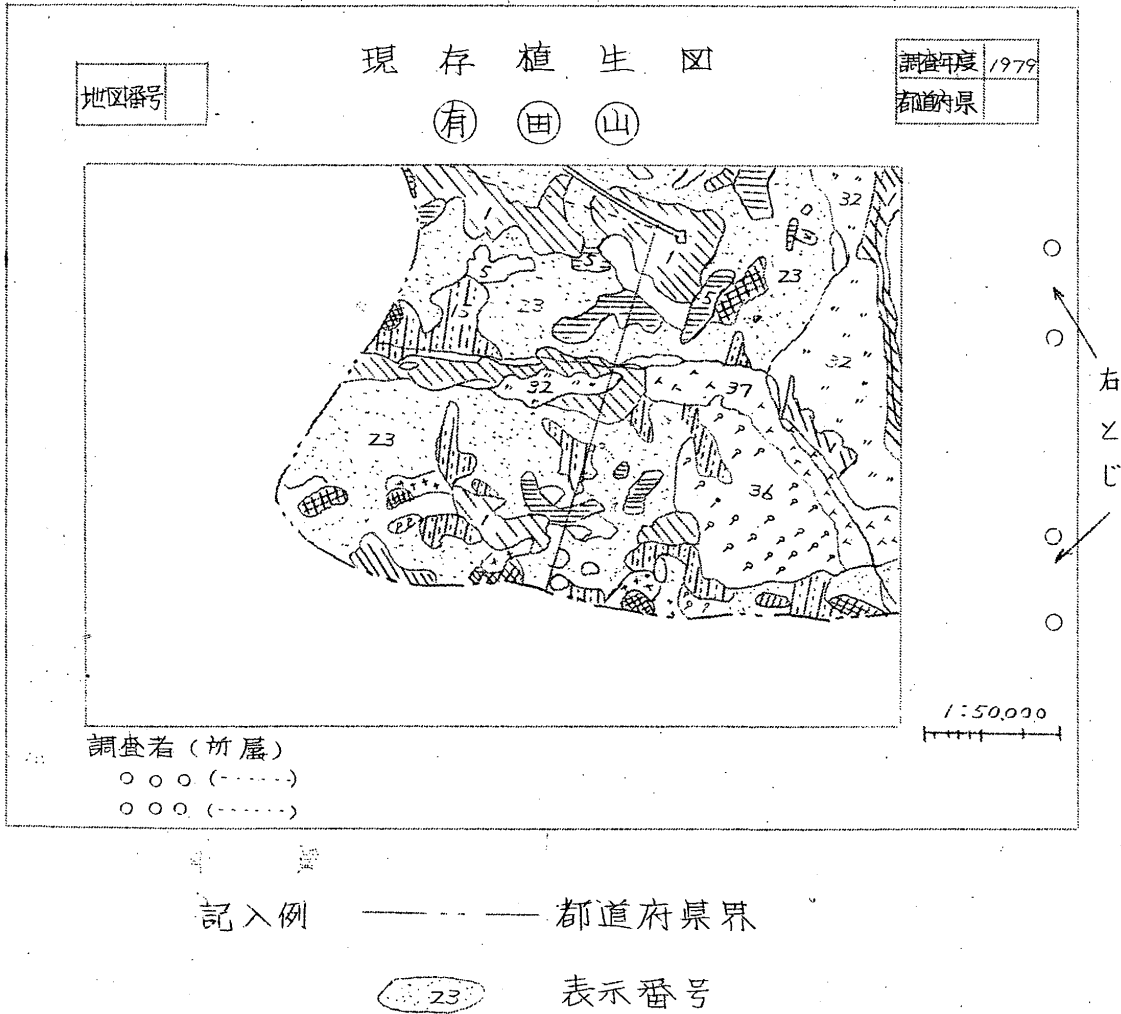
10名

*印はブロック幹事県

< 別紙 2 >

現 存 植 生 図

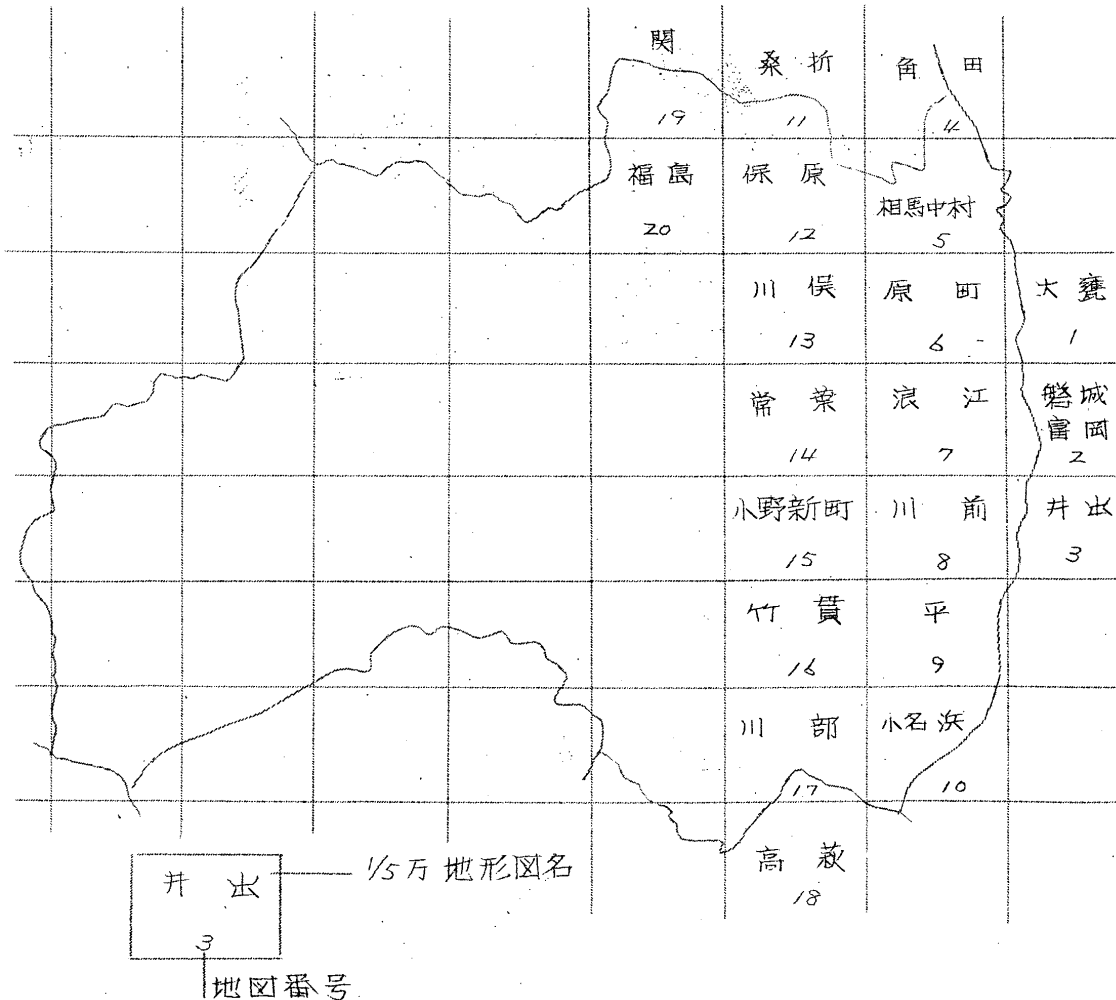
植生図例



(植生図作成上の注意)

1. 植生図には、必ず国土地理院発行の1/5万地形図を使用する。複写図、編さん図等は使用しないこと。
2. 1/5万地形図には、都道府県単位で東側から、北から南へ「地図番号」を打つ。(下図(以下「地図番号図」という)参照)

地図番号図 (例福島県)



- 3 . 植生図例のように、地形図の余白の所定の位置に
「タイトル」、「地図番号」、「調査年度」(西暦)、
「都道府県名」を黒インクで記入する。
- 4 . その他、植物群落等の表示方法は、別紙1「植生
調査実施要領」によること。
- 5 . 地形図の下辺の余白には、植生図例のように調査
者の氏名、所属を記入する。

なお、「資料調査」によって植生図を作成した場
合は、調査者氏名・所属のほかに主として使用した
資料名、調査年度を明記し、出典を明らかにする。

(様式及び記入例)

植 生 調 査 表

凡例名

No. 34 (群落名) ケヤキ-ウリノキ群落 区幅 1.5万 大村 ^上⊕ _下⊖

調査地 長崎県大村郡黒木町ハ丁杉 (風当) 強 ⊕ 弱 (海拔) 590m

(地形) 山頂:尾根:(斜面)上・中 ⊕ 凸 ⊖ 谷:平地(日当) 陽 ⊕ 陰 ⊖ (方位) N30°W

(土壌) ボド性・褐森・赤・黄・黄褐森・アド・タライ (土湿) 乾 ⊕ 湿 ⊖ 過湿 (傾斜) 35°

擬スライ・沼沢・沖積・高湿草・非固岩層(固岩層) 水面上 其他() (面積) 10×15m²

(階層) (優占種) (高さm) (植被率%) (胸径cm) (種数) (備考) (出現種数) 26

| | | | |
|---------------------|------|----|---------|
| T ₁ 高木層 | 14~ | 70 | 40~60cm |
| T ₂ 亜高木層 | 8~ | 30 | 10~20cm |
| S 低木層 | 2~ | 10 | |
| H 草本層 | 0.7~ | 10 | |
| M コケ層 | ~ | ~ | |

1979年8月10日 調査者

| S | D.S.V | SPP | S | D.S.V | SPP | S | D.S.V | SPP |
|----|--------------------|--------|---|-------|--------|---|--------|--------------------|
| 1 | T ₁ 2.3 | ケヤキ | S | +Z | ヤブニツケイ | H | +fl | モミジガサ |
| 2 | 1.2 | ホソバタス | | 1.2 | シキミ | | + | ジュウモンジシダ |
| 3 | 3.3 | ミズキ | | +fl | ウリノキ | | + | シラキ K ₂ |
| 4 | | | | + | ガクウツギ | | +Z | ヤブムラサキ |
| 5 | | | | +fr | ハナイカダ | | + | イヌガヤ |
| 6 | | | | +Z | ヤマアジサイ | | + | カヤ |
| 7 | | | | + | ミズキ | | 1.1 fl | オキネノカシリ |
| 8 | | | | | | | + | タイモンジソウ |
| 9 | | | | | | | + | シケチシダ |
| 10 | | | | | | | +Z | クサアジサイ |
| 11 | T ₂ 2.2 | ヤブニツケイ | | | | | + | イノデモドキ |
| 12 | + | イヌガヤ | | | | | + | ナツズタ |
| 13 | + | ヤブツバキ | | | | | + | ケヤキ K ₂ |
| 14 | 1.1 | イタヤカエデ | | | | | (+) | キバナアキギリ |
| 15 | 1.2 | シキミ | | | | | | |
| 16 | + | カヤ | | | | | | |
| 17 | 1.1 | イヌガシ | | | | | | |
| 18 | + | エゴノキ | | | | | | |
| 19 | + | ホソバタス | | | | | | |
| 20 | | | | | | | | |
| 21 | | | | | | | | |
| 22 | | | | | | | | |
| 23 | | | | | | | | |
| 24 | | | | | | | | |
| 25 | | | | | | | | |
| 26 | | | | | | | | |
| 27 | | | | | | | | |
| 28 | | | | | | | | |
| 29 | | | | | | | | |
| 30 | | | | | | | | |

森林横断面図

(記入上の注意)

1. No には群落の表示番号を記入する。
2. 凡例名(群落名): 当該調査地の植物群落名(凡例名)を記入する。
3. 調査地: 府県、市、町村名は必ず記入し、加えて
宇、河川、沢、山地名などの記入は5万分の1地形図
上の名称をなるべく採用する。
4. 図幅: 5万分の1地形図名を記入する。なお調査
地の位置を明らかにするため地形図
を右のように4等分して該当する上
下左右の箇所を で囲む。

| | |
|----|----|
| 上左 | 上右 |
| 下左 | 下右 |
5. 海拔: 近くの三角点、水準点、独標点などで更正
した携帯用高度計で測定する。やむをえない場合は5
万分の1地形図上で推定する。10mのケタまで記入
する。
6. 方位: 調査区が面している方向をクリノメータで
測定し、N22°Wのように記入し、NNW という表現

はできるだけさける。

7. 傾斜：調査区斜面のほぼ平均とみられるところを
クリノメーターで測定する。
8. 面積：縦×横mで表現する。調査区的面積は少な
くとも最小面積の2倍以上の面積をとることがのぞま
しい。
9. 出現種数：各層の種数の和から2つ以上の階層に
出現する種類の重複分を差引いたものを記入する。
10. 地形：調査区の位置する地形区分を で囲む。斜
面上にある場合は斜面主方向にそって上中下区分と凸
凹別で表現する（凸凹のない場合は凸凹チェックなし
とする）。傾斜5°以下である程度広がりをもつ場合は
平地とするが、谷底平地とは区別すること。
谷底平地は谷と平地をダブルチェックして現わす。
11. 土壌：該当する土壌型名を で囲む。調査表内の
略称はつぎの土壌型を現わしている。ポド性 - ポド
ゾール性土、褐森 - 褐色森林土、赤 - 赤色土、黄
- 黄色土、黄褐森 - 黄褐色森林土、アンド - 火
山灰土壌（黒色土壌）、グライ - グライ土、擬グラ
イ - 擬グライ土、沼沢 - 沼沢土、沖積 - 沖積土、

高湿草 - 高山湿草地土、非固岩屑 - 非固結岩屑土、
固岩屑 - 固結岩屑土、水面下 - 水面下土壌、その
他

12. 風当・日当：調査区をとりまく地形的特徴に注意し、遮蔽物の有無や樹形の変化などにも留意してチェックする（ で囲む）。
13. 土湿：乾とは土塊をにぎって湿りを感じない場合、適とは湿りを感じ、湿とは水が出るがたれない。過湿とは水がしたたる場合．としてチェックする。
14. 階層：独立または比較的独立した植物層（葉群層）を一つの階層とし、自然の階層を映し出すように把握する。森林の場合階層は基本的には T_1 高木層、 T_2 亜高木層、S 低木層、H 草本層、M コケ層の 5 層に分かつ。低木層及び草本層が更に細分可能の場合は各々に第 1 第 2 または S-1、S-2、H-1、H-2 を区分して記入する。そのため S、H には余白を設けてある。草本の場合には草本層は上層と下層に分けられる。その他の区分を必要とする場合には適宜工夫する。低木林の調査では高木層と亜高木層の欄は空白となる。
15. 優占種：各階層の優占種の植物名を記入する。同

一の階層に優占種が複数のときは少なくとも二種類を記入する。

16. 高さ：各階層の葉群層の上限と下限の高さを記入する。例えば8～15mのように上限は～の右側に書く。コケ層は上限だけで足りる。
17. 植被率：各階層毎の植被率（種類別の被度ではなくその階層全体としての植物被覆の割合）を百分率で判定して記入する。
18. 胸径：胸高直径は高木層および亜高木層に限り、各層の最大胸高直径のもののみを測定して記入する。
19. 種数：組成表から数えだして各階層ごとに記入する。したがって各層で同じ種類（例えば高木性の種など）が重複して数えられることもある。
20. 調査者：直接調査を行なった人をもれなく記入することがのぞましい。責任者には印をつけておくこと。
21. 組成表について：調査区内の種類組成、階層、優占度または被度、群度、活力度および芽生えについて記入する。表中のS欄は階層、D・S欄は優占度または被度と群度、V欄は活力度、SPP欄は種名をそれぞれ記入する。記入の要領はつぎの通りである。

(S)階層： T_1 、 T_2 、S-1、S-2、H、Mのように
し、種類のリストは T_1 （高木層）からはじめて順次
下層にいたる。

(D・S)優占度または被度と群度：種の優占の度
合を判定するには下記の Braun - Blanquet 法
による優占度 被度と数度（推定的個体数）の組み
合せによる測定法を用いる。

rごくまれに出現

t少数で被度は非常に低い

1多数だが被度は低い。あるいははかり少数だ
が被度はやや高い

2非常に多数（ただし被度は 1/10 以下）ある
いは被度が 1/10 ~ 1/4（ただし個体数は任
意）

3被度が 1/4 ~ 1/2 で個体数は任意

4被度が 1/2 ~ 3/4 で個体数は任意

5被度が 3/4 以上で個体数は任意

また群度はつぎの記号で記入する。

1単生する。

- 2群状または叢状に生育する。
- 3斑状に生育する（小斑あるいはクッション）
- 4小さいコロニーをつくって生育するか、あるいはまた大斑かじゅうたんを形成する。
- 5大群をなす。

この（D・S）欄の記載にあたっては優占度（または被度）を先にし群度をつぎに記す。例えば4・2のようになる。+1の場合は単に+とのみする。高木層を占める種の群度については調査区外をも概観して評価する。例えば全山がブナでおおわれているがたまたま調査区内にブナが1本である場合は5・1とせず、5・5とする。

（V）活力度と芽生え：群落内における種個体の生
活力により重点をおいた Ellenberg や Knapp の方
式にしたがいつぎの記号で記す（略してもよい）

.....極めて生育不良でほとんど果実や種子を生
じない

.....生育不良

無印.....生育普通

なお、芽生えである場合にはこの欄にKの記号を記

す。また開花している (fl) 果実や種子をつけている (fr) 場合にも、それぞれの記号をこの欄に記しておく。

22. 植生断面図： 植生調査を実際に行なわれた植分と、その立地条件との関係を具体的に表現する手段として植生断面の図化は重要である。また地形に対応した群落構造とその配分を概観する手がかりとなる。

したがって、図化には地形に対応した植生配分模式図(図1)と、具体的な対象植分自体の群落断面模式図(図2)の2通り画く(おもてに空白がない場合には裏面に画く。)

〔例〕

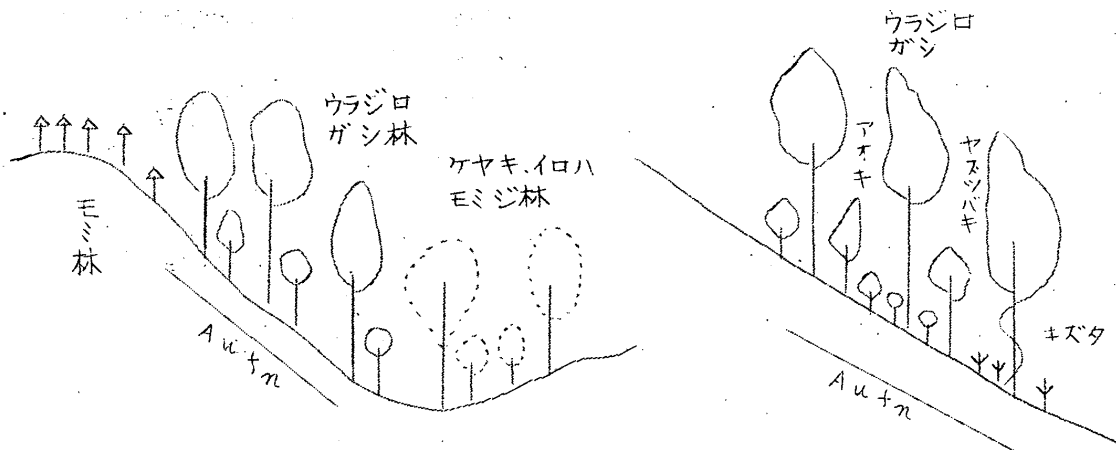


図 1

図 2

<別紙4>

報告書作成要領

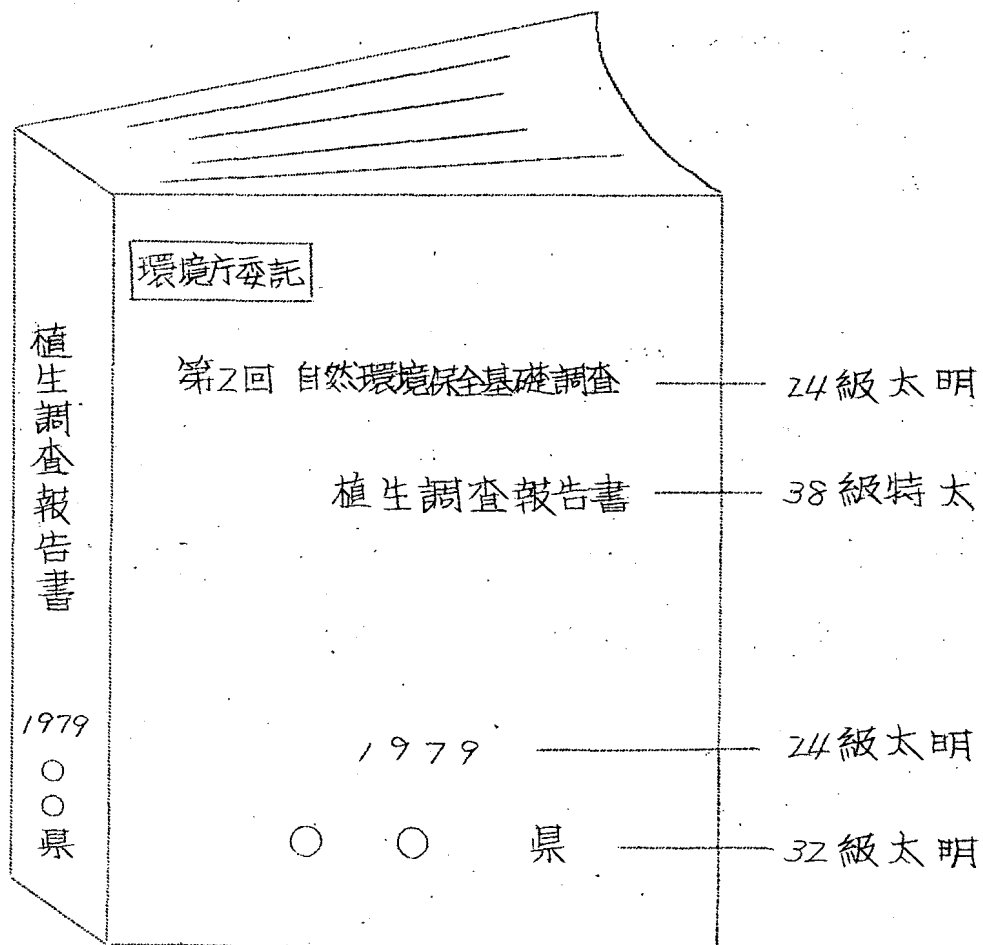
1. 規格

B5版、左とじ、横書きとする。

印刷は、タイプ印刷程度とする。

2. 表紙及び背文字

表紙（及び裏表紙）は松葉色、厚さは215kg（レザック66程度）とし、様式は下図によるものとする。



3. 配列

報告書における各項目の配列は以下のとおりとする。

- (1) 目次
- (2) 調査概要
- (3) 調査対象地域図
- (4) 植生図凡例解説
- (5) 植生調査表（または組成表）
- (6) 資料リスト
- (7) 調査担当者名簿


4. 調査概要

調査地域の範囲、調査の実施方法等の概要について簡潔に記載する。

5. 調査対象地域図

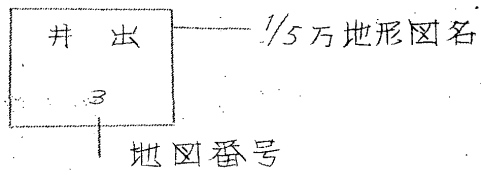
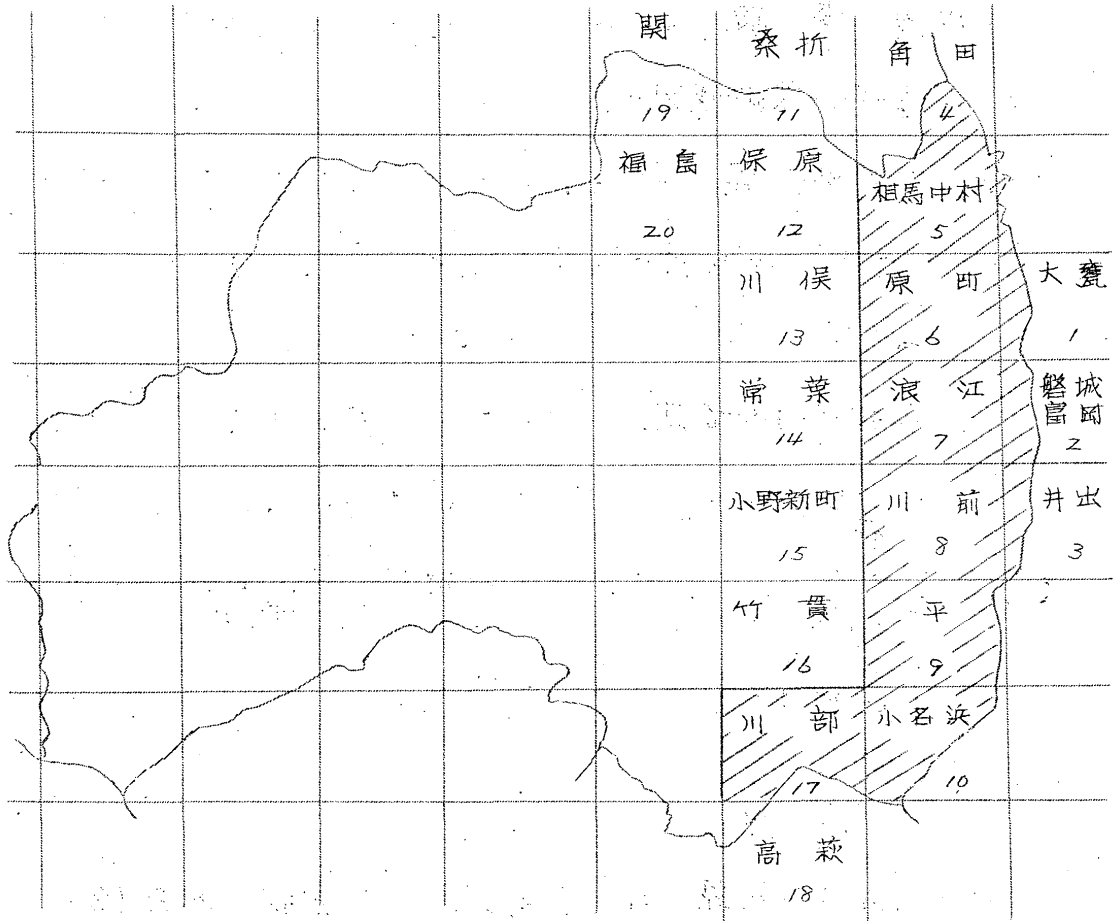
植生調査の対象となった地域（植生図化された1/5万地形図名）を示すため、次の例のように地図番号図を作成し、調査対象地域図とする。

なお、植生図化された1/5万地形図の図葉は斜線（

）を入れて示す。

(例)

福島県調査対象地域図



6. 凡例解説

- (1) 当該都道府県において使用されたすべての凡例について、その植物群落の相観、立地条件、主要な構成種、県内における分布、保全上の留意事項等その群落の特徴を簡潔に記載する。
- (2) 別表「植生図凡例一覧表」に示す以外の凡例の場合は、別表に示す凡例との対応関係を必ず明らかにしておくこと。
- (3) 凡例解説の掲載は、表示番号の順とする。
- (4) 凡例解説の際に、当該植物群落の特徴を示す写真、植生断面模式図及び植生配分模式図等があれば、適宜掲載してさしつかえない。

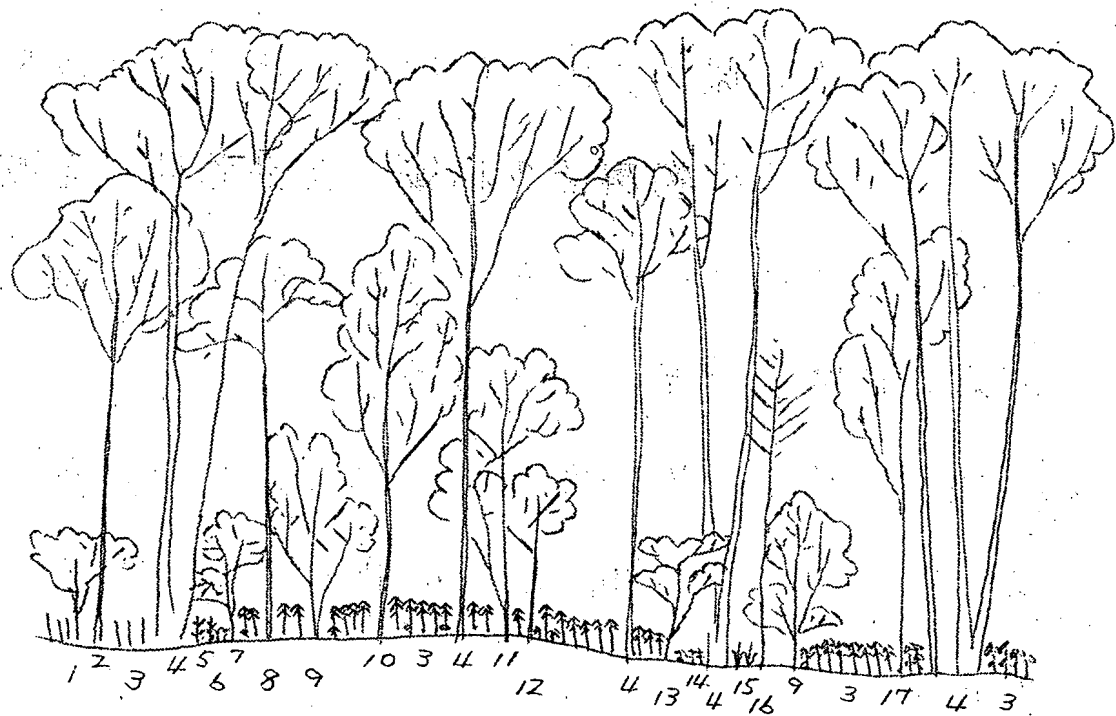
(例)

表示番号 群落名

32. クリーミズナラ 群集 相観

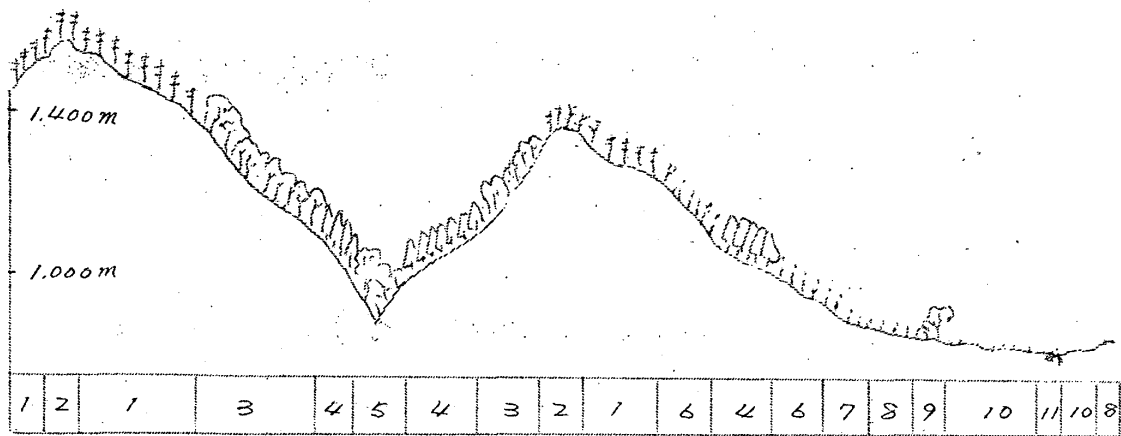
(相観) — 夏緑広葉樹の高木林、亜高木林

クリーミズナラ 群集は、-----



クリ - ミズナラ群集断面模式図

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1 : ノリウツギ | 9 : ツノハシバミ |
| 2 : ク リ | 10 : コミネカエデ |
| 3 : ス ズ タ ケ | 11 : オオカメノキ |
| 4 : ミ ズ ナ ラ | 12 : ア オ ダ モ |
| | 13 : トウゴクミツバツツジ |
| 5 : アキノキリンソウ | |
| | 14 : ミヤマベニシダ |
| 6 : ヘビノネゴザ | 15 : タガネソウ |
| 7 : ツ リ バ ナ | 16 : ウラジロモミ |
| 8 : イタヤカエデ | 17 : リ ヨ ウ ブ |



植 生 配 分 模 式 図

- 1 : アカマツ植林
- 2 : モチツツジ - アカマツ群集
- 3 : クリ - ミズナラ群集
- 4 : スギ・ヒノキ植林
- 5 : アブラチャン - ケヤキ群集
- 6 : キバナカワラマツバ - ススキ群落
- 7 : 桑畑
- 8 : ナギナタコウジュ - ハチジョウナ群集
- 9 : 住宅地
- 10 : ウリカワ コナギ群集
- 11 : ツルヨシ群集

7. 植生調査表（または組成表）

(1) 調査の結果まとめられた植生調査表（または組成表）は一括して掲載する。

(2) 掲載は、次の順とする。

ア. 表目次（様式は次の例による）

（例）

| 表 目 次 | |
|----------------|-----|
| 1. 高山低木群落 | 62頁 |
| 2. エゾマツートドマツ群集 | 63 |
| 3. アカエゾマツ群集 | 65 |
| 4. ササードケガンバ群落 | 66 |
| 5. チシマザサースナ群団 | 67 |
| ⋮ | ⋮ |
| ⋮ | ⋮ |
| ⋮ | ⋮ |

イ. 植生調査表（または組成表）

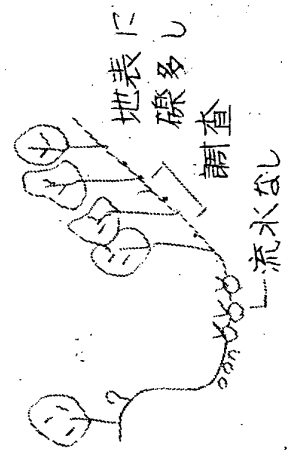
掲載は原則として表示番号の順とし、次の例を参照すること。

(例1) 植生調査表の場合

表示番号 34 ケヤキ-ウリノキ群落
 群落名 ケヤキ-ウリノキ群落

植生調査表

No. 34 (群落名) ケヤキ-ウリノキ群落
 調査地 長崎県大村郡黒水村ハ丁杉
 (地形) 山頂: 尾根: (斜面) 上・中・(下) 凸(凹) 谷: 平地 (日当) 陽・(半陰) 陰
 (土壌) ホクシ 杉・赤・黄・黄緑・アト・スライ (土湿) 乾(適) 湿・潤
 凝りイ 沼沢 沖積 高湿草 非固岩屑 (樹洞) 水面下 その他 ()
 (階層) (優占種) (高さm) (植被率%) (樹径cm) (種数) (備考) (出現種数)
 T₁ 高木層 14~ 70 40~60cm
 T₂ 亜高木層 8~ 30 10~20cm
 S 低木層 2~ 10
 H 草本層 0.7~ 10
 M コケ層 ~



1979年8月10日 調査者

| | | |
|--------------|----------------------|---------------------------|
| S D.S.V SPP. | S D.S.V SPP | S D.S.V SPP |
| II 2.3 ケヤキ | IV + 2 ヤブニツケイ 1.2 | IV + fl モミジガヤ ジエウモンジンガ |

(例2) 組成表の場合

| 表示番号 | 群落名 | | | | |
|---------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 29 | シラガンバーレンゲツツジ群落 | | | | |
| 調査区番号 | | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 調査年月日 | | '71 8 14 | '71 8 14 | '72 9 10 | '72 9 11 |
| 調査面積 | | 200 | 400 | 400 | 300 |
| 海抜 | | 1530 | - | - | - |
| 傾斜 | | 5 | N | 5 | 5 |
| 高木層の高さ | | - | - | (14) | 18 |
| の植被率 | | - | - | - | 60 |
| 亜高木層の高さ | | 9 | 10 | 11 | 7 |
| の植被率 | | 70 | 80 | 70 | 10 |
| 低木層の高さ | | 3 | 3.5 | 2 | 2.5 |
| の植被率 | | 60 | 40 | 10 | 20 |
| 草本層の高さ | | 0.5 | 0.8 | 1 | 1.5 |
| の植被率 | | 70 | 50 | 80 | 80 |
| 出現種数 | | 28 | 38 | 31 | 43 |

| 群集標徴種および区分種 | 階層 | | | | |
|-------------|----|-----|-----|-----|-----|
| シラガンバ | T1 | . | . | . | 4.4 |
| | T2 | 4.4 | 4.4 | 4.4 | . |
| | S | . | + | + | + |
| ミヤマイトダ | S | + | + | . | +2 |
| ベニバナイチヤクソウ | H | 2.2 | +2 | . | . |
| ズミ | S | + | + | . | . |
| レンゲツツジ | S | . | +2 | +2 | . |
| ヤハズハンノキ | T2 | 1.1 | . | . | + |
| 更群集区分種 | | | | | |
| タチツボスミレ | H | + | +2 | . | . |
| ミヤマザクラ | T2 | . | 1.1 | . | . |
| | H | + | . | . | . |
| | S | + | + | . | . |
| マユミ | H | +2 | + | . | . |
| ヤマドリゼンマイ | H | +2 | + | . | . |
| チダケサシ | H | +2 | + | . | . |
| ヤマハンノキ | T2 | 1.1 | . | . | . |
| | S | 1.2 | + | . | . |
| 亜群集区分種 | | | | | |
| オオバギボウシ | H | . | . | 3.3 | 2.2 |
| シラヤマギク | H | . | . | +2 | 1.2 |
| オオヨモギ | H | . | . | + | +2 |
| カラマツソウ | H | . | . | +2 | +2 |
| イタドリ | H | . | . | + | + |
| リンドウ | H | . | . | + | + |
| ヌスビトハギ | H | . | . | + | + |
| サクラスミレ | H | . | . | + | + |
| 随伴種 | | | | | |
| ミズナラ | T2 | . | 1.2 | . | . |
| | S | 3.3 | 3.3 | +2 | 1.2 |
| フガイソウ | H | + | + | +2 | +2 |
| アキノキリンソウ | H | + | + | 1.2 | + |
| タムラソウ | H | + | + | +2 | 2.2 |
| ヘビノネゴザ | H | 2.3 | 2.2 | + | + |
| 出現一回の種 | | | | | |
| シモツケ | H | + | . | . | . |
| ニシキウツギ | S | + | . | . | . |
| カラマツ | T2 | 1.1 | . | . | . |
| マルバタケスキ | H | +2 | . | . | . |

表の上方を
よめる。
標徴種等よめ
らねる。場合あり。
高木層

(例3) 同一組成表で2以上の植生凡例を

示す場合

- 表示番号
 32. ケヤキーイロハモミジ群集 (調査区番号 1~5)
 33. ケヤキーアスラチャン群集 (調査区番号 6~16)

| | ← 32 → | | | | | ← 33 → | | | | | | |
|-----------|---------|----------|-----------|----------|----------|-----------|-----------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 調査区番号 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
| 調査年月日 | 72 IX 7 | 72 XI 13 | 74 VII 24 | 73 VI 29 | 72 XI 13 | 74 VII 24 | 74 VII 24 | 73 VI 29 | 72 IX 11 | 72 IX 11 | 73 VI 29 | 72 IX 12 |
| 海拔 | 30 | 30 | 20 | 20 | 35 | 25 | 40 | 25 | 25 | 40 | 35 | 35 |
| 傾斜 | W | E | E | S | N | NW | E | ES | S | E | SW | W |
| 調査面積 | 200 | 900 | 600 | 300 | 600 | 500 | 300 | 750 | 150 | 500 | 300 | 300 |
| 高木第一層の高さ | 12 | 22 | 20 | 25 | 15 | 16 | 16 | 14 | 16 | 16 | 12 | 17 |
| 高木第一層の植生率 | 70 | 80 | 80 | 80 | 70 | 70 | 70 | 85 | 80 | 80 | 90 | 85 |
| 高木第二層の高さ | 7 | 10 | 12 | 12 | 9 | 7 | 9 | 8 | 7 | 7 | 9 | 12 |
| 高木第二層の植生率 | 40 | 60 | 40 | 40 | 40 | 50 | 60 | 40 | 30 | 30 | 40 | 40 |
| 低木層の高さ | 3 | 4 | 3 | 3 | 4 | 3 | 3 | 2.5 | 4 | 2 | 3 | 2.5 |
| 低木層の植生率 | 30 | 30 | 25 | 30 | 30 | 40 | 40 | 40 | 30 | 30 | 50 | 20 |
| 草本層の高さ | 0.5 | 0.5 | 0.7 | 0.8 | 0.8 | 0.5 | 0.5 | 0.5 | 0.5 | 0.5 | 0.3 | 0.5 |
| 草本層の植生率 | 50 | 30 | 30 | 35 | 30 | 30 | 50 | 30 | 20 | 30 | 30 | 40 |
| 出現種数 | 49 | 31 | 29 | 29 | 37 | 36 | 41 | 37 | 44 | 56 | 55 | 33 |

| 群集標微種および区分種 | 階層 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
|-------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|---|-----|----|-----|
| ジャノヒゲ | H | 4.4 | 2.2 | 2.2 | 1.2 | 1.2 | | | | | | | |
| ヤブラン | H | + | + | 1.2 | 2.2 | +2 | | | | | | | |
| モミ | T1 | | | 2.2 | 2.1 | | | | | | | | |
| | T2 | | | 1.2 | + | | | | | | | | |
| | S | | + | 1.1 | | + | | | | | | | |
| アラカシ | L2 | | | 1.1 | | | | | | | | | |
| | S | + | 2.2 | +2 | | + | | | | | | | |
| シラカシ | T1 | | | 1.1 | | | | | | | | | |
| | T2 | | | 2.2 | | | | | | | | | |
| | S | + | 1.2 | 2.2 | | | | | | | | | |
| | H | + | | + | | | | | | | | | |
| ナンテン | S-H | + | + | ± | | | | | | | | | |
| ヤブコウジ | H | +2 | + | 1.2 | | | | | | | | | |
| オオバジャリヒゲ | H | | 1.2 | | 1.2 | 1.2 | | | | | | | |
| シユロ | H | + | | + | | | | | | | | | |
| チャノキ | T-S | ± | | | + | + | | | | | | | |
| アオキ | S-H | | | +2 | | +2 | | | | | | | |
| ウツギ | S | | | | | | + | + | + | + | 1.2 | + | 1.2 |
| サンシヨウ | S | | | | | | + | | | | + | + | |
| | H | | + | | | | | | + | | | | |
| タマアジサイ | S-H | | | | | | 2.2 | 1.2 | | | | | |
| バイカウツギ | S-H | | | | | | +2 | | + | | | | |
| ヤマイヌワラビ | H | | | | | | + | | | + | | | |
| イヌシテ | T1 | | | | | | | | 1.1 | | | | 2.2 |
| | T2 | | | | | | | | | | | | 1.2 |
| | H | + | | | | | | | | | | | |
| | H | | | | | | | | | | | | +2 |
| 4デミザサ | H | | | | | | | | | | | | |

8. 資料リスト

当調査で使用了文献、資料等について次の表にならいとまとめる。

| 番号 | 筆者名(または発行者名) | 発行年 (西 曆) | 資 料 名 |
|----|--------------|--------------|-------|
| | | | |
| | | | |
| | | | |

9. 調査担当者名簿

当調査に実際に従事した者全員の所属、氏名、分担分野を次の表にならいとまとめる。

| 番号 | 氏 名 | 所 属 | 分 担 分 野 |
|----|---------|---------|---------|
| 1 | ○ ○ ○ ○ | ○ ○ ○ ○ | 総括責任者 |
| 2 | × × × × | × × × × | × × × |
| | | | |

10. 奥付け

奥付けの様式は下図によるものとする。

| | | |
|----------------|-----|---|
| 第2回 自然環境保全基礎調査 | | |
| 植生調査報告書 | | |
| 昭和55年3月31日 | | |
| 編集 | ○ ○ | 県 |

環境庁委託調査

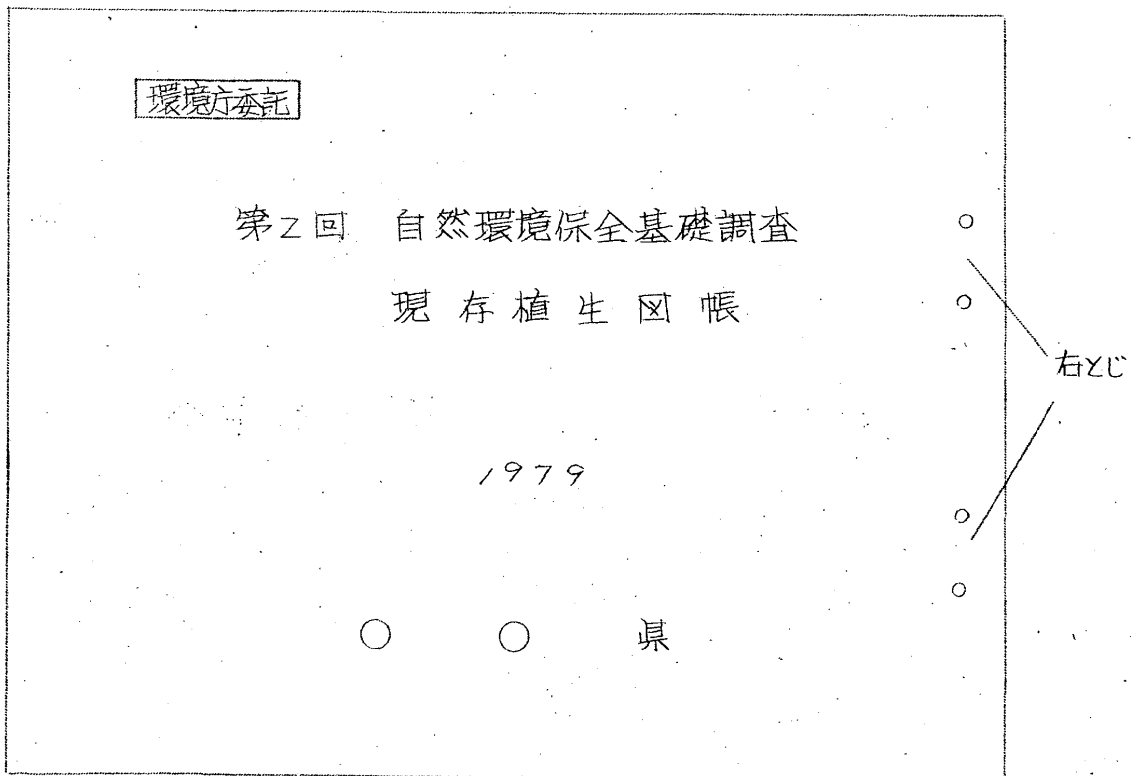
< 別紙 5 >

現存植生図帳作成要領

1. 表紙及び裏表紙

表紙は、国土地理院発行の1/5万地形図の大きさとし、表紙の色、厚さは報告書に準ずる。様式は下図によるものとする。

裏表紙は厚手のボール紙を使用する。



2. 配 列




配列は以下の順とする。

- (1) 表 紙
- (2) 調査対象地域図
- (3) 県植生図凡例一覧表
- (4) 現存植生図(地図番号の順とする。)
- (5) 裏表紙

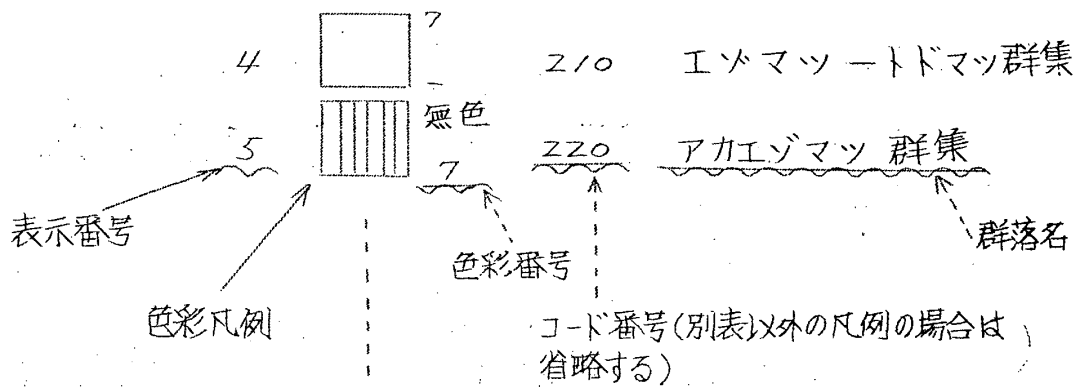
3. 県植生凡例一覧表

- (1) 当該県において使用した凡例の「一覧表」を作成する。
- (2) 「一覧表」には、1/5万地形図と同じ大きさのケント紙を使用する。
- (3) 「一覧表」に掲載する凡例は表示番号の若い順とする。(つまり、別表「植生凡例一覧表」のコード番号の若い順とする。)
- (4) 「一覧表」に、凡例を掲載する際は次の様式によるものとする。


(1) 寒帯・高山帯自然植生

| | | |
|---|---|-------|
| 1 |  | ----- |
| 2 |  | ----- |
| 3 |  | ----- |

(2) 亜寒帯・亜高山帯自然植生



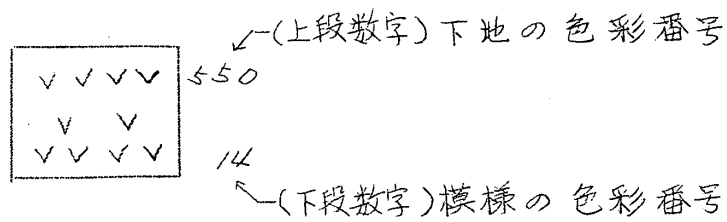
(3) 亜寒帯・亜高山帯代償植生

| | | | | |
|----|---|----------|-----|---------|
| 13 |  | 32 24 | 340 | ダケカンバ群落 |
|----|---|----------|-----|---------|

< 別表 >

植生図凡例一覧表

(注1) 色彩凡例及び色彩番号は次のことを表示している。



(注2) 色彩番号の数字で

2ケタのものは三菱ポリカラー 7500の色鉛筆の番号

3ケタのものは三菱ユニカラーの色鉛筆の番号である。

植生図凡例一覧表




1 寒帯・高山帯自然植生

| 色彩凡例 | 色彩番号 | 群落番号 | コード番号 | 群落名 | 備考 |
|------|----------|------|-------|---------------------------------|----|
| □ | 34 - | 1-1 | 110 | 高山低木群落 | |
| | | (1) | 111 | コケモモ - ハイマツ群集 | |
| | | (2) | 112 | ミネヤナギ群落 (含ミネヤナギ - キツネヤナギ群落) | |
| □ | 524 - | 1-2 | 120 | 高山ハイデ及び風衝草原 | |
| | | (1) | 121 | コメバツガザクラ - ミネズオウ群集 (アオノツガザクラ群団) | |
| | | (2) | 122 | オヤマノエンドウ - ヒゲハリスゲ群集 | |
| | | (3) | 123 | コマクサ - イワツメクサクラス | |
| | | (4) | 124 | フジハタザオ - オンタデ群集 | |
| □ | 13 - | 1-3 | 130 | 雪田草原 | |
| | | (1) | 131 | タカネヤハズハハコ - アオノツガザクラ群集 | |
| | | (2) | 132 | ミヤマイ - ハクサンボウフウ群集 | |
| | | (3) | 133 | タカネヒゴタイ - ミヤマギンバイ群集 | |

| 色彩 凡例 | 色彩 番号 | 群落 番号 | コード 番号 | | 群 落 名 | 備考 |
|----------|----------|------------|-----------|--|-------------------------|----|
| | | 1-3 (4) | 134 | | ショウジョウスゲ - イワイチ ヨウ群集 | |

2 亜寒帯・亜高山帯自然植生













| 色彩凡例 | 色彩番号 | 群落番号 | コード番号 | 群落名 | 備考 |
|---|------------------|------|-------|----------------------------------|----|
|  | 7 - | 2-1 | 210 | エゾマツ - トドマツ群集 | |
|  | 無色 7 | 2-2 | 220 | アカエゾマツ群集 | |
| dot で記入 | | 2-3 | 230 | イナイ - トドマツ群集 | |
|  | 無色 7・32 | 2-4 | 240 | エゾマツ - ダケカンバ群落 | |
|  | 無色 7 | 2-5 | 250 | シラビソ - トウヒ群団 | |
|  | 無色 7 | (1) | 251 | オオシラビソ群集 | |
|  | 無色 7 | (2) | 252 | シラビソ - オオシラビソ群集 (シコクシラベ群集を含む) | |
|  | 無色 7 | (3) | 253 | コメツガ群落 | |
|  | 32 - | 2-6 | 260 | ササ - ダケカンバ群落 | |
|  | 無色 32 | 2-7 | 270 | カラマツ群落 | |
|  | 無色 32・ 536 | 2-8 | 280 | ミヤマハンノキ - ダケカンバ 群集 | |
| | | (1) | 281 | チシマザサ - オクノカンスゲ 群集 | |
| | | (2) | 282 | ミヤマナラ群集 | |








| 色彩凡例 | 色彩番号 | 群落番号 | コード番号 | 群落名 | 備考 |
|---|----------|------|-------|-------------------------------|----|
|  | 無色 32 | 2-9 | 290 | キャラボク群落 | |
|  | 551 - | 2-10 | 2A0 | ミヤマキンポウゲ - ダケカンバ 群落 (高茎草原) | |
|  | 4 14 | 2-11 | 2B0 | ササ自然草原 | |














3 亜寒帯・亜高山帯代償植生


| 色彩凡例 | 色彩番号 | 群落番号 | コード番号 | 群落名 | 備考 |
|---|----------|------|-------|---------------------------|-----|
|  | 4 7 | 3-1 | 310 | ササ群落 | |
|  | 28 24 | 3-2 | 320 | ヒゲノガリヤス群落(含ノガリヤス 属採草地) | |
|  | 28 24 | (1) | 321 | ウシノケグサ群落 | 放牧地 |
|  | 36 31 | 3-3 | 330 | 伐跡群落 | |
|  | 32 24 | 3-4 | 340 | ダケカンバ群落 | |

4 ブナクラス域自然植生

| 色彩凡例 | 色彩番号 | 群落番号 | コード番号 | 群落名 | 備考 |
|---|---------------|------|-------|-------------------------------------|------------|
|  | 540 - | 4-1 | 410 | チシマザサ - ブナ群団 | |
|  | 無色 540 | (1) | 411 | ヒメアオキ - ブナ群集 | |
|  | 無色 540 | (2) | 412 | クロモジ - ブナ群集 | |
|  | 無色 540 | (3) | 413 | マルバマンサク - ブナ群集 | |
|  | 無色 540.544 | (4) | 414 | スギ - ブナ群落 (スギ天然林) | |
|  | 31 - | 4-2 | 420 | スズタケ - ブナ群団 | |
|  | 無色 31 | (1) | 421 | ヤマボウシ - ブナ群集 | |
|  | 無色 31 | (2) | 422 | ツクシシャクナゲ - ブナ群集 | |
|  | 無色 31 | (3) | 423 | イヌブナ群集 | |
|  | 無色 31 | (4) | 424 | オオモミジカサ - ブナ群集 | |
|  | 無色 540.550 | 4-3 | 430 | エゾイタヤ - シナノキ群落 (ミズナラ - イタヤカエデ群落を含む) | |
|  | 無色 31.542 | 4-4 | 440 | ウラジロモミ群落 | できるだけ他に含める |
|  | 544 - | 4-5 | 450 | ヒノキアスナロ群落 | |
| | | (1) | 451 | アスナロ群落 | |

| 色彩凡例 | 色彩番号 | 群落番号 | コード番号 | 群落名 | 備考 | |
|---|-----------|------------------|-------|------------------------------|----|--------------------|
|  | 無色 544 | 4-6 | 460 | ヒノキ群落 | | |
| | | (1) | 461 | ヒノキ - シノブカグマ群集 | | |
| | | (2) | 462 | ヒノキ - シャクナゲ群集 | | |
| | | (3) | 463 | コキンレイカ - ヒノキ群集 | | |
|  | 無色 544 | 4-7 | 470 | クロベ - ヒメコマツ群落 | | |
| | | (1) | 471 | コウヤマキ - ヒカゲツツジ群落 | | |
| (2) | 472 | アカミノイヌツゲ - クロベ群集 | | | | |
|  | 無色 544 | 4-8 | 480 | アカマツ群落 | | |
|  | 5 536 | 4-9 | 490 | ジュウモンジシダ - サワグルミ群落 (カツラ林を含む) | | |
|  | 5 536 | 4-10 | 4A0 | ミヤマクマワラビ - シオジ群集 | | |
| | | | (1) | 4A1 | | オヒョウ - タイミンカサモドキ群集 |
|  | 5 536 | 4-11 | 4B0 | ハルニレ群集 | | |
|  | 無色 536 | 4-12 | 4C0 | ヤナギ高木群落 | | |
| | | | (1) | 4C1 | | ドロノキ - オオバヤナギ群落 |
| | | | (2) | 4C2 | | ケショウヤナギ群落 |

| 色彩凡例 | 色彩番号 | 群落番号 | コード番号 | 群落名 | 備考 |
|---|-----------|------|-------|--|---------------------------------|
|  | 無色 536 | 4-13 | 4D0 | ヤナギ低木群落(オノエヤナギ - エゾノキヌヤナギ群落などを 含む) | |
|  | 無色 536 | 4-14 | 4E0 | ハンノキ - ヤチダモ群集 | |
|  | 無色 536 | 4-15 | 4F0 | ハンノキ群落 | |
|  | 無色 536 | 4-16 | 4G0 | ヤマハンノキ群落(ケヤマハン ノキ含む) | |
|  | 550 - | 4-17 | 4H0 | 自然低木群落 | 海岸風衝地 帯のカシワ林 など なだれ低木林 |
|  | 無色 550 | (1) | 4H1 | ミズナラ - リョウブ群集 (ニシキウツギ群落を含む) | |
|  | 無色 550 | (2) | 4H2 | カシワ群落 | |
|  | 無色 550 | (3) | 4H3 | ヒメヤシャブシ - タニウツギ 群落 | |
|  | 無色 550 | (4) | 4H4 | ミヤマキリシマ - マイズルソ ウ群集 | |
|  | 無色 550 | (5) | 4H5 | コメツツジ群落 | |
|  | 552 - | 4-18 | 4I0 | 自然草原 | 風衝草原 崩壊地 |
|  | 無色 552 | (1) | 4I1 | コジアカショウマ - シモツケ ソウ群集 | |
|  | 無色 552 | (2) | 4I2 | フジアザミ - ヤマホタルブク 口群集 | |

| 色彩凡例 | 色彩番号 | 群落番号 | コード番号 | | 群 落 名 | 備考 |
|---|-----------|------|-------|--|--------|----|
|  | 550 14 | 4-19 | 4J0 | | イヌシデ群落 | |
|  | 550 14 | 4-20 | 4K0 | | イワシデ群落 | |

5 ブナクラス域代償植生














| 色彩凡例 | 色彩番号 | 群落番号 | コード番号 | 群落名 | 備考 |
|---|-----------|------|-------|--------------------|--------|
|  | 550 24 | 5-1 | 510 | ブナ - ミズナラ群落 | ブナの再生林 |
|  | 550 24 | 5-2 | 520 | ミズナラ - カシワ - コナラ群落 | 火山灰台地 |
|  | 550 24 | 5-3 | 530 | クリ - ミズナラ群落 | |
|  | 550 24 | 5-4 | 540 | アカシデ - イヌシデ群落 | |
|  | 550 24 | 5-5 | 550 | シラカンバ群落 | |
|  | 550 24 | (1) | 551 | シラカンバ - ササ群落 | |
|  | 550 24 | (2) | 552 | シラカンバ - レンゲツツジ群落 | |
|  | 544 24 | 5-6 | 560 | アカマツ群落 | |
|  | 552 24 | 5-7 | 570 | ニシキウツギ - ノリウグチ群落 | |
|  | 552 24 | 5-8 | 580 | ツクシウツギ - ノリウツギ群落 | |
|  | 4 24 | 5-9 | 590 | ササ草原 | |
|  | 4 24 | (1) | 591 | ミヤコザサ群落 | |
|  | 4 24 | (2) | 592 | チシマザサ - クマイザサ群落 | |






| 色彩凡例 | 色彩番号 | 群落番号 | コード番号 | 群落名 | 備考 |
|---|--------------|------|-------|-----------------------|--------|
|  | 4 | 5-9 | | | |
| | 24 | (3) | 593 | ハコネダケ群落 | |
|  | 4 | | | | |
| | 24 | (4) | 594 | ヤクザサ群落 | |
|  | 28 | 5-10 | 5A0 | ススキ草原 | |
| | 5 | (1) | 5A1 | ススキ - エゾヤマハギ群落 | |
| | | (2) | 5A2 | カワラマツバ - ススキ群落 | |
| | | (3) | 5A3 | ススキ - ホクチアザミ群落 | |
|  | 27 | 5-11 | 5B0 | シバ草原 | |
| | 24 | | | | |
|  | 27 | 5-12 | 5C0 | ナガハグサ群落 | 放牧地 |
| | 24 | | | | |
|  | 27 | 5-13 | 5D0 | ヒオウギアヤメ - ノハナショウブ群落 | 原生花園 |
| | 24 | | | | |
|  | 36 | 5-14 | 5E0 | 伐跡群落 | |
| | 5 | (1) | 5E1 | ヤナギラン群集 | |
| | | (2) | 5E2 | タラノキ - クマイチゴ群落 | |
|  | 無色 515.24 | 5-15 | 5F0 | オオアワダチソウ - オオハンゴンソウ群落 | 帰化雑草群落 |

6 ヤブツバキクラス域自然植生

| 色彩凡例 | 色彩番号 | 群落番号 | コード番号 | 群落名 | 備考 |
|---|------------|-------------------|-------------------|--------------------------------------|---------------------------|
|  | 542 551 | 6-1 | 610 | モミ - シキミ群集 | |
|  | 542 551 | 6-2 (1) | 620 621 | ツガ - コカンスゲ群集 タカサゴキジノオ - ツガ群集 | |
|  | 542 517 | 6-3 | 630 | ヒメアオキ - ウラジログシ群集 | 裏日本 |
|  | 542 517 | 6-4 | 640 | サカキ - ウラジログシ群集 | 表日本スダジイ コジイ、ツガ、モミを含まない |
|  | 542 517 | (1) | 641 | イスノキ - ウラジログシ群集 | |
|  | 542 551 | 6-5 | 650 | ケヤキ群落 | ヤマモミジ - ケヤキ群落 |
|  | 542 14 | 6-6 (1) (2) | 660 661 662 | アラカシ群落 アラカシ - ナンテン群集 アマミアラカシ群落 | |
|  | 542 14 | 6-7 | 670 | マテバシイ群落 | 日本海沿い |
|  | 542 14 | 6-8 | 680 | イチイガシ群落 | |
|  | 542 14 | 6-9 | 690 | シラカシ群集 | 他のシラカシ林を含む |

| 色彩凡例 | 色彩番号 | 群落番号 | コード番号 | 群落名 | 備考 |
|------|-----------|------|-------|---------------------|---------|
| | 542 14 | 6-10 | 6A0 | サカキ - コジイ群集 | 花崗岩地帯 |
| | 542 14 | 6-11 | 6B0 | シイモチ - シリブカガシ群集 | シリブカガシ林 |
| | 542 14 | 6-12 | 6C0 | ホルトノキ群落 | |
| | 6 - | 6-13 | 6D0 | スダジイ群落 | 伊豆七島 |
| | 無色 6 | (1) | 6D1 | ヤブコウジ - スダジイ群集 | |
| | 無色 6 | (2) | 6D2 | ミミズバイ - スダジイ群集 | |
| | 無色 6 | (3) | 6D3 | オオシマカンスゲ - スダジイ群集 | |
| | 無色 6 | (4) | 6D4 | ホンバカナワラビ - スダジイ群集 | |
| | 無色 6 | (5) | 6D5 | リュウキュウアオキ - スダジイ群集 | |
| | 無色 6 | (6) | 6D6 | アマミテンナンショウ - スダジイ群集 | |
| | 6 517 | (7) | 6D7 | ケハダルリミノキ - スダジイ群集 | |
| | 6 517 | (8) | 6D8 | オキナワシキミ - スダジイ群集 | |
| | 6 517 | (9) | 6D9 | アオバナハイノキ - スダジイ群集 | |
| | 6 517 | (10) | 6DA | ヤクシマアジサイ - スダジイ群集 | |
| | 6 517 | (11) | 6DB | オキナワウラジロガシ群集 | |

| 色彩凡例 | 色彩番号 | 群落番号 | コード番号 | 群落名 | 備考 |
|---|-----------|------|-------|----------------------|--------------------------|
|  | 6 14 | 6-14 | 6E0 | タブ群落 | |
|  | 6 14 | (1) | 6E1 | イノデ - タブ群集 | |
|  | 6 14 | (2) | 6E2 | ムサシアブミ - タブ群落 | |
|  | 6 14 | 6-15 | 6F0 | カゴノキ群落 | ハカタシダ 区分種 |
|  | 6 14 | 6-16 | 6G0 | ホソバタブ群落 | |
|  | 18 - | 6-17 | 6H0 | ウメバガシ群落 | |
|  | 無色 18 | (1) | 6H1 | ウメバガシ - トベラ群集 | |
|  | 無色 18 | (2) | 6H2 | マサキ - トベラ群集 | |
|  | 無色 18 | (3) | 6H3 | オニヤブソテツ - ハマビワ 群集 | |
|  | 無色 38 | 6-18 | 6I0 | アカマツ群落 | 明瞭に自然植 生と判定され るもの |
|  | 無色 38 | 6-19 | 6J0 | クロマツ群落 | 常緑広葉樹を ほとんど含ま ないもの |
|  | 無色 536 | 6-20 | 6K0 | タマアジサイ - フサザクラ群集 | 一部ブナ林域 にも分布 |
|  | 無色 536 | 6-21 | 6L0 | ハンノキ群落 | |

| 色彩凡例 | 色彩番号 | 群落番号 | コード番号 | 群落名 | 備考 |
|---|-----------|--------------------|-------------------|---|----|
|  | 無色 536 | 6-22 (1) (2) | 6M0 6M1 6M2 | 河辺ヤナギ低木群落（河辺 低木林を含む） ネコヤナギ - タチヤナギ群落 カワラハンノキ群落 | |
|  | 14 - | 6-23 | 6N0 | ソテツ群落 | |
|  | 無色 536 | 6-24 | 600 | ビロウ群落 | |
|  | 無色 536 | 6-25 | 6P0 | クスノハカエデ - ナガミボチヨ ウジ群落 | |
|  | 無色 14 | 6-26 | 6Q0 | マングローブ群落 | |





7 ヤブツバキクラス域代償植生















| 色彩凡例 | 色彩番号 | 群落番号 | コード番号 | 群落名 | 備考 |
|---|----------|------|-------|----------------------|----|
|  | 19 - | 7-1 | 710 | コナラ群落 | |
|  | 無色 19 | (1) | 711 | クヌギ - コナラ群集 | |
|  | 無色 19 | (2) | 712 | ヤブムラサキ - コナラ群集 | |
|  | 無色 19 | (3) | 713 | オニシバリ - コナラ群集 | |
|  | 19 6 | 7-2 | 720 | シイ・カシ萌芽林 | |
|  | 19 6 | (1) | 721 | ハクサンボク - マテバシイ群落 | |
|  | 36 6 | 7-3 | 730 | 伐跡群落 | |
| | | (1) | 731 | ベニバナボロギク - ダンドボロギク群落 | |
| | | (2) | 732 | クサイチゴ - タラノキ群集 | |
|  | 4 - | 7-4 | 740 | ササ・タケ群落 | |
|  | 無色 4 | (1) | 741 | ヤダケ - メダケ群落 | |
|  | 無色 4 | (2) | 742 | ダンチク群落 | |
|  | 無色 4 | (3) | 743 | リュウキュウチク群落 | |
|  | 無色 4 | (4) | 744 | ホウライチク - ゴキダケ群落 | |

| 色彩凡例 | 色彩番号 | 群落番号 | コード番号 | 群落名 | 備考 |
|---|-----------|------|-------|----------------|----|
|  | 無色 19 | 7-5 | 750 | ギンネム群落 | |
|  | 28 - | 7-6 | 760 | ススキ群落 | |
|  | 28 24 | (1) | 761 | ネザサ - ススキ群集 | |
|  | 28 24 | (2) | 762 | アズマネザサ - ススキ群集 | |
|  | 28 24 | (3) | 763 | チガヤ - ススキ群落 | |
|  | 27 - | 7-7 | 770 | シバ群団 | |
|  | 27 24 | 7-8 | 780 | ハイキビ群団 | |
|  | 515 - | 7-9 | 790 | 路傍雑草群落 | |
|  | 515 24 | (1) | 791 | クズ - カナムグラ群落 | |
|  | 515 24 | (2) | 792 | セイタカアワダチソウ群落 | |
|  | 515 24 | (3) | 793 | ヨモギ群落 | |
|  | 38 - | 7-10 | 7A0 | アカマツ群落 | |
|  | 38 14 | (1) | 7A1 | ヤマツツジ - アカマツ群集 | |

| 色彩凡例 | 色彩番号 | 群落番号 | コード番号 | | 群落名 | 備考 |
|---|----------|-------------|-------|--|--------------------|----|
|  | 38 | 7-10 (2) | 7A2 | | オンツツジ - アカマツ群集 | |
| | 14 | | | | | |
|  | 38 | (3) | 7A3 | | モチツツジ - アカマツ群集 | |
| | 14 | | | | | |
|  | 38 | (4) | 7A4 | | コバノミツバツツジ - アカマツ群集 | |
| | 14 | | | | | |
|  | 38 24 | 7-11 | 7B0 | | クロマツ群落 | |













8 河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生（各クラス域共通）














| 色彩凡例 | 色彩番号 | 群落番号 | コード番号 | 群落名 | 備考 |
|---|-----------|------|-------|-------------------------|-------|
|  | 11 - | 8-1 | 810 | ツルコケモモ・ミズゴケクラス（高層湿原） | |
|  | 12 - | 8-2 | 820 | ヌマガヤオーダー（中間湿原） | |
|  | 10 - | 8-3 | 830 | ヨシクラス（低層湿原・セイコノヨシを含む） | |
|  | 無色 33 | 8-4 | 840 | ウキクサクラス・ヒルムシロクラス | |
|  | 33 - | 8-5 | 850 | ツルヨシ群落 | |
|  | 無色 33 | 8-6 | 860 | オギ群集 | |
|  | 538 - | 8-7 | 870 | 塩沼地植生 | |
|  | 無色 538 | (1) | 871 | アマモクラス（沖縄ではウミショウブ群落を含む） | |
|  | 無色 538 | (2) | 872 | アツケシソウ・シバナ群落 | |
|  | 無色 538 | (3) | 873 | ハママツナ・ハマサジ群落 | |
|  | 無色 538 | 8-8 | 880 | ハマボウ群落 | 種子島まで |







| 色彩凡例 | 色彩番号 | 群落番号 | コード番号 | 群落名 | 備考 |
|---|----------|------|-------|--|----|
|  | 17 - | 8-9 | 890 | 砂丘植生 | |
|  | 17 24 | (1) | 891 | ハマニンニク - コウボウムギ群落 | |
|  | 17 24 | (2) | 892 | ハマグルマ - コウボウムギ群集 | |
|  | 17 24 | (3) | 893 | ハマグルマ - ハマゴウ群集 (テリハノイバラ - チガヤ群落を含む) | |
|  | 17 24 | (4) | 894 | ハマナス群落 | |
|  | 17 24 | (5) | 895 | オカヒジキ - ハマベンケイソウ群落 | |
|  | 17 24 | (6) | 896 | グンバイヒルガオ - クロイワザサ群落 | |
|  | 8 - | 8-10 | 8A0 | ハチジョウススキ群落 | |
|  | 無色 3 | (1) | 8A1 | イソギク - ハチジョウススキ群集 | |
|  | 無色 3 | (2) | 8A2 | キノクニシオギク - アゼトウナ群集 | |
|  | 無色 3 | (3) | 8A3 | ノジギク群落 | |
|  | 無色 3 | (4) | 8A4 | シオギク群落 | |
|  | 無色 3 | (5) | 8A5 | サツマノギク - ハチジョウススキ群集 | |
|  | 無色 3 | (6) | 8A6 | オキナワギク - ハチジョウススキ群集 | |


| 色彩凡例 | 色彩番号 | 群落番号 | コード番号 | 群落名 | 備考 |
|---|----------|---------------------------|--------------------------|--|----|
|  | 無色 3 | 8-12 | 8C0 | コハマギク - コシカギク群落 | |
|  | 無色 3 | 8-13 | 8D0 | コウライシバ群落 | |
|  | 517 - | 8-14 (1) (2) (3) | 8E0 8E1 8E2 8E3 | 隆起珊瑚礁植生 イソマツ - モクビヤツコウ 群集 クサトベラ - モンバノキ群集 アダン - オオハマボウ群落 | |

9 植林地・耕作地植生（各クラス共通）








| 色彩凡例 | 色彩番号 | 群落番号 | コード番号 | 群落名 | 備考 |
|---|-----------|------|-------|--------------|-------------|
|  | 無色 560 | 9-1 | 910 | 常緑針葉樹植林 | |
|  | 560 - | (1) | 911 | アカマツ植林 | |
|  | 563 - | (2) | 912 | クロマツ植林 | |
|  | 30 - | (3) | 913 | スギ・ヒノキ・サウラ植林 | |
|  | 無色 30 | (4) | 914 | エゾマツ植林 | |
|  | 無色 30 | (5) | 915 | トドマツ植林 | |
|  | 無色 30 | (6) | 916 | アカエゾマツ植林 | |
|  | 無色 30 | (7) | 917 | ウラジロモミ植林 | |
|  | 無色 30 | (8) | 918 | リュウキュウマツ植林 | |
|  | 無色 30 | (9) | 919 | モクマオウ植林 | |
|  | 無色 30 | 9-2 | 920 | 落葉針葉樹植林 | |
|  | 30 24 | (1) | 921 | カラマツ植林 | |
|  | 30 24 | 9-3 | 930 | 外国産針葉樹植林 | ドイツウ ヒなど |

| 色彩凡例 | 色彩番号 | 群落番号 | コード番号 | 群落名 | 備考 |
|---|-----------|------|-------|----------|--------------|
|  | 無色 568 | 9-4 | 940 | 常緑広葉樹植林 | |
|  | 568 - | (1) | 941 | クスノキ植林 | |
|  | 無色 568 | (2) | 942 | マテバンイ植林 | |
|  | 無色 568 | (3) | 943 | ソウンジュ植林 | |
|  | 568 24 | 9-5 | 950 | 落葉広葉樹植林 | |
|  | 568 24 | (1) | 951 | ニセアカシア植林 | |
|  | 568 24 | 9-6 | 960 | 外国産広葉樹植林 | 西洋トネリコ、ポプラなど |
|  | 無色 568 | 9-7 | 970 | 竹林 | |
|  | 無色 568 | (1) | 971 | モウソウチク林 | |
|  | 無色 568 | (2) | 972 | マダケ・ハチク林 | |
|  | 無色 20 | 9-8 | 980 | 常緑果樹園 | |
|  | 無色 20 | 9-9 | 990 | 落葉果樹園 | |
|  | 無色 20 | 9-10 | 9A0 | 桑園 | |

| 色彩凡例 | 色彩番号 | 群落番号 | コード番号 | 群落名 | 備考 |
|---|----------|---|--|---|----|
|  | 無色 20 | 9-11 | 9B0 | 茶畑 | |
|  | 無色 20 | 9-12 | 9C0 | 苗圃 | |
|  | 20 - | 9-13 (1) (2) (3) (4) (5) | 9D0 9D1 9D2 9D3 9D4 9D5 | 畑地 ナギナタコウジュ - ハチジョ ウナ群集 カラスビシャク - ニシキソウ 群集 コミカンソウ - ウリクサ群集 ハマクワガタ - ルリハコベ 群集 ハマニシキソウ - ハリビユ 群集 | |
|  | 20 24 | 9-14 | 9E0 | ヒメムカシヨモギ - オオアレチ ノギク群落 | |
|  | 20 24 | 9-15 (1) (2) (5) | 9F0 9F1 9F2 9F5 | 牧草地（人工草地） ゴルフ場 飛行場 採草地 | |
|  | 8 - | 9-16 | 9G0 | 水田 | |

| 色彩 凡例 | 色彩 番号 | 群落 番号 | コード 番号 | | 群 落 名 | 備考 |
|---|----------|----------|-----------|--|-------|----|
|  | 無色 8 | 9-17 | 9H0 | | 休耕田 | |

10 その他

| 色彩凡例 | 色彩番号 | 群落番号 | コード番号 | 群落名 | 備考 |
|---|-----------|------|-------|-------------------|----------------------------|
|  | 23 - | 10-1 | A10 | 市街地 | |
|  | 23 5 | 10-2 | A20 | 緑の多い住宅地（緑被率60%以上） | |
|  | 23 24 | 10-3 | A30 | 工場地帯 | |
|  | 23 11 | 10-4 | A40 | 造成地 | 人間による裸地、コンクリート地、工場用埋立地を含む。 |
|  | 23 538 | 10-5 | A50 | 干拓地 | |
|  | 無色 10 | 10-6 | ・ | 開放水域 | |
|  | 無色 552 | 10-7 | A70 | 自然裸地 | 人間によらない裸地 |

第 2 回自然環境保全基礎調査要綱

第 12 湖沼調査

1979

環境庁自然保護局

第 12 湖沼調査

目 次

| | |
|-----------------|----|
| 湖沼調査要綱 | 2 |
| 別紙 1 湖沼調査実施要領 | 7 |
| 様式 1 湖沼概要調査票 | 21 |
| 様式 2 透明度調査票 | 27 |
| 様式 3 湖沼調査図 | 35 |
| 様式 4 湖沼改変状況調査票 | 41 |
| 様式 5 魚類調査総括表 | 44 |
| 別紙 2 報告書作成要領 | 47 |
| 別紙 3 湖沼調査図帳作成要領 | 58 |
| 別表 1 調査対象湖沼一覧 | 61 |
| 別表 2 特定湖沼一覧 | 77 |
| 別表 3 魚類分類表 | 78 |

湖 沼 調 査 要 綱

1 調査目的及び調査概要

わが国の天然湖沼については、近年、富栄養化・汚水の流入等による水質の悪化、埋立・干拓等による消失・湖岸の開発等による生物の生息環境の悪化、レクリエーション資源としての価値の低下等、天然湖沼の自然性の消失が問題とされているが、保全のための継続的・体系的調査はほとんどなされていないのが現状である。

このため、本調査においては、天然湖沼の自然性の消失を監視し、その保全を図るために、全国の天然湖沼を対象に、水質の総合指標であり、それ自体、価値の高いレクリエーション資源でもある透明度をはじめ、湖岸の改変状況等を調査する。また、代表的な 61 湖沼については、さらに魚類相についても調査する。

2 調査実施者

国が都道府県に委託して実施する。各都道府県の調査分担は、別表 1「調査対象湖沼一覧」に示す。

3 調査対象湖沼

別表 1 「調査対象湖沼一覧」に示す天然湖沼について調査する。

なお、その他の天然湖沼で面積 1 ha 以上のものは調査対象としてさしつかえない。

4 調査実施期間

契約締結の日から昭和 55 年 3 月 31 日までとする。

5 調査内容及び調査方法

下記の事項について調査する。なお、調査方法の詳細は別紙 1 「湖沼調査実施要領」による。

(1) 別表 1 に示す湖沼については次の事項を調査する。

ア 湖沼概要

既存資料により次の項目について調査し、湖沼の概要を把握する。

保全地域の指定状況、鳥獣保護区の設定状況、位置、成因、湖沼型、水面標高、面積、最大水深、平均水深、容積、湖岸線延長、水位変動、水温、結氷の有無、流入流出河川数、埋立干拓面積、水質、湖沼の利用状況、生物相の概要等、

イ 透明度調査

現地調査を実施し、透明度、水温、PH、DO等
について測定する。

ウ 湖沼の改変状況

現地を観察することにより、湖沼の改変状況を次の項目について調査する。

- (ア) 湖岸地先における挺水植物群落の有無
- (イ) 湖岸の改変状況
- (ウ) 湖岸の土地利用状況
- (エ) 湖岸の保全地域の指定状況
- (オ) 湖岸の建築物等の状況
- (カ) 埋立・干拓の状況

- (2) 別表2「特定湖沼一覧」に示す湖沼(以下「特定湖沼」という。)については、上記(1)のア、イ、ウに加え、魚類の生息状況等について次の事項を調査する。

この調査は、各種資料の収集・整理及び漁協等からの聞き取りにより実施する。

- ア 生息する魚種名(エビ類、貝類を含む。)
- イ 漁獲量
- ウ 放流量
- エ 天然繁殖の有無

オ 魚類相に関する調査記録

6 調査結果のとりまとめ

受託者は調査結果を下記の図票等にとりまとめる。

(1) 湖沼概要調査票

湖沼概要について調査した結果は、「湖沼概要調査票」(様式1)にとりまとめる。

(2) 透明度調査票

透明度等について調査した結果は、「透明度調査票」(様式2)にとりまとめる。

(3) 湖沼調査図

湖沼の改変状況等について調査した結果は、「湖沼調査図」(様式3)にならい国土地理院発行の1/2.5万地形図(1/2.5万地形図が未発行の場合は、1/5万地形図、以下同じ)にとりまとめる。

(4) 湖沼改変状況調査票

湖沼の改変状況等について調査した結果は、「湖沼改変状況調査票」(様式4)にとりまとめる。

(5) 魚類調査総括表

魚類の生息状況等について調査した結果は、「魚類

調査総括表」(様式5)にとりまとめる。

7 調査結果の報告

受託者は、調査結果をとりまとめ、報告書150部及び湖沼調査図帳1部を、それぞれ別紙2「報告書作成要領」、別紙3「湖沼調査図帳作成要領」により作成し、昭和55年3月31日までに環境庁自然保護局長あて提出する。

<別紙 1 >

湖 沼 調 査 実 施 要 領

1 通 則

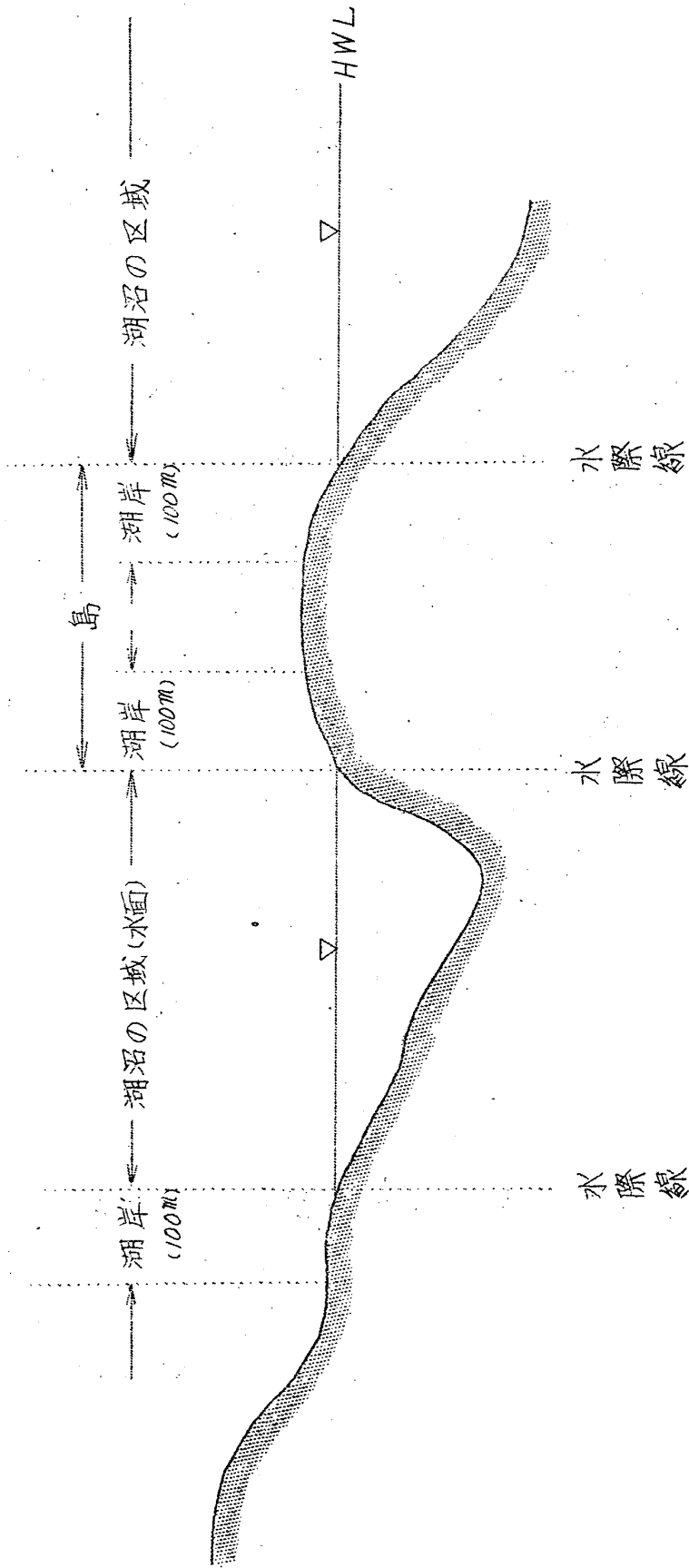
第 2 回自然環境保全基礎調査湖沼調査は、この実施要領に従って行うこととし、その調査内容は次のとおりとする。

- (1) 湖沼概要調査
- (2) 透明度調査
- (3) 湖沼改変状況調査
- (4) 魚類調査 (特定湖沼のみ)

2 湖沼等の定義

- (1) この調査で「湖沼の区域」とは、最高の水位の時の静水面の広がっている区域をいう。(したがって流入流出する河川の区域を含まない。)
- (2) 「水際線」とは、最高の水位における水面が陸地と接する部分をいう。
- (3) 「湖岸」とは、水際線より陸側 100mの区域をいう。

(参考)



3 湖沼概要調査

別表 1 に示す調査対象湖沼の概要を把握するため、各種資料等により、次の事項について調査し、「湖沼概要調査票」(様式 1)を作成する。

また、湖沼全体の状況が把握できる写真を撮影する。

(写真は「湖沼概要調査票」裏面に貼付する。)

(1) 関係市町村名

当該湖沼が所在する市町村名を調べる。

(2) 保全地域の指定

当該湖沼の区域、島及び湖岸のそれぞれにおいて、自然公園、自然環境保全地域等(以下「保全地域」という。)が指定されている場合には、その地域地区区分を次のコード番号で示す。2以上の地域地区区分がある場合は、そのすべてのコードを示す。

| 地域地区区分 | | コード |
|------------|--------|-----|
| 国立公園 | 特別保護地区 | 11 |
| | 特別地域 | 12 |
| | 普通地域 | 13 |
| 国定公園 | 特別保護地区 | 21 |
| | 特別地域 | 22 |
| | 普通地域 | 23 |
| 県立自然公園 | 特別地域 | 32 |
| | 普通地域 | 33 |
| 原生自然環境保全地域 | | 41 |
| 自然環境保全地域 | 特別地区 | 52 |
| | 普通地区 | 53 |
| 県自然環境保全地域 | 特別地区 | 62 |
| | 普通地区 | 63 |

(3) 鳥獣保護区設定状況

当該湖沼の区域、島及び湖岸のそれぞれにおいて、
鳥獣保護区の設定状況を調べ、次により区分し、コード
で示す。

| 区 分 | | コード |
|-------------|--------------|-----|
| 鳥獣保護区の設定がない | | 0 |
| 鳥獣保護区の設定がある | 特別保護地区の指定がない | 1 |
| | 特別保護地区の指定がある | 2 |

(4) 位 置

当該湖沼の湖心の緯度、経度を 1/2.5 万地形図より調べる。緯度、経度は、四捨五入により「度」、「分」まで表示する。

(5) 成 因

当該湖沼の成因を次により区分して示す。

| |
|---|
| 断 層 湖.....断層によってできた凹地に水をたたえたもの |
| カルデラ湖.....土地が鍋状に陥没して、その落ちこんだ凹地に水をたたえたもの |

| |
|---|
| 火山湖.....火口、火口原に水をたたえたもの (カルデラ湖をのぞく) |
| 堰止湖.....河谷、凹地が種々の要因でせきとめ られて生じたもの(海跡湖をのぞく) |
| 海跡湖.....かつて海であったところが湖になっ たもの |
| その他 |
| 不 明 |

(6) 湖沼型

当該湖沼の湖沼型を次により区分する。また、汽水湖

淡水湖の区別を行う。

| |
|-----------|
| 富 栄 養 湖 |
| 中 栄 養 湖 |
| 貧 栄 養 湖 |
| 酸 栄 養 湖 |
| 鉄 栄 養 湖 |
| 腐 植 栄 養 湖 |

(7) 水面標高

地形図等の各種資料により、最近の最も信頼できる数値を採択するものとし、単位はm（小数点以下第1位を四捨五入する。以下同様）で表わす。

関連資料がない場合は、1/2.5万地形図の陸岸付近の標高により推定する。

また、採択したデータの出所を明らかにする。

(8) 面 積

「湖沼の区域」の面積を原則として国土数値情報湖沼一覧表に示す数値（昭和50年10月現在の1/2.5万地形図上で、国土地理院が測定機により計測したもの）で示す。ただし、埋立・干拓等のため、その数値が適当でない場合には点格子板により図上で計測する。なお、この際、湖沼内に島がある場合は、島の面積を除いたものを湖沼面積とし、単位は km^2 で小数第2位まで示す。

また、採択したデータの出所を明らかにする。点格子板により計測した場合は「データの出所」欄に「点格子板」と略記する。

(9) 最大水深・平均水深・容積

地形図等の各種資料により、最近の最も信頼できる数値を採択するものとし、単位はmで少数第1位まで示す。(容積については、単位は km^3 で小数点以下は適宜取扱う。)最近の資料がない場合は、特に支障のない限り「Morphometric Feature and Classification of all the Lakes in Japan (本邦全湖沼の湖盆形態の特徴及びその分類)」Shoji Horie (堀江正治 (1962)) に記載されている数値によるものとする。

また、採択したデータの出所を明らかにする。

(10) 湖岸線延長

「湖沼の区域」の外周線の延長(河口部、海への開口部の延長も含む)を計測し、単位はkmで少数第1位まで示す。なお、湖沼内に島がある場合は、島岸延長も湖岸線延長に含める。

また、この場合、「データの出所」欄に計測方法を例えば「キルビ」というように略記する。

(11) 水位変動

人為によって水位の変動がある場合は、年間におけ

る水位変動幅を単位はmで少数第1位まで示すととも
に水位変動の主たる原因となっている行為について
次の例示により具体的に示す。長年のデータの蓄積が
ある場合は、過去5年間（S49～S53）の年平均値
を示す。

また、採択したデータの出所を明らかにする。

| |
|---------------|
| 発 電 用 取 水 |
| 農 業 用 取 水 |
| 水 産 用 取 水 |
| 工 業 用 水 用 取 水 |
| 飲 料 用 水 用 取 水 |
| その他（具体的に） |

（12） 水 温

各種資料により、表水面及び底層におけるそれぞれの
の年間の最低水温、最高水温及び測定水深を、たとえば
「0m 5.6～25.7」「17m 4～8」という
ように単位は で少数第1位まで示す。長年のデー
タの蓄積がある場合は、最も湖心に近い測定点におけ
る過去5年間（S49～S53）の平均最低（及び最高）

水温を示す。関連資料がない場合は表示する必要はない。

また、採択したデータの出所を明らかにする。

(13) 結 氷

結氷（湖面の全面凍結）の有無及び結氷期間を調べ、次の例になら示す。

（例）

| | 記 入 例 |
|---------------|-----------|
| ① 例年結氷が見られる場合 | 有（12月～2月） |
| ② 通常は結氷しない場合 | 無 |

(14) 流入河川数・流出河川数

通常、年間を通じて水流のある河川本数を、流入、流出別に調べる。

(15) 埋立・干拓面積

1945年以後、埋立または干拓された区域を「湖沼調査図」（様式3）に図示し、その面積を点格子板により測定し、単位は km^2 で少数第2位まで示す。

（面積については、「沖出し幅×延長」で算出してもさしつかえない。）

(16) 水 質

当該湖沼の水質に関し、既存資料により次の項目について調べる。多くの測定結果がある場合には、表面水に関するものであって、最近の夏期におけるデータのうち、最も湖心に近い測定点での数値を採用するものとする。なお、同一日に同一測定点で2検体以上測定している場合は、平均値をもって当該測定点の測定値とする。

また、採択したデータの出所及び測定年月を明らかにする。

過去10年間にさかのぼって水質に関する資料
が得られない場合は、表示されなくてもさしつかえない。

- ア PH
- イ DO
- ウ COD
- エ TOC
- オ SS
- カ Cl⁻
- キ ケルダールN

ク NO₂ - N

ケ NO₃ - N

コ T-P

サ 大腸菌群数

(17) 透明度

各種資料により当該湖沼に係る透明度に関するデータを調べ、単位はmで小数第1位まで示す。なお、多く測定値がある場合には、同一年においては最高の透明度を示す測定値を採択する等可能な限り長期にわたる経年変化がわかるよう適宜取捨選択する。関連資料がない場合は、表示する必要はない。

また、採択したデータの出所及び測定年月日（西暦）を明らかにする。

(18) 湖沼の利用状況

当該湖沼においてどのような利用状況が見られるかについて、次の例示により示す。2以上記入してもさしつかえない。

ア 水 浴

イ 魚 釣

ウ 氷上釣

- エ スケート
- オ 手こぎボート
- カ モーターボート
- キ 遊覧船
- ク 漁 業
- ケ 養 殖

(19) 水辺環境における不快要因

「ゴミ等の堆積」「湖水の悪臭」「アオコの発生」
「湖沼周辺の乱開発」等、当該湖沼及びその周辺において水辺環境として非常に不快感を生じさせている事例があれば、具体的に示す。

(20) 夏期における生物相

各種資料により、当該湖沼の夏期における生物相の概要を示すため、次の生物群ごとに優占種数種をリストする。(ただし水鳥については冬期の状況を示す。)
夏期以外の時期における資料による場合は、その種が優占する時期を明記する。関連資料がない場合は記入する必要はない。

- ア 挺水植物
- イ 浮葉植物

- ウ 沈水植物
- エ 植物性プランクトン
- オ 動物性プランクトン
- カ 底生動物
- キ 魚 類
- ク 水 鳥（ガン、カモ、ハクチョウ等の水鳥の渡来が多いか少ないかをできるだけコメントする。）

なお、別紙2「報告書作成要領」に従い湖沼調査報告書を作成するに際し、別表1に掲載されていない面積0.01km²以上の天然湖沼のリストを作成することになるので、その湖沼名位置、水面標高、面積を調べておくこと。

(様式1) 湖沼概要調査票

地形図名(1/2.5万) 桐生

| 湖沼概要調査票 | | | | 調査年度 | 1979 |
|--------------------|-------------------|------------|--|-------|-------|
| | | | | 都道府県 | |
| 湖沼番号 | 湖(ワリ)沼(かき)名 | 成因 | 湖沼型 | 位置 | |
| | | | 汽水 | N ° , | E ° , |
| 関係市町村名 | | | 保全地域 | | 鳥獣保護区 |
| | | | 湖沼 | 島 | 湖岸 |
| 調査項目 | 測定値 | テ-タ出所 | の原因 水位変動 湖沼利用状況 の原因 水辺環境における 要因 夏期の生物相の概要 挺水植物 浮葉植物 沈水植物 植物性プランクトン 動物性プランクトン 底生動物 魚類 水鳥(冬) | | |
| 水面標高 | M | | | | |
| 面積 | KM ² | | | | |
| 最大水深 | M | | | | |
| 平均水深 | M | | | | |
| 容積 | KM ³ | | | | |
| 湖岸線延長 | KM | | | | |
| 水位変動 | M | | | | |
| 水温 | °C | | | | |
| 表面 | M | °C | | | |
| 底層 | M | °C | | | |
| 結氷 | | | | | |
| 流入河川数 | | | | | |
| 流出河川数 | | | | | |
| 埋立・干拓面積 | KM ² | | | | |
| PH | 年 月 | | | | |
| DO | 10分/上層/10分/下層 PPM | | | | |
| COD | PPM | | | | |
| TOC | PPM | | | | |
| SS | PPM | | | | |
| Cl- | PPM | | | | |
| カルシウム | PPM | | | | |
| NO ₂ -N | PPM | | | | |
| NO ₃ -N | PPM | | | | |
| T-P | PPM | | | | |
| 大腸菌 | PPM | | | | |
| 透明度 | M | 62年 8月 10日 | | | |
| | M | | | | |
| | M | | | | |
| | M | | | | |
| | M | | | | |

(注) 「データの出所」欄の番号は、資料リストに示す資料番号である。

大湖沼の場合のテ-タ記入(透視等)

(湖沼概要調査票記入上の注意)

- 1 調査票の様式は前頁に掲げるものとし、用紙は 110 kg 程度、B5 版、左側 2 つ穴あきとする。
- 2 調査票は、1 湖沼ごとに作成する。
- 3 「都道府県」には、当該湖沼の調査担当都道府県名を記入する。
- 4 「湖沼番号」には、別表 1 に示す当該湖沼の湖沼番号を記入する。
- 5 「湖沼名」には、「フリガナ」を付す。(カタカナ使用のこと)
- 6 「湖沼型」には、当該湖沼の湖沼型を記入するとともに、淡水湖か汽水湖の区別を該当のものを で囲んで示す。
- 7 「関係市町村名」には、当該湖沼が所在する市町村名を記入するが、当該湖沼が、調査担当都府県以外の都府県にも属する場合は、その都府県名も併せて記入する。
- 8 「保全地域」には、湖沼、島、湖岸のそれぞれに何らかの保全地域の指定がなされている場合に指定されている地域地区区分の「コード」をそれぞれ記入する。

- 9 「鳥獣保護区」には、湖沼、島、湖岸のそれぞれにおける鳥獣保護区の設定状況を「コード」で記入する。
- 10 「PH」～「透明度」の測定年は西暦で記入する。

4 透明度調査

別表1「調査対象湖沼一覧」に示す湖沼（ただし*印の湖沼を除く）について次により現地調査を実施し、透明度、気温、水温、PH、DO、COD、クロロフィルaを測定する。

また、その他水質に関する測定が同時に実施されることが望ましい。これら調査結果をとりまとめ「透明度調査票」（様式2）を作成する。

- (1) 調査は、できる限り夏期に、年1回実施する。（1回以上実施してもさしつかえない。）
- (2) 調査日は、降雨のない平穏日が数日続いた後の風のない晴天の日を選ぶよう努める。
- (3) 調査地点は、流入河川からの影響の少ない、湖岸からできるだけ離れた湖心付近の相互に離れた2地点を選定する。（2地点以上選定してもさしつかえない。）
調査地点には湖沼ごとにst1、st2のように通し番号（以下「調査地点番号」という。）を付す。調査地点の位置は「湖沼調査図」（様式3）に記入する。
- (4) 透明度の測定については次のとおり実施する。
 - ア 調査には、透明度板（直径25～30cmの表面を白色ラッカーで塗装したもので、板の中央に穴が

あいているものがよい)を使用する。

イ 測定は、太陽や天空の反射の影響を避けるため、船影やのぞき眼鏡等を利用して実施するものとし、透明度板を水中に沈めて見えなくなる深さと、次にこれをゆっくり引き上げていって見えはじめた深さとを、反復して確めて平均する。

ウ 測定した結果、湖底まで見透せる場合は、その水深を記録し、「 m (全透)」と表示する。

エ 測定値は、単位はmで小数第1位まで求める。

(5) 気温の測定は、調査地点において日光の直射および周囲の放射を避けて実施する。(他には で小数第1位まで求める。)

(6) 水温、PH、DO、COD、クロロフィルaの測定にあたってはできる限り垂直分布を調査すること。(測定値は小数第1位まで求める。)

この場合、測定された水深を明らかにする。

(7) 調査地点において、TOC、SS、Cl⁻、ケルダールN、NO₂-N、NO₃-N、T-P等水質に関する測定が同時に実施されることが望ましい。なお、測定が行われた場合は、測定された水深、測定値 (PPM)

を「透明度調査票」(様式2)に記入する。

(8) また、測定項目ごとに測定方法を明らかにする。

(様式2) 透明度調査票

| 透 明 度 調 査 票 | | | | | | 調査年度 | 1979 |
|-------------|-------|--------------|-----------|----|-------------|----------|------|
| | | | | | | 都道府県 | |
| 湖沼番号 | 湖沼名 | | | | | | |
| 調査地点 番 号 | st 1 | 水深 (m) | 水温 (℃) | PH | DO (ppm) | その他の測定項目 | |
| 測定年月日 | . . . | | | | | | |
| 時 刻 | | | | | | | |
| 天 候 | | | | | | | |
| 雲 量 | | | | | | | |
| 気 温 | ℃ | | | | | | |
| 透明度 | m | 調査者 所属・氏名 | | | | | |
| 調査地点 番 号 | st 2 | 水深 (m) | 水温 (℃) | PH | DO (ppm) | その他の測定項目 | |
| 測定年月日 | . . . | | | | | | |
| 時 刻 | | | | | | | |
| 天 候 | | | | | | | |
| 雲 量 | | | | | | | |
| 気 温 | ℃ | | | | | | |
| 透明度 | m | 調査者 所属・氏名 | | | | | |
| 調査地点 番 号 | | 水深 (m) | 水温 (℃) | PH | DO (ppm) | その他の測定項目 | |
| 測定年月日 | | | | | | | |
| 時 刻 | | | | | | | |
| 天 候 | | | | | | | |
| 雲 量 | | | | | | | |
| 気 温 | ℃ | | | | | | |
| 透明度 | m | 調査者 所属・氏名 | | | | | |

(注) 異なる水深で測定された場合は、それぞれの水深別に測定結果を記入する。

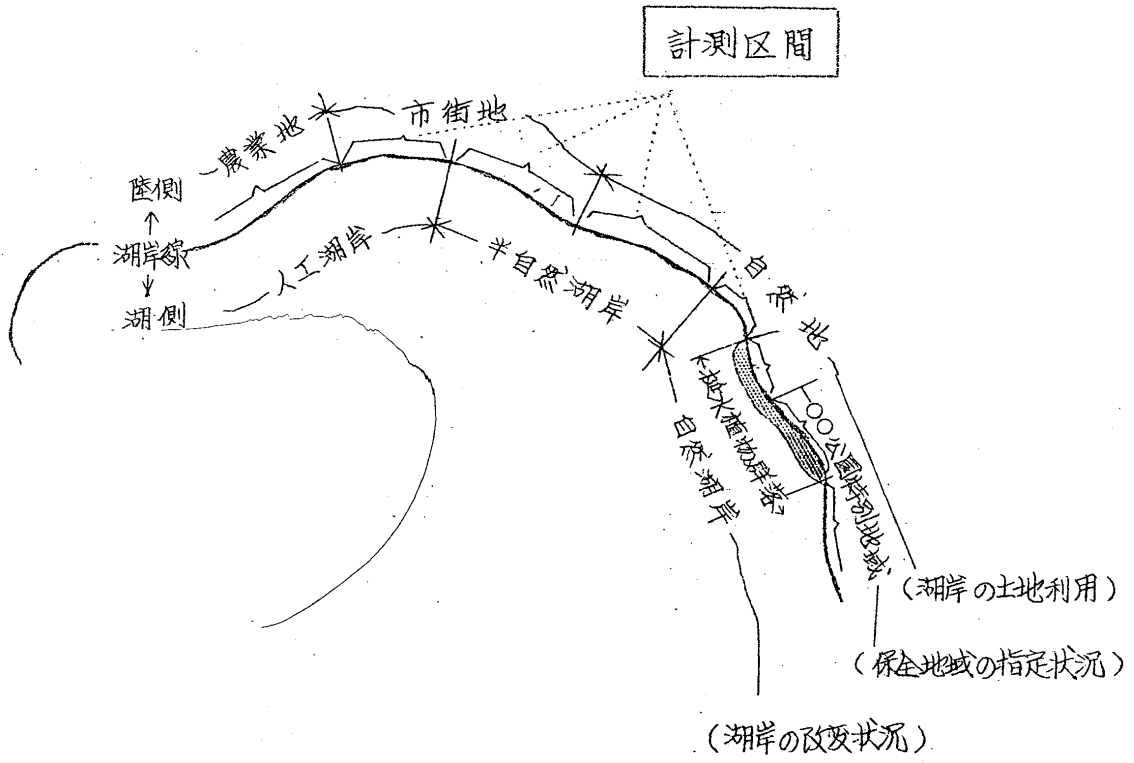
5 湖沼改変状況調査

別表 1 に示す調査対象湖沼について、現地観察により湖沼の改変状況等による湖岸線の区分、湖岸の建築物等の状況、埋立・干拓の状況について調査し、「湖沼調査図」(様式 3) 及び「湖沼改変状況調査票」(様式 4) を作成する。

(1) 湖岸線の区分

ア 「湖岸地先における挺水植物群落の有無」「湖岸の改変状況」「湖岸の土地利用状況」「湖岸の保全地域の指定状況」がそれぞれ変わると共に湖沼調査図上に区分線を入れて湖岸線を区分する。

上記のように細かく区分された湖岸線を以下「計測区間」という。(下図参照)



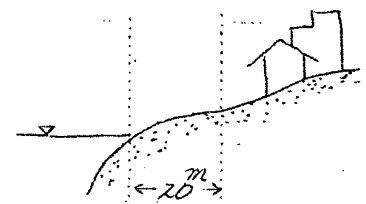
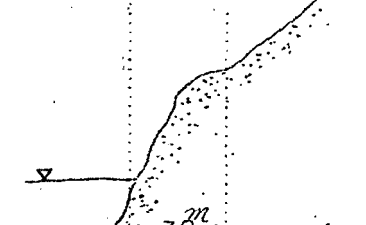
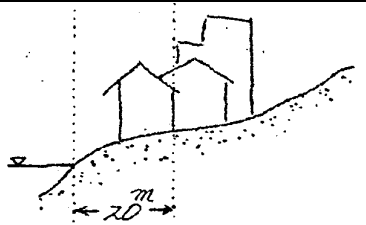
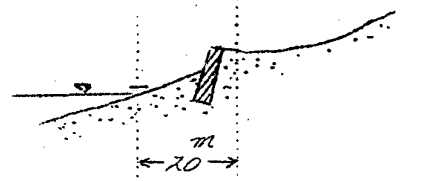
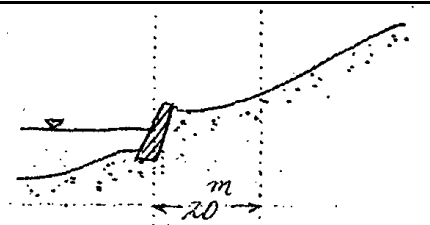
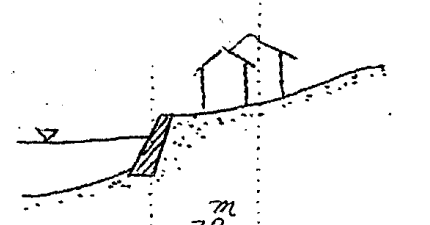
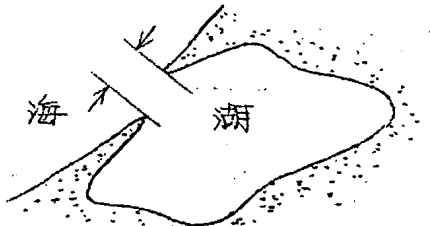
イ 湖岸線の区分は次のとおり表 1 ~ 表 4 によって行う。

〔表 1 挺水植物群落の有無〕

| 区 分 | コード |
|----------------|-----|
| 湖岸地先に挺水植物群落がある | 1 |
| 湖岸地先に挺水植物群落がない | 0 |

(注) 挺水植物群落のおよその沖出し幅についても調べる。

〔表2 湖岸の改変状況区分表〕

| 区 分 | | コード |
|---|---|-----|
| <p>自然湖岸</p> <p>水際線及び水際線に接する陸域が人工によって改変されておらず、自然の状態を保持している湖岸</p> <p>（水際線は人工構築物によって構成されておらず、自然状態であり、かつ水際線より幅 20m の湖岸の区域に人工構築物が存在しない。）</p> | <p>水際線は崖になっていない。</p>  | 1 |
| | <p>水際線は崖（高さ 3m 以上の急斜面）になっている</p>  | 2 |
| <p>半自然湖岸</p> <p>水際線は自然状態であるが、水際線に接する陸域が人工によって改変されている湖岸</p> <p>（水際線は人工構築物によって構成されておらず自然状態だが、水際線より幅 20m の区域内に人工構築物が存在する。）</p> |  | 3 |
| |  | |
| <p>人工湖岸</p> <p>水際線がコンクリート護岸、矢板等の人工構築物できている湖岸</p> |  | 4 |
| |  | |
| <p>水面</p> <p>流入流出河川の河口部や、潟湖の海への開口部等湖岸の存在しない部分</p> |  | 0 |

〔表3 湖岸の土地利用状況区分表〕

| 湖岸の土地利用状況区分 | | コード |
|---|---------|-----|
| 自然地 (樹林地、自然草地、湿地等自然が人工によって著しく改変されないで自然の状態を保持している土地) | 樹林地 | |
| | その他の自然地 | |
| 農業地 (水田、畑、放牧地、樹園地等の農業的な利用が行われている土地) | | |
| 市街地、工業地、その他 (住宅地、業務地、工場、港湾、廃棄物処理場、遊園地等都市的な利用が行われている土地、または、埋立地等で未だ利用されていない荒地、埋立工事中の土地等) | | |
| 水面 (流入河川の河口部、流出河川の流出部、潟湖の場合の海への開口部等湖岸の存在しない部分) | | 0 |

〔表4 湖岸の保全地域指定状況区分表〕

| 地域地区区分 | | コード |
|------------|--------|-----|
| 国立公園 | 特別保護地区 | 11 |
| | 特別地域 | 12 |
| | 普通地域 | 13 |
| 国定公園 | 特別保護地区 | 21 |
| | 特別地域 | 22 |
| | 普通地域 | 23 |
| 県立自然公園 | 特別地域 | 32 |
| | 普通地域 | 33 |
| 原生自然環境保全地域 | | 41 |
| 自然環境保全地域 | 特別地区 | 52 |
| | 普通地区 | 53 |
| 県自然環境保全地域 | 特別地区 | 62 |
| | 普通地区 | 63 |

(注) 区分は、湖沼(水面)の指定状況の如何にかかわらず、「湖岸」の指定状況のみについて行う。

ウ 湖岸線を区分するにあたり、それぞれの区分においてその長さが 100m に満たない場合は、その部分を折半し、その両側の区間に含める。

エ 区分された計測区間の距離をキルビメーターにより単位は、km で小数第 1 位まで求める。

(2) 湖岸の建築物等の状況

湖岸における 5 階建以上（または 13m 以上）の建築物または建築物に準じる工作物の位置を「湖沼調査図」(様式 3) に図示する。

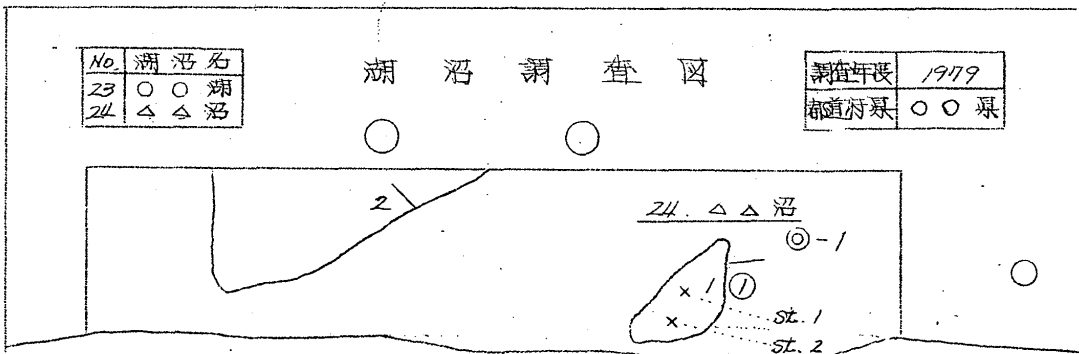
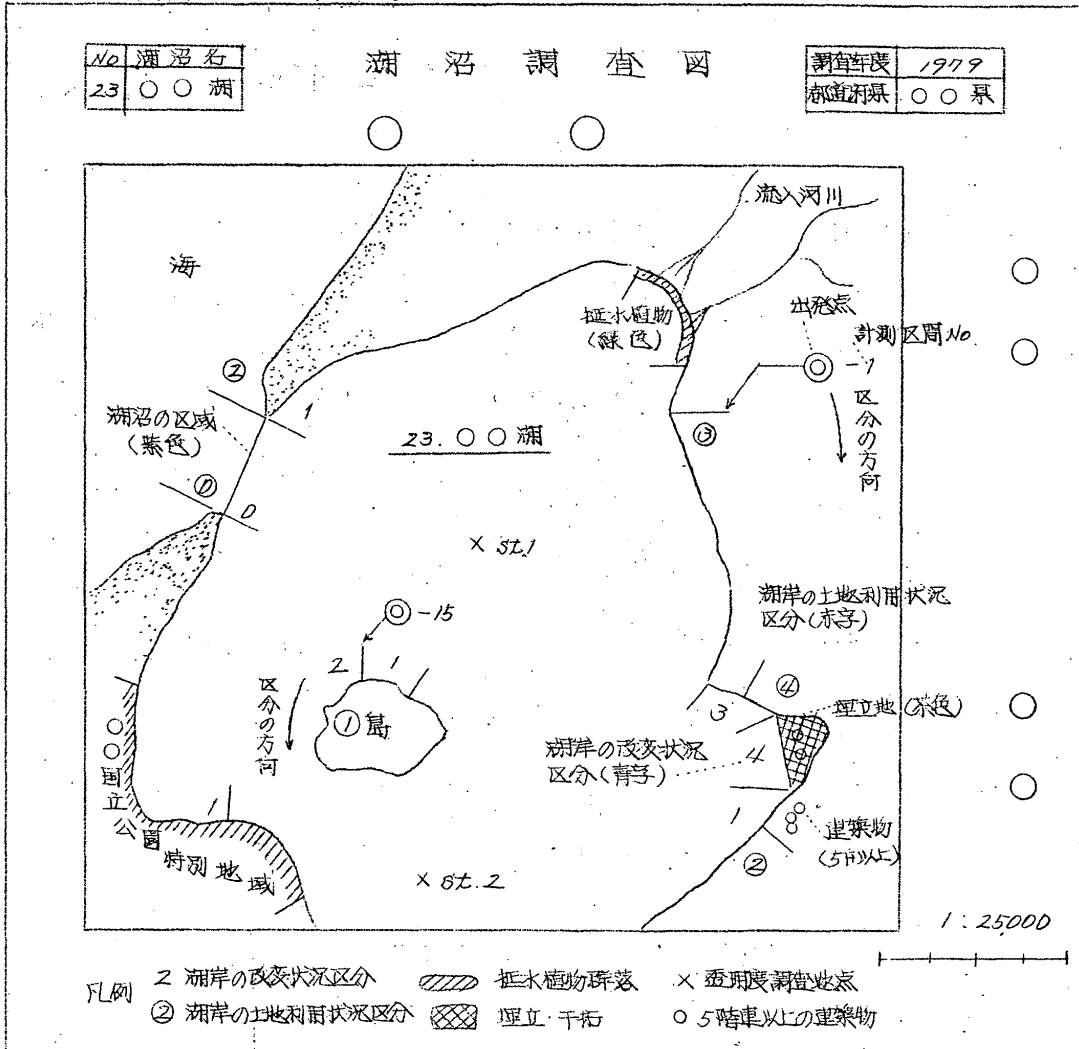
(3) 埋立・干拓の状況

1945 年以後、埋立・干拓された区域を「湖沼調査図」(様式 3) に図示する。

(4) その他、湖岸及び湖岸地先に強い影響を及ぼすようなもの等、特記すべき事項があれば、「湖沼改変状況調査票」(様式 4) の「備考」欄に記入する。

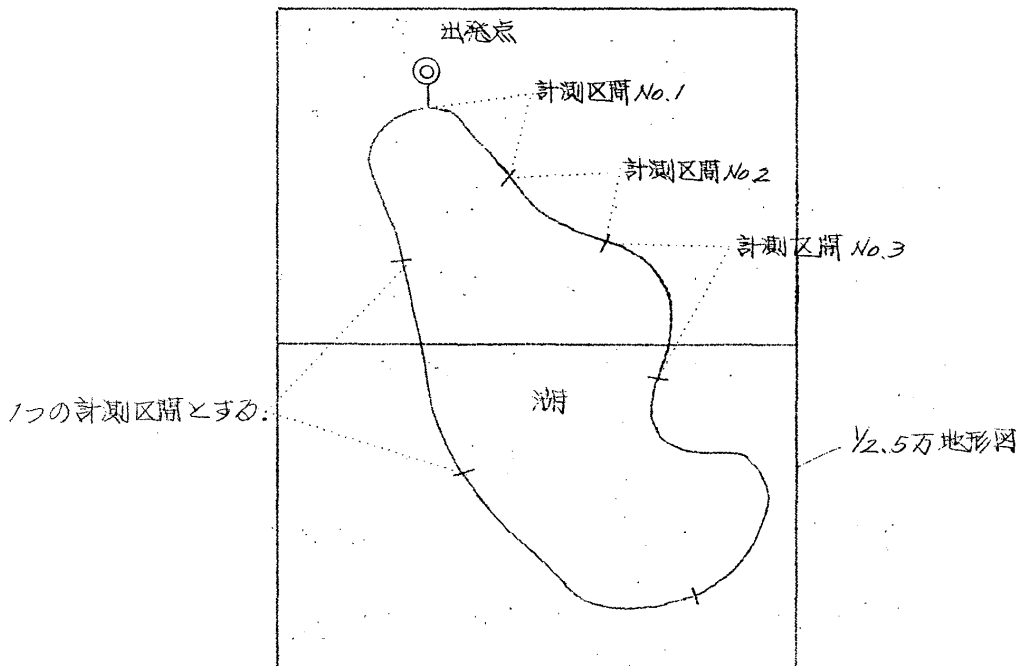
(様式3) 湖沼調査図

(湖沼調査図例)



(湖沼調査図作成上の注意)

1. 湖沼調査図には、必ず国土地理院発行の1/2.5万地形図を使用する。複写図、編さん図等は使用しないこと。
2. 湖沼調査図例のように地形図の余白の所定の位置に「タイトル」「(湖沼番号)」「湖沼名」「調査年度」(西暦)「都道府県」(当該湖沼担当都道府県名)を記入する。同一地形図に2以上の湖沼がある場合は、「(湖沼番号)」「湖沼名」を連記する。
3. 湖岸線の区分は、次の手順に従って行う。
 - (1) 湖岸線の区分は、湖沼ごとに行う。(湖沼の区域が2以上の地形図にわたる場合も同様とする。



(2) 調査対象とする「湖沼の区域」を紫色の色鉛筆で明示する。

(3) 湖岸の区分を開始する点(以下「出発点」という。)を湖沼の北辺の適当な点に定め、進行方向に向って陸を左に見るように区分を開始する。

湖沼内に島がある場合には、それぞれの島の北辺の適当な点を出発点とする。

(4) 出発点には、湖沼調査図例のように 印を記入する。

(5) 「湖岸地先における挺水植物群落の有無」

湖岸地先に挺水植物群落がある場合には、湖側にその区間を緑色の区分線(長さ3mm程度)で区分するとともに、挺水植物群落のある計測区間の湖側に沿って幅3mm程度に緑色で彩色する。

(6) 「湖岸の改変状況区分」

表2「湖岸の改変状況区分表」による5種の区分に従って出発点から湖岸線を区分していく。

区分点には、その湖側に区分線(長さ3mm程度)を晝で引くとともに、その区分を示すコード(表2参照)を区分線と区分線の間に晝で記入する。

(7) 「湖岸の土地利用区分」

表3「湖岸の土地利用区分表」による5種の区分に従って出発点から湖岸線を区分していく。

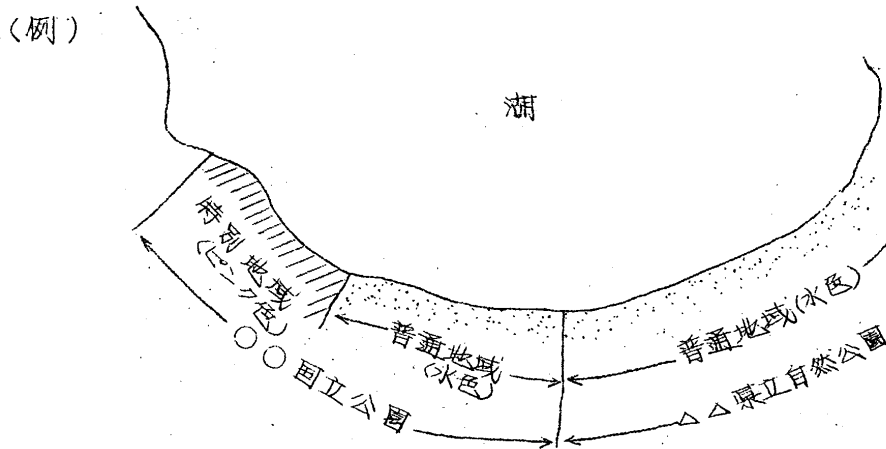
区分点には、その陸側に区分線(長さ3mm程度)を赤で引くとともに、その区分を示すコード(表3参照)を区分線と区分線の間で赤で で囲んで記入する。

(8) 「湖岸の保全地域指定状況区分」

湖岸が保全地域に指定されている場合は、湖岸線を表4「湖岸の保全地域指定状況区分表」により区分し、陸側を湖岸線に沿って3mm程度の幅に次に示す色鉛筆でうすく彩色する。

また、保全地域の名称を地形図に黒文字で記入する。

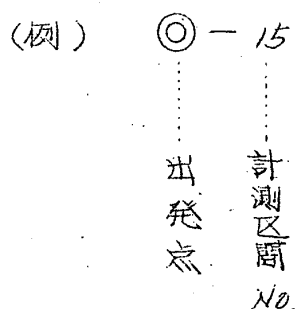
| 保全地域 | 地種区分 | 指定色 | 色鉛筆の指定 |
|---------------|------------|------|----------------|
| 自然公園 | 特別保護地区 | 橙色 | 三菱ポリカラー 7500 4 |
| | 特別地域 | ピンク色 | " 13 |
| | 普通地域 | 水色 | " 8 |
| 自然環境 保全地域等 | 原生自然環境保全地域 | 橙色 | " 4 |
| | 特別地区 | ピンク色 | " 13 |
| | 普通地区 | 水色 | " 8 |



(注) 湖面の指定状況の如何にかかわらず湖岸の指定状況により区分及び彩色を行う。

(9) 上記による湖岸線の区分終了後、各計測区間に1からはじまる通し番号を与える。(以下「計測区間」という。)

湖沼調査図の各出発点に、当該計測区間の「計測区間」を記入する。出発点以外の計測区間には「計測区間」は記入しない。



- 4 1945 年以後に埋立、干拓された区域を茶線で囲んで示す。
- 5 湖岸における 5 階建（または 13m）以上の建築物等の位置を赤で直径 1～2mm 程度の__で示す。
- 6 透明度調査地点の位置に黒で x 印をつけ、調査地点番号（st1、st2、 ）を付す。
- 7 調査図の下方の余白には、凡例を記入し、使用した記号の意味を明らかにする。

(様式4) 湖沼改変状況調査票

| 湖 沼 改 変 状 況 調 査 票 | | | | | | | | | |
|-------------------|--------|-------------------|----------------------------|------------------|---------------|------|------------|--------------------------|------|
| | | | | | | | | 調査年度 | 1979 |
| | | | | | | | | 都道府県 | |
| 調査年度 | 湖 沼 名 | | | | 保 全 地 域 (湖 岸) | | | | 備考 |
| 23 | ○ | ○ | 湖 | | 保全地域名 | | 地域名 コード | 出発点 からの 距離 (km) | |
| 計測 区間 No. | 挺水植物群落 | | 湖 岸 土 地 利 用 | | | | | | |
| | 有 無 | 沖 出 し 幅 (m) | | 改 変 状 況 | | | | | |
| (記入例) | | | | | | | | | |
| ① | 0 | 0 | 1 | ③ | | | | | |
| 2 | 0 | 0 | 3 | ③ | | | | | |
| 3 | 0 | 0 | 3 | ④ | | | | | |
| 4 | 0 | 0 | 4 | ④ | | | | | |
| 5 | 0 | 0 | 1 | ④ | | | | | |
| 6 | 0 | 0 | 1 | ② | | | | | |
| 7 | 0 | 0 | 2 | ② | | | | | |
| 8 | 0 | 0 | 2 | ② | 〇〇国立公園 | 0105 | 12 | | |
| 9 | 0 | 0 | 1 | ② | " | 0105 | 12 | | |
| 10 | 0 | 0 | 1 | ② | | | | | |
| 11 | 0 | 0 | 0 | ① | | | | | |
| 12 | 0 | 0 | 1 | ② | | | | | |
| 13 | 1 | 10 | 1 | ② | | | | | |
| 14 | 0 | 0 | 1 | ② | | | | | |
| ⑮ | 0 | 0 | 2 | ② | | | | | |
| 16 | 0 | 0 | 1 | ② | | | | | |
| 合計 | | | 1 | | | | | | |
| | | | 2 | | | | | | |
| | | | 3 | | | | | | |
| | | | 4 | | | | | | |
| | | | 0 | | | | | | |

(注1) 当該計測区間が「出発点」にあたる場合には、計測区間の数字を で囲む。

(注2) 「挺水植物群落」の「沖出し幅」欄には、湖岸地先に挺水植物群落がある場合に、そのおよそ沖出し幅を記入する。

6 魚類調査（特定湖沼のみ）

別表 2 に示す特定湖沼において、そこに生息する魚類等について次の事項を調査し、「魚類調査総括表」（様式 5）を作成する。調査は主として既存資料、漁獲統計、漁協からの聞きとり等により実施し、特に魚類相の調査に関しては、魚類に詳しい専門家の協力をあおぐものとする。

（ 1 ） 魚類相に関する記録

当該湖沼の魚類相全般について学術調査等による記録があれば、その時記録されている魚種名を記入する。

また、その記録にエビ類、貝類の生息について記載があればその種名も記入する。

（ 2 ） 現在の魚類相

既存資料及び漁協からの聞きとりにより、現在、当該湖沼で生息していると思われる魚種名を調べる。

また、エビ類、貝類の生息状況についてもわかれば記入する。

（ 3 ） 漁獲量（年平均漁獲量）

過去 5 年間の漁獲量を年平均を魚種ごとに単位は

tで小数第1位まで調べる。

(4) 放流量(年平均放流量)

放流されている魚類があれば、過去5年間の放流量を年平均を魚種ごとに示す。卵放流の場合は、単位は「千粒」、稚魚(ないし成魚)放流の場合は、単位は「千尾」で示す。

(5) 天然繁殖の有無

当該湖沼に現在生息していると思われる魚種について、採卵、人工孵化によらず自然の状態で繁殖しているかどうかについて調べる。

(様式5) 魚類調査総括表

(記入例)

魚類調査総括表

| 湖沼 番号 | 湖沼名 | | 魚種名 | 魚獲に関する記録 | | 現在の 魚獲相 | 漁獲量 (t/年) | 放流量 (t/年) | | 天然 繁殖 | 備 考 |
|----------|-----|-------|----------|----------|------|------------|--------------|--------------|--------|----------|-------------|
| | 23 | 〇 〇 湖 | | 1946 | 1970 | | | (40/年) | (47/年) | | |
| | | | スナマツメ | 〇 | 〇 | 〇 | - | - | - | 〇 | |
| | | | ヒメマス | 〇 | 〇 | 〇 | 1.8 | 0 | 110 | 〇 | 汚染発生のため近年激減 |
| | | | ヤマメ | 〇 | 〇 | 〇 | - | - | - | 〇 | |
| | | | ニジマス | | 〇 | 〇 | 0.0 | - | 19 | | 1962年より放流 |
| | | | スタールヘッド | | | 〇 | 0.0 | - | 9 | | 1974年より放流 |
| | | | イトウ | 〇 | 〇 | | - | - | 49 | | 絶滅したらしい |
| | | | アメマス | 〇 | 〇 | 〇 | 0.3 | - | - | 〇 | |
| | | | ワカサギ | 〇 | 〇 | 〇 | 99.6 | 360,000 | - | ? | ほとんど全部が人工採卵 |
| | | | エソウグイ | 〇 | 〇 | 〇 | 0.0 | - | - | 〇 | |
| | | | マクソグイ | 〇 | 〇 | 〇 | - | - | - | 〇 | |
| | | | ギンブナ | 〇 | 〇 | 〇 | - | - | - | 〇 | |
| | | | ゲンゴロウブナ | 〇 | 〇 | 〇 | 0.9 | - | - | 〇 | |
| | | | コイ | 〇 | 〇 | 〇 | 7.3 | - | - | 〇 | |
| | | | ドジョウ類 | 〇 | 〇 | 〇 | - | - | - | 〇 | フクドジョウらしい |
| | | | イバラトミヨ | | | 〇 | - | - | - | 〇 | |
| | | | カジカ類(1) | 〇 | 〇 | 〇 | - | - | - | 〇 | |
| | | | カジカ類(2) | 〇 | 〇 | 〇 | - | - | - | 〇 | |
| | | | ジユズカケハゼ | 〇 | 〇 | 〇 | - | - | - | 〇 | |
| | | | ウキゴリ | | | 〇 | - | - | - | 〇 | |
| | | | (計) | | | 18魚種 | | | | 15魚種 | |
| | | | アメリカザリガニ | | 〇 | 〇 | - | - | - | 〇 | |
| | | | シジミ | 〇 | 〇 | 〇 | 0.0 | - | - | 〇 | |

| | | |
|-----|----|--|
| 調査者 | 所属 | |
| | 氏名 | |

- 資料 1 大学水産学部研究報告収録 Vol.3 渡辺綱男
- 2 「北海道における湖沼の陸水学的調査報告書」北海道立水産孵化場
- (注1) 漁獲量、放流量は、1974~1978年の5ヶ年間の年平均値である。
- (注2) 類は、調査当時、種名まで同定できなかったことを示す。

(魚類調査総括表作成上の注意)

- 1 . 「魚種名」は、別表3「魚類分類表」に示す順序で系統分類の順に記入するものとし、エビ類、貝類は魚類の次にエビ類、貝類の順で記入する。
- 2 . 「魚種名」には標準和名を使用するものとする。また、「フナ」というような総称を用いることは避け、極力「ギンプナ」、「ゲンゴロウブナ」というように種レベルの名称まで調べるよう努める。どうしても種名まで確認できない場合には、必ず「フナ類」、「ドジョウ類」のように表示する。
- 3 . 記入例(ギンプナ、ゲンゴロウブナ、ジュズカケハゼ)のように、種名まで確認できなかった場合は類と表示する。
- 4 . 記入例(カジカ類(1)、(2))のように、カジカ類に明らかに2種いることが判っているが、種名までは判明していない場合は、記入例のようにカジカ類(1)、カジカ類(2)と表示する。
- 5 . 「漁獲量」が四捨五入しても0.1t/年に達しない場合は、記入例のように「0.0t/年」と表示し、漁獲実績がない場合は、「-」と表示する。

- 6 . 「放流量」が四捨五入しても1千粒（または1千尾）に達しない場合は、記入例のように「0千粒」（または「0千尾」）と表示し、放流実績がない場合は「-」と表示する。
- 7 . 「天然繁殖」の有無がはっきりしない場合は「？」と表示する。
- 8 . 「備考」には、それぞれの魚種について特記すべき事項があれば記入例を参照して記入する。
- 9 . （計）には、現在生息していると思われる魚類及び現在天然繁殖していると思われる魚類の種類数を記入する。種名まで確認できず「 類」とされたものは1種に数える。また、天然繁殖の有無がはっきりせず、「？」印となったものはカウントしない。
- 10 . 表の欄外には、魚類相について調べた既存資料の名称等を必ず記載する。

<別紙 2 >

報告書作成要領

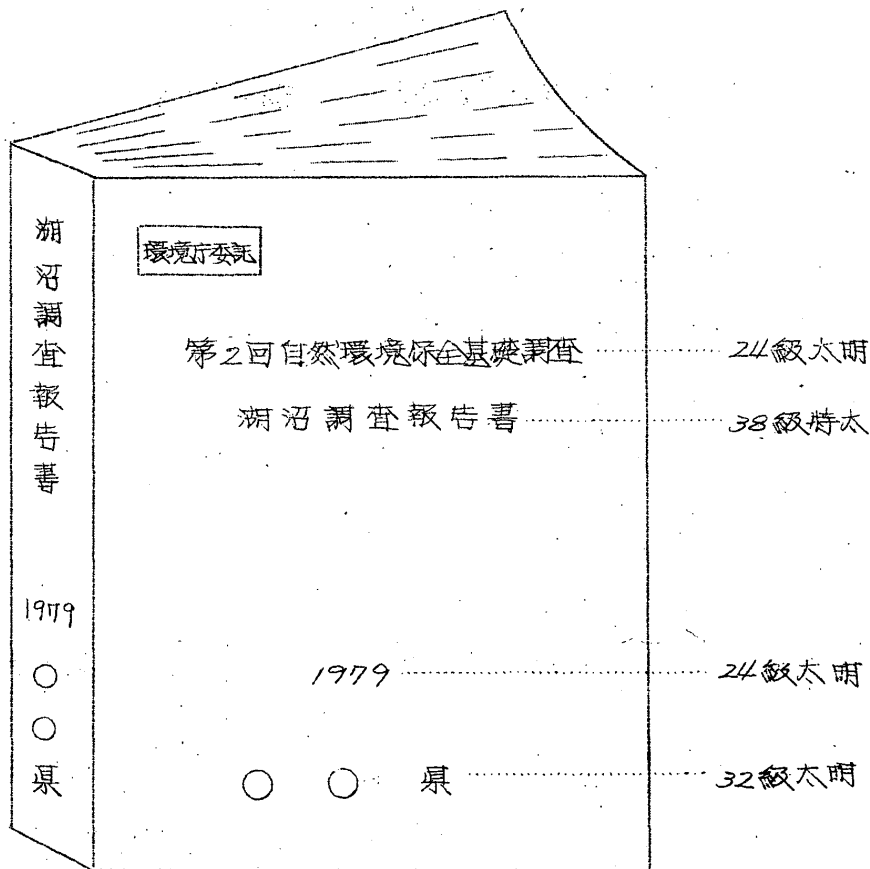
1. 規格

B5版、左とじ、横書きとする。

印刷は、タイプ印刷程度とする。

2. 表紙及び背文字

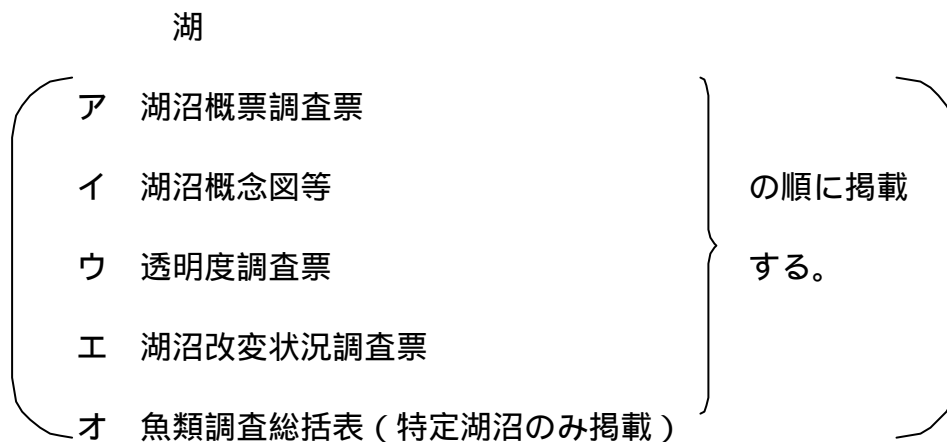
表紙（及び裏表紙）は、青竹色、厚さは215kg（レザック66Y程度）とし、様式は下図によるものとする。



3. 配 列

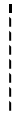
報告書における各項目の配列は以下のとおりとする。

- (1) 目 次
- (2) 調査結果の概要
- (3) 湖沼別調査結果（湖沼番号の順）



沼

湖



- (4) 資料リスト
- (5) 調査担当者名簿
- (6) 付録 「湖沼改変状況調査票の見方について」

4. 調査結果の概要

調査結果の概要を示すため、次の例にならい、図、表にとりまとめる。なお、必要ならば県内の湖沼の概要、

調査方法、調査結果の考察等について適宜記載してもさしつかえない。

(例)

1. 調査結果の概要

次の表1のとおり、本県における面積1 ha以上の天然湖沼15湖沼のうち、12湖沼について透明度調査、改変状況調査等を実施した。(調査対象外の面積0.01km²以上の天然湖沼については表2参照)さらに、湖については特定湖沼(印)として漁協等からの聞きとりにより魚類の生息状況についても併せて調査した。県内における調査対象湖沼の配置は別図のとおりである。

(表1) 調査結果の概要

| 湖沼番号 | 湖沼名 | 標高 (m) | 面積 (k㎡) | 湖岸線延長 (km) | 透明度 (A) | 埋没面積 (k㎡) | 湖岸改変状況 (%) | | | | 湖岸土地利用 (%) | | | | 大規模 建築物 | 湖型 |
|------|------|-----------|------------|---------------|------------|--------------|------------|-----|----|----|------------|-----|-----|----|------------|----------------------------------|
| | | | | | | | 自然 | 半自然 | 人工 | 水面 | 自然 | 農業地 | 市街地 | 水面 | | |
| 16 | 湖 | | | | | | | | | | | | | | 23 | 中 |
| 17 | 湖 | | | | | | | | | | | | | | 11 | 富 |
| 18 | 湖 | | | | | | | | | | | | | | 3 | 中 |
| 19 | 湖 | | | | | | | | | | | | | | 0 | 富 |
| 20 | 湖 | | | | | | | | | | | | | | 0 | 酸 |
| 21 | 湖 | | | | | | | | | | | | | | 0 | 中 |
| 22 | 湖 | | | | | | | | | | | | | | 1 | 貧 |
| 23 | 〇〇湖 | | | | | | | | | | | | | | 6 | 貧 |
| 24 | 沼 | | | | | | | | | | | | | | 0 | 富 |
| 25 | 沼 | | | | | | | | | | | | | | 5 | 中富 |
| 26 | 沼 | | | | | | | | | | | | | | 0 | 富 |
| 27 | 沼 | | | | | | | | | | | | | | 0 | 富 |
| (計) | 12湖沼 | | | | | | | | | | | | | | 49 | 富=5 中富=1 中=3 貧=2 酸=1 |

(注1) 「湖岸改変状況 (%)」は、湖岸線延長に対する自然湖岸、半自然湖岸、人工湖岸、水面の割合をそれぞれ%で示す。(小数点以下を四捨五入して整数で表わす。)

(注2) 「湖岸土地利用 (%)」は湖岸線延長に対する自然地、農業地、市街地、水面の割合をそれぞれ%で示す。(小数点以下を四捨五入して整数で表わす。)

(表2) 県調査対象外天然湖沼 (面積 0.01km² 以上)

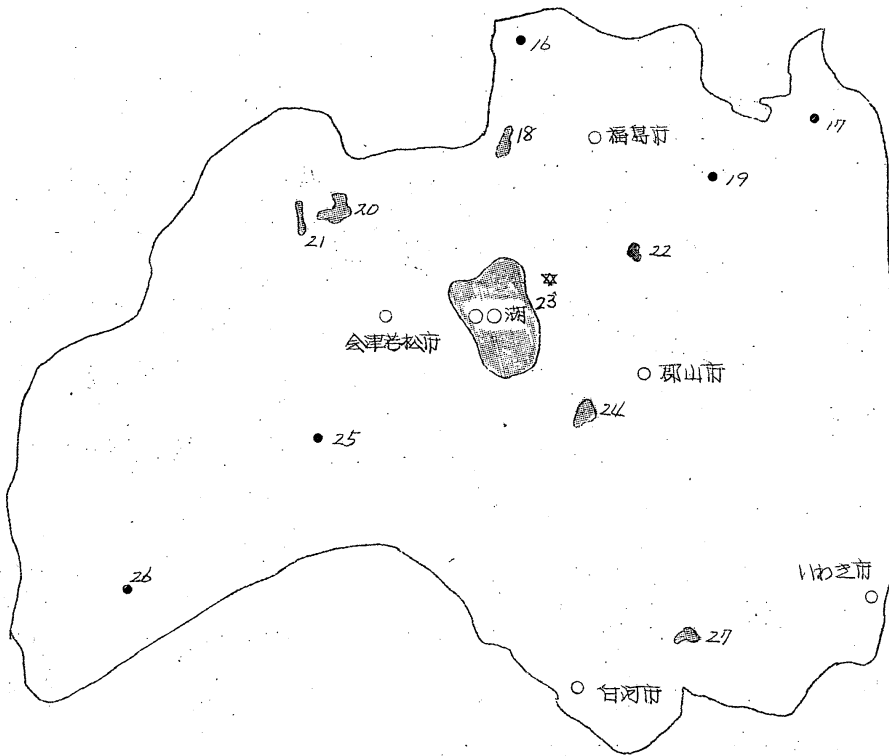
福

後反 沼

| 湖沼名 | 標高 (m) | 面積 (km ²) |
|---------|--------|-----------------------|
| 1 ○ ○ 沼 | ----- | ----- |
| 2 ○ ○ 沼 | ----- | ----- |
| 3 × × 池 | ----- | ----- |

岡仔市町村
1/2.5万地形図%

(図) 調査対象湖沼位置図 (県)



5. 湖沼別調査結果

(1) 湖沼ごとに調査結果を湖沼番号の若い順に掲載する。

それぞれの湖沼においては、調査票等を次の順に掲載する。

ア. 湖沼概要調査票

イ. 湖沼概念図等

ウ. 湖沼全体の状況が把握できる写真

エ. 透明度調査票（透明度調査を実施しない湖沼については省略する。）

オ. 湖沼改変状況調査票

カ. 魚類調査総括表（特定湖沼のみ掲載）

(2) 透明度調査票、湖沼改変状況調査票等で、記載事項が少ない場合には、必ずしも票形式で掲載する必要はない。調査結果が記載されれば足りる。また、透明度調査票を掲載する際には、水質等に関し行われた測定方法を明記する。

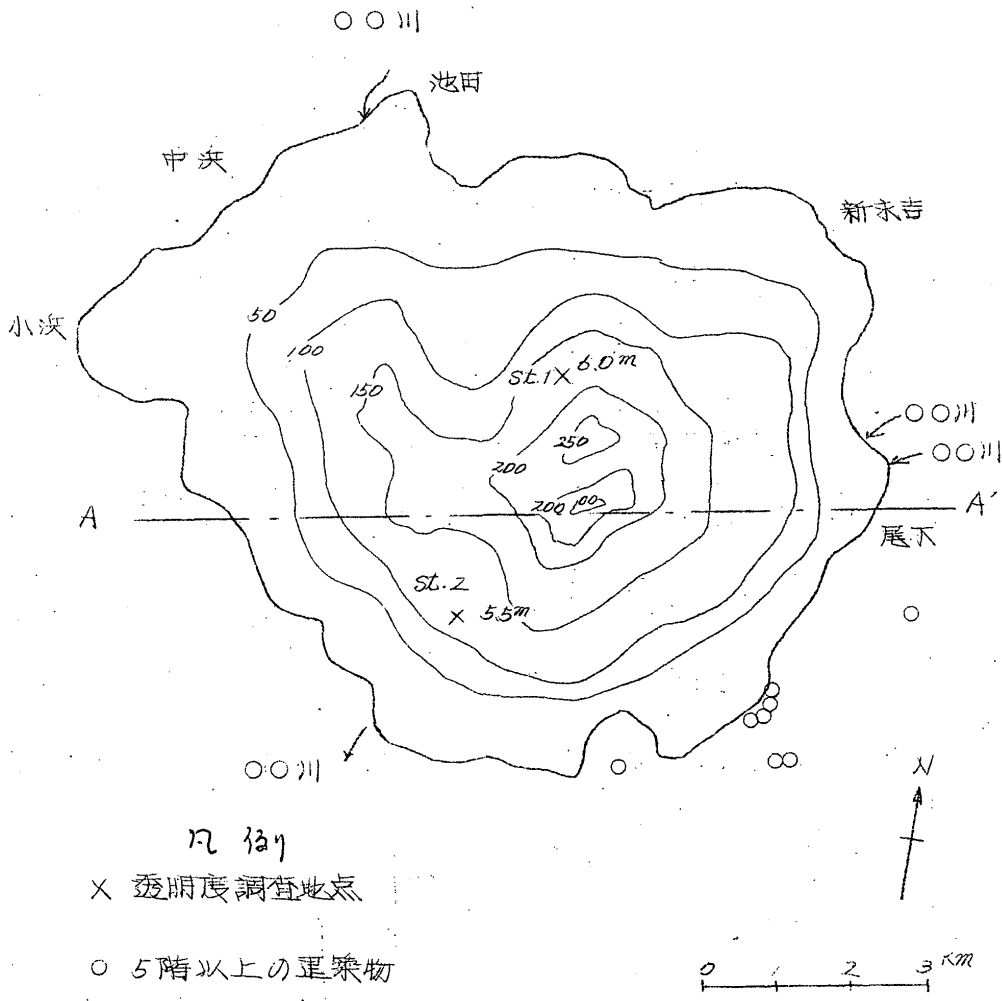
(3) 湖沼概念図等とは、次の（例1）のように、湖沼の平面略図に透明度調査地点、流入流出河川、湖岸の建築物等の状況を記入したもの及び水温、PH、DOの垂直分布を示すグラフ（例3）をいう。また、湖沼断面図

水位・透明度等の経年変化を示すグラフその他が既存

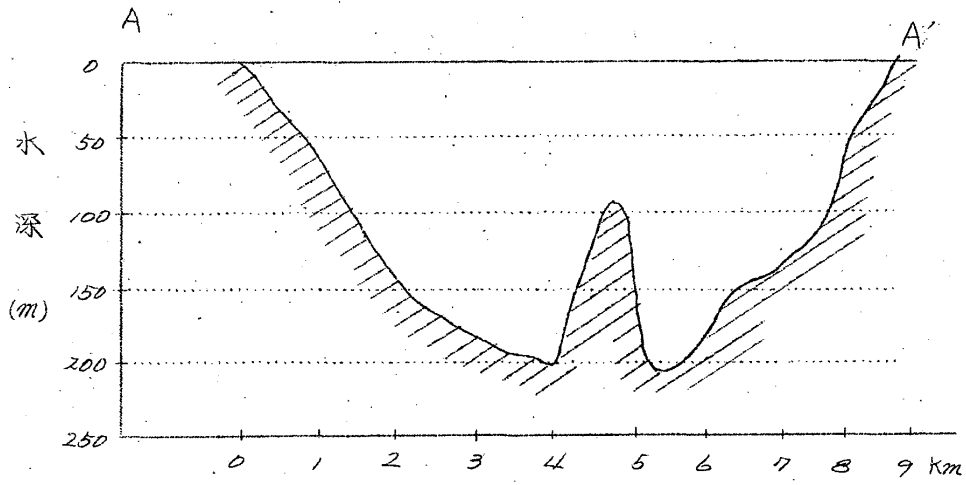
資料にあれば、(例2, 4, 5)にならい適宜掲載する。

(例1)

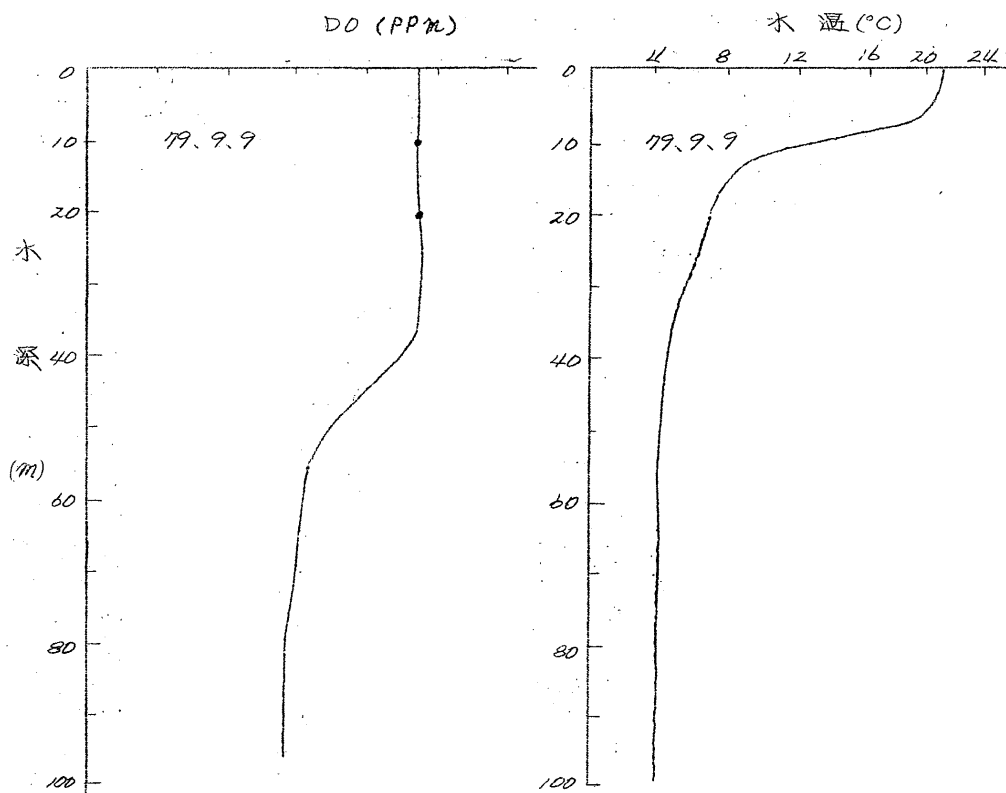
○ ○ 湖



(例2) 湖沼断面図

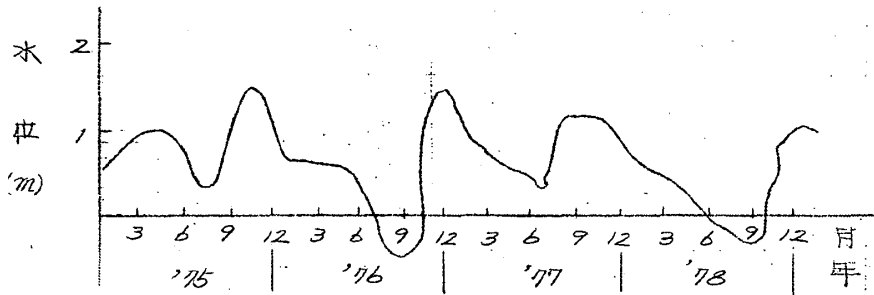


(例3) DO及び水温の垂直分布

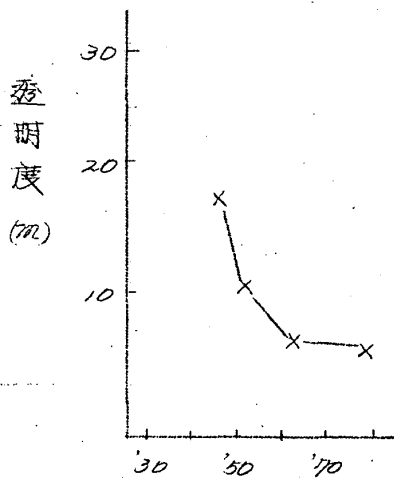


(例4) 水位の経年変化

(建設省資料より)



(例5) 透明度の経年変化



6. 資料リスト

当調査で使用了資料について次の表にならとりまとめる。

なお、資料には通し番号(資料番号という。)をつける。

| 資料 番号 | 筆者名(又は 発行機関) | 発行年 (西暦) | 資料名・発行所名等 |
|----------|-----------------|-------------|---|
| 1 | 国土地理院 | — | 1/25万地形図 |
| 2 | 国土地理院 | 1975 | 国土数値情報 湖沼名一覽表 |
| 3 | Shōji Horie | 1962 | Morphometric Feature and Classification of all the Lakes in Japan |
| 4 | | | |

7. 調査担当者名簿

当調査に実際に従事した者全員の氏名、所属、分担分

野を次の表にならとりまとめる。

| 番号 | 氏 名 | 所 属 | 分担分野 |
|----|-------|-------|-------|
| 1 | | | 総括責任者 |
| 2 | | | 魚獲調査 |
| 3 | | | 水質調査 |

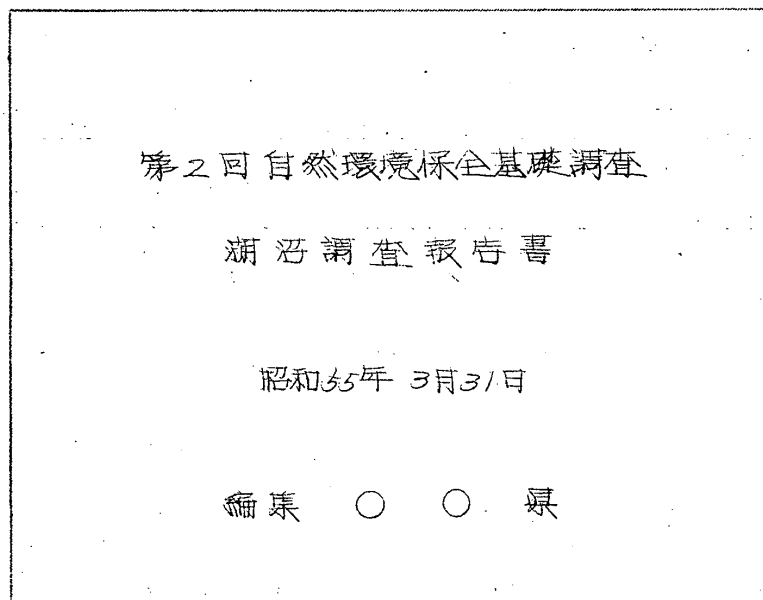
8. 付録 「湖沼改変状況調査票の見方について」

「湖沼改変状況調査票」の見方について、別紙1「湖沼調査実施要領」にならい、特に次の事項等を解説する。

- (1) 「計測区間 No」について
- (2) 「挺水植物群落の有無」のコード番号について表 1
を示す。
- (3) 「湖岸の改変状況」のコード番号について、表 2 を
示す。
- (4) 「湖岸の土地利用」のコード番号について表 3 を示
す。
- (5) 「地域地区区分コード」のコード番号について表 4
を示す。

9. 奥付け

奥付けの様式は下記のとおりとする。



環境庁委託調査

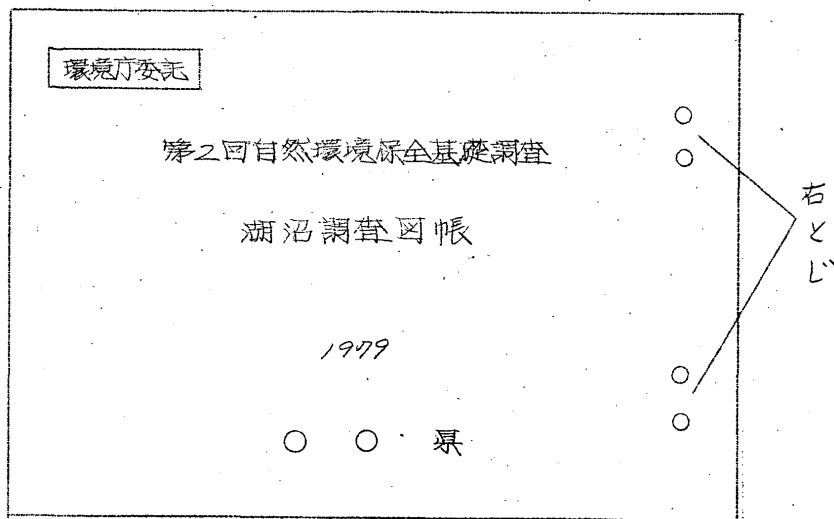
<別紙3>

湖沼調査図帳作成要領

1. 表紙及び裏表紙

表紙は1/2.5万地形図の大きさとし、表紙の色、厚さは報告書に準ずる。様式は、下図によるものとする。

裏表紙は厚手のボール紙を使用する。



2. 配列

配列は以下の順とする。

- (1) 表紙
- (2) 調査対象湖沼リスト（湖沼と調査図帳のページが対照できるようにする。）

(3) 湖沼調査図(おおむね湖沼番号の若い順にならべる
ものとし、ページを左下隅に記入する。)

(4) 裏表紙

湖沼調査図

6
70-シ

別表 1 調査対象湖沼一覧

.....特定湖沼

*透明度調査を実施しない湖沼

| 湖沼番号 | ふりがな 湖沼名 | 湖沼番号 | ふりがな 湖沼名 |
|----------|-------------|----------|-------------|
| | < 北海道 > | 20 | サロマ湖 |
| | (宗谷) | * 21 | ポント沼 (能取) |
| 1 | 久種湖 | 22 | 能取湖 |
| * 2 | メクマ沼 | * 23 | リヤウシ湖 |
| 3 | 声問大沼 | 24 | 藻琴湖 |
| 4 | サルコツ沼 | 25 | 網走湖 |
| 5 | ポロ沼 | 26 | トウフツ湖 |
| 6 | キモマ沼 | * 27 | 涛釣沼 |
| * 7 | カムイト沼 | 28 | ニクル沼 |
| * 8 | 姫沼 | 29 | チミケツ湖 |
| * 9 | モケウニ沼 | (計 15) | (* 5) |
| * 10 | ポン沼 | | (根室) |
| 11 | クッチャロ湖 | * 30 | 知床沼 |
| * 12 | ジュンサイ沼 | * 31 | 羅臼湖 |
| 13 | オタドマリ沼 | * 32 | チニシベツ沼 |
| * 14 | 長沼 | * 33 | 茨散沼 |
| (計 14) | (* 7) | 34 | トーサムポロ沼 |
| | (網走) | 35 | 兼金沼 |
| * 15 | 大西沼 | * 36 | ニシベツ小沼 |
| 16 | ヤソシ沼 | 37 | ヒキウス沼 |
| 17 | コムケ湖 | 38 | 丹根沼 |
| 18 | シブノツナイ湖 | 39 | オンネトウ |
| * 19 | ポン沼 (湧別川) | 40 | 南部沼 |

| 湖沼番号 | ふりがな 湖沼名 | 湖沼番号 | ふりがな 湖沼名 |
|-----------|--------------------------|--------|----------------------------|
| 41 | ふうれんこ 風蓮湖 | 62 | もちりつぷぬま 藻散布沼 |
| 42 | ちようぼしこ 長節湖 | 63 | とこたんこ 床丹湖 |
| 43 | おんねとお 温根沼 | 64 | はるとりこ 春探湖 |
| (計 14) | (* 5) | 65 | ばしくるぬま 馬主来沼 |
| | (釧路) | (計 22) | (* 8) |
| 44 | くつちやるこ 屈斜路湖 | | (上川) |
| 45 | ましゅうこ 摩周湖 | * 66 | ポニルベシベ池塘群 ^{ちとうぐん} |
| * 46 | パンケ湖 (阿寒) | * 67 | ぬまのたいら おおぬま (沼の平) 大沼 |
| * 47 | ペンケ湖 (阿寒) | * 68 | くまがいけ 熊ヶ池 |
| 48 | あかんこ 阿寒湖 | * 69 | ぬまのはら おおぬま (沼の原) 大沼 |
| * 49 | ジュンサイ沼 ^{ぬま} | * 70 | ぬまのはら こぬま (沼の原) 小沼 |
| * 50 | じろうこ 次郎湖 | * 71 | いおうぬま 硫黄沼 |
| * 51 | たろうこ 太郎湖 | (計 6) | (* 6) |
| 52 | オンネトー (阿 寒) | | (十勝) |
| * 53 | ひょうたん沼 ^{ぬま} | * 72 | ヒサゴ沼 ^{ぬま} |
| 54 | シュンクシタカラ湖 ^こ | 73 | しかりべつこ 然別湖 |
| 55 | シラルト口沼 ^{ぬま} | * 74 | しののめこ 東雲湖 |
| 56 | とおろこ 塘路湖 | * 75 | こまどめこ 駒止湖 |
| * 57 | おおぬま 大沼 (霧多布大 沼) | 76 | ちようぶしぬま 長節沼 |
| * 58 | ながぬま 長沼 | 77 | ゆうどうぬま 湧洞沼 |
| 59 | たっこぶぬま 達古武沼 | * 78 | ぬま キモントウ沼 |
| 60 | ひちりつぷぬま 火散布沼 | * 79 | こぬま キモントウ小沼 |
| 61 | あつけしこ 厚岸湖 | 80 | おいかまなえこ 生花苗湖 |

| 湖沼番号 | ふりがな 湖沼名 | 湖沼番号 | ふりがな 湖沼名 |
|-----------|-----------------------------|-------|---------------------------|
| 81 | ホロカヤント沼 <small>ぬま</small> | * 96 | ばんけいぬま 万計沼 |
| (計 10) | (* 5) | * 97 | まみすぬま 真簾沼 |
| | (留萌) | * 98 | そらぬま 空沼 |
| 82 | カプト沼 <small>ぬま</small> | * 99 | オコタンペ湖 <small>こ</small> |
| * 83 | ペンケ沼 <small>とう</small> (天塩) | * 100 | ぬま フレ沼 |
| 84 | パンケ沼 <small>とう</small> (天塩) | 101 | しこつこ 支笏湖 |
| * 85 | ながぬま 長沼 | (計 9) | (* 5) |
| (計 4) | (* 2) | | (担振) |
| | (空知) | 102 | たんじぬま はくちょうこ 丹治沼 (白鳥湖) |
| * 86 | うりゅうぬまちとうぐん 雨竜沼池塘群 | 103 | ぬま ウトナイ沼 |
| 87 | みやじまぬま 宮島沼 | 104 | くちなしぬま 口無沼 |
| 88 | つきがうみ 月ヶ湖 (大沼) | * 105 | あんどうぬま 安藤沼 |
| * 89 | なかのぬま 中の沼 | * 106 | あさひぬま 朝日沼 |
| 90 | おおぬま 大沼 (Horomui) | * 107 | べんてんぬま 弁天沼 |
| 91 | ながぬま 長沼 | 108 | ながぬま 長沼 |
| (計 6) | (* 2) | 109 | おおぬま 大沼 |
| | (日高) | 110 | ぬま マッカ沼 |
| * 92 | とよにこ 豊似湖 | 111 | たるまえおおぬま 樽前大沼 |
| (計 1) | (* 1) | 112 | とうやこ 洞爺湖 |
| | (石狩) | 113 | こ ポロト湖 |
| 93 | ペケレット湖 <small>こ</small> | 114 | たちばなこ 樺湖 |
| 94 | ぬま モエレ沼 | 115 | くつたらこ 倶多楽湖 |
| 95 | えちごぬま 越後沼 | * 116 | おおゆぬま 大湯沼 |

| 湖沼番号 | ふりがな 湖沼名 | 湖沼番号 | ふりがな 湖沼名 |
|-----------|-----------------------------|------|-----------------------------|
| (計 15) | (* 4) | 132 | さきょうぬま 左京沼 |
| | (後志) | 133 | じゅうざんこ 十三湖 |
| * 117 | とうまるぬま 当丸沼 | 134 | いたこぬま 座子沼 |
| * 118 | おおぬま イワオヌプリ大沼 | 135 | おぶちぬま 尾駁沼 |
| * 119 | ながぬま 長沼(イワオヌプリ) | 136 | たかほこぬま 鷹架沼 |
| * 120 | こ コックリ湖 | 137 | いちやなぎぬま 市柳沼 |
| * 121 | はんげつこ 半月湖 | 138 | たつひぬま 田光沼 |
| (計5) | (* 5) | 139 | ひらたきぬま 平滝沼 |
| | (渡島) | 140 | たもぎぬま 田面木沼 |
| 122 | おおぬま 大沼 | 141 | ぬま ベンセ沼 |
| * 123 | まるぬま 円沼 | 142 | おおたきいけ 大滝池 |
| 124 | ぬま ジュンサイ沼 | 143 | うちぬま 内沼 |
| 125 | こぬま 小沼 | 144 | かりぬま 雁沼 |
| (計4) | (* 1) | 145 | ほとけぬま 仏沼 |
| (北海道計) | 125 (* 56) | 146 | ひえみずぬま 冷水沼 |
| | <青森県> | 147 | うなりぬま 唸沼 |
| 126 | のうしぬま 野牛沼 | 148 | ながぬま 長沼(N40°48'E140°16') |
| 127 | こぬま 小沼 | 149 | おがわらこ 小川原湖 |
| 128 | いもうとぬま 妹沼 | 150 | こうだぬま 甲田沼 |
| 129 | ながぬま 長沼(N41°20'E141°25') | 151 | あねぬま 姉沼 |
| 130 | おおぬま 大沼 | 152 | くる ぼうぬま 黒ん坊沼 |
| 131 | うそりさんこ 宇曽利山湖 | 153 | よこぬま 横沼 |
| | | 154 | つたぬま 鳶沼 |

| 湖沼番号 | ふりがな 湖沼名 | 湖沼番号 | ふりがな 湖沼名 |
|-----------|---------------------------------|--------|------------------|
| 155 | あかぬま 赤沼 | 175 | ございしよぬま 御在所沼 |
| 156 | ながぬま 長沼 (N40° 36' E140° 56') | 176 | がまぬま 曇沼 |
| 157 | けとばのいけ 鶏頭場ノ池 | 177 | おおぬま 大沼 |
| 158 | なかのいけ 中ノ池 | 178 | よぬま 夜沼 |
| 159 | おちぐちのいけ 落口ノ池 | 179 | おがまこ 御釜湖 |
| 160 | ひぐらしのいけ 日暮ノ池 | 180 | おなわしろこ 御苗代湖 |
| 161 | こしぐちのいけ 越口ノ池 | 181 | ひらがくらぬま 平ヶ倉沼 |
| 162 | おおいけ 王池 | 182 | さんかくぬま 三角沼 |
| 163 | はつたろうぬま 八太郎沼 | 183 | はちろうぬま 八郎沼 |
| 164 | きたぬま 北沼 | 184 | くらかけぬま 鞍掛沼 |
| 165 | いとわたのいけ 糸畑ノ池 | (計 12) | |
| 166 | かなやまのいけ 金山ノ池 | | |
| 167 | ながいけ 長池 | | < 宮城県 > |
| 168 | にごりいけ 濁池 | 185 | かたぬま 瀉沼 |
| 169 | はっけいのいけ 八景ノ池 | 186 | いずぬま 伊豆沼 |
| 170 | めんこざかのいけ 面子坂ノ池 | 187 | うちぬま 内沼 |
| 171 | おおいけ 大池 | 188 | ながぬま 長沼 |
| 172 | とわたこ 十和田湖 | 189 | かぶくりぬま 蕪栗沼 |
| (計 47) | | 190 | ゆとりぬま 魚取沼 |
| | < 岩手県 > | 191 | あいのぬま 相野沼 |
| 173 | ツバクラノ池 | 192 | はんもりながぬま 半森長沼 |
| 174 | はちまんぬま 八幡沼 | 193 | ながつらうら 長面浦 |
| | | 194 | ふじぬま 富士沼 |

| 湖沼番号 | ふりがな 湖沼名 | 湖沼番号 | ふりがな 湖沼名 |
|-----------|------------------|--------|-----------------|
| 195 | しろぬま 白沼 | 215 | めがた 女潟 |
| 196 | なびれぬま 名鱒沼 | 216 | からすぬま 空素沼 |
| 197 | ふながたながぬま 船形長沼 | 217 | たざわこ 田沢湖 |
| 198 | くわぬま 桑沼 | 218 | おとごえぬま 乙越沼 |
| 199 | まんごくうら 万石浦 | 219 | ながぬま 長沼（神岡町） |
| 200 | おおぬま 大沼 | 220 | おおうらぬま 大浦沼 |
| 201 | かま お釜 | 221 | にしぬま 西沼 |
| 202 | とり うみ 鳥の海 | 222 | ひるもぬま 蛭藻沼 |
| (計 18) | | 223 | くろがた 黒潟 |
| | < 秋田県 > | 224 | おおやいけ 大谷池 |
| 203 | おともぬま 小友沼 | 225 | おおやなぎぬま 大柳沼 |
| 204 | あさないぬま 浅内沼 | 226 | かいぬま 貝沼 |
| 205 | あさないこぬま 浅内小沼 | 227 | ほそぬま 細沼 |
| 206 | さくさわぬま 作沢沼 | 228 | いたどぬま 板戸沼 |
| 207 | はちろうがた 八郎潟 | 229 | こけぬま 苔沼 |
| 208 | ながぬま 長沼（鹿角市） | 230 | つぶぬま 田螺沼 |
| 209 | おおぬま 大沼 | 231 | けたくらぬま 桁倉沼 |
| 210 | いちのめがた 一の目潟 | 232 | かわらぬま 川原沼 |
| 211 | にのめがた 二の目潟 | 233 | ぬまざわぬま 沼沢沼 |
| 212 | さんのめがた 三の目潟 | (計 31) | |
| 213 | たてじ 垂天池 | | < 山形県 > |
| 214 | おがた 男潟 | 234 | とり うみ 鳥の海 |

| 湖沼番号 | ふりがな 湖沼名 | 湖沼番号 | ふりがな 湖沼名 |
|-----------|-----------------------------|------|--------------------|
| 235 | つるまいけ 鶴間池 | 255 | まつかわうら 松川浦 |
| 236 | なべこしぬま 鍋越沼 | 256 | ごしきぬま 五色沼(一切経山) |
| 237 | わかはたぬま 若畑沼 | 257 | おおだいらぬま 大平沼 |
| 238 | おおぬま 大沼(Numayama) | 258 | かまぬま 鎌沼 |
| 239 | ぬまざわぬま 沼沢沼 | 259 | めぬま 女沼 |
| 240 | おおとりいけ 大鳥池 | 260 | ゆくなぎぬま 無行沼 |
| 241 | おおぬま 大沼(Akanuma,Ukisima) | 261 | おぬま 男沼 |
| 242 | たまむしぬま 玉虫沼 | 262 | おおさわぬま 大沢沼 |
| 243 | あれぬま 荒沼 | 263 | そうばらこ 曾原湖 |
| 244 | こけぬま 苔沼 | 264 | ひばらこ 桧原湖 |
| 245 | まがぬま 曲沼 | 265 | おのがわこ 小野川湖 |
| 246 | おおぬま 大沼(Shirataka) | 266 | あきもとこ 秋元湖 |
| 247 | はしゅうぬま 羽竜沼 | 267 | べんてんぬま 弁天沼 |
| 248 | さんぼんぎぬま 三本木沼 | 268 | びしゃもんぬま 毘沙門沼 |
| 249 | さらぬま 皿沼 | 269 | みどろぬま 深泥沼 |
| 250 | かたかいぬま 片貝沼 | 270 | るりぬま 瑠璃沼 |
| 251 | さかづきこ 盃湖 | 271 | りゅうぬま 龍沼 |
| 252 | はくりゅうこ 白竜湖 | 272 | やなぎぬま 柳沼 |
| 253 | たまきぬま 玉木沼 | 273 | やろくぬま 弥六沼 |
| (計 20) | | 274 | かわかみあおぬま 川上青沼 |
| | < 福島県 > | 275 | ひめぬま 姫沼 |
| 254 | はんだぬま 半田沼 | 276 | おくにぬま 雄国沼 |
| | | 277 | いなわしろこ 猪苗代湖 |

| 湖沼番号 | ふりがな 湖沼名 | 湖沼番号 | ふりがな 湖沼名 |
|-----------|-----------------|-------|-----------------|
| 278 | ぬまざわぬま 沼沢沼 | 295 | きりこみこ 切込湖 |
| 279 | ひぬま 日沼 | 296 | ゆのこ 湯ノ湖 |
| 280 | ぬまおぬま 沼尾沼 | 297 | ごしきぬま 五色沼 |
| 281 | かんのんぬま 観音沼 | 298 | こうとくぬま 光徳沼 |
| 282 | かがみがぬま 鏡ヶ沼 | 299 | さいのこ 西ノ湖 |
| (計 29) | | 300 | ちゅうぜんじこ 中禅寺湖 |
| | < 茨城県 > | (計 7) | |
| 283 | ひぬま 湫沼 | | < 群馬県 > |
| 284 | おおぬま 大沼 | 301 | おぜぬま 尾瀬沼 |
| 285 | すなぬま 砂沼 | 302 | こぬま 小沼(尾瀬) |
| 286 | いちのたにぬま 一の谷沼 | 303 | じえもんいけ 治右衛門池 |
| 287 | かすみがうら 霞ヶ浦 | 304 | すげぬま 菅沼 |
| 288 | きたうら 北浦 | 305 | まるぬま 丸沼 |
| 289 | すがうぬま 菅生沼 | 306 | おおじりぬま 大尻沼 |
| 290 | うしくぬま 牛久沼 | 307 | おおみねぬま 大峰沼 |
| 291 | はがぬま 羽賀沼 | 308 | ゆがま 湯釜 |
| 292 | そとなさかうら 外浪逆浦 | 309 | おおぬま 大沼 |
| 293 | なかぬま 中沼 | 310 | こぬま 小沼(赤城) |
| (計 11) | | 311 | はるなこ 榛名湖 |
| | < 栃木県 > | 312 | たたらぬま 多々良沼 |
| 294 | かりこみこ 刈込湖 | 313 | じょうぬま 城沼 |
| | | 314 | こんどうぬま 近藤沼 |

| 湖沼番号 | ふりがな 湖沼名 | 湖沼番号 | ふりがな 湖沼名 |
|-----------|-----------------|------|-----------------------------|
| (計 14) | | | <神奈川県> |
| | | 329 | しんせいこ 震生湖 |
| | <埼玉県> | 330 | あしのこ 芦ノ湖 |
| 315 | たかすがぬま 高須賀沼 | (計2) | |
| 316 | しばやまぬま 柴山沼 | | <新潟県> |
| 317 | いさぬま 伊佐沼 | | さんきょいけ 山居池 |
| 318 | べっしょぬま 別所沼 | 331 | おいけ 御池 |
| (計4) | | 332 | かもこ 加茂湖 |
| | <千葉県> | 333 | ふくしまがた 福島潟 |
| 319 | ごだぬま 五駄沼 | 334 | とやのがた 鳥屋野潟 |
| 320 | よだうら 与田浦 | 335 | みたらせがた 御手洗潟 |
| 321 | てがぬま 手賀沼 | 336 | さがた 佐潟 |
| 322 | いんばぬま 印旛沼 | 337 | うわせきがた 上堰潟 |
| 323 | ひくさぬま 乾草沼 | 338 | あまごいけ 雨生池 |
| | <東京都> | 339 | おおいけ 大池(N37°28'E139°07') |
| 324 | しゃくじいけ 石神井池 | 340 | かがみがいけ 鏡ヶ池 |
| 325 | いのかしらいけ 井の頭池 | 341 | ながみのいけ 長峰ヶ池 |
| 326 | せんぞくいけ 洗足池 | 342 | さかたいけ 坂田池 |
| 327 | たいろいけ 大路西池 | 343 | あさひいけ 朝日池 |
| 328 | しんみょういけ 新濤池 | 344 | さいがいけ 犀ヶ池 |
| (計5) | | 345 | うのいけ 鵜ノ池 |
| | | 346 | あまがいけ 天ヶ池 |
| | | 347 | こいけ 小池 |
| | | 348 | |

| 湖沼番号 | ふりがな 湖沼名 | 湖沼番号 | ふりがな 湖沼名 |
|-----------|-------------------------------|---------|-----------------|
| 349 | おおいけ 大池 (N37°11' E138°22') | 363 | ぶしゅうがいけ 武周ヶ池 |
| 350 | ぼうがいけ 坊ヶ池 | 364 | やしやがいけ 夜叉ヶ池 |
| 351 | たかなみのいけ 高浪池 | 365 | くぐしこ 久々子湖 |
| 352 | しらいけ 白池 | 366 | ひるがこ 日向湖 |
| (計 22) | | 367 | すがこ 菅湖 |
| | < 富山県 > | 368 | すいげつこ 水月湖 |
| 353 | じゅうにちょうがた 十二町潟 | 369 | みかたこ 三方湖 |
| 354 | いけ ミクリガ池 | (計 8) | |
| 355 | どじょういけ 泥鱧池 | < 山梨県 > | |
| 356 | だしはらいけ 多枝原池 | 370 | しびれこ 四尾連湖 |
| 357 | ごろういけ 五郎池 | 371 | かわぐちこ 河口湖 |
| (計 5) | | 372 | さいこ 西湖 |
| | < 石川県 > | 373 | しょうじこ 精進湖 |
| 358 | おおちがた 邑知潟 | 374 | もとすこ 本栖湖 |
| 359 | かほくがた 河北潟 | 375 | やまなかこ 山中湖 |
| 360 | きばがた 木場潟 | (計 6) | |
| 361 | しばやまがた 柴山潟 | < 長野県 > | |
| (計 4) | | 376 | ちやいけ 茶屋池 |
| | < 福井県 > | 377 | かつらいけ 桂池 |
| 362 | きたがたこ 北潟湖 | 378 | なかふるいけ 中古池 |
| | | 379 | ほくりゅうこ 北竜湖 |

| 湖沼番号 | ふりがな 湖沼名 | 湖沼番号 | ふりがな 湖沼名 |
|------|------------------------|--------|-----------------|
| 380 | ぬまいけ 沼池 | 403 | たいしょういけ 大正池 |
| 381 | かまいけ 鎌池 | 404 | たしろいけ 田代池 |
| 382 | のじりこ 野尻湖 | 405 | おいけ 雄池 |
| 383 | おおいけ かぜふき 大池(風吹) | 406 | めいけ 雌池 |
| 384 | ふるいけ 古池 | 407 | あまいけ 雨池 |
| 385 | おおいけ はくば 大池(白馬) | 408 | ちょうこ 長湖 |
| 386 | ちこいけ 稚児池 | 409 | いなこ 猪名湖 |
| 387 | はすいけ 蓮池 | 410 | しらこまいけ 白駒池 |
| 388 | びわいけ 琵琶池 | 411 | すわこ 諏訪湖 |
| 389 | まるいけ 丸池 | 412 | にのいけ 二ノ池 |
| 390 | おおいけ いいづな 大池(飯綱) | 413 | さんのいけ 三ノ池 |
| 391 | おおぬまいけ 大沼池 | 414 | ふかみいけ 深見池 |
| 392 | きどいけ 木戸池 | (計 39) | |
| 393 | あおきこ 青木湖 | | < 岐阜県 > |
| 394 | なかつなこ 中綱湖 | 415 | つちどいけ 土樋池 |
| 395 | わくいけ 湧池 | 416 | にごりがいけ 濁ヶ池 |
| 396 | やなくほいけ 柳久保池 | 417 | さくらねいけ さくらね池 |
| 397 | きざきこ 木崎湖 | 418 | かめがいけ 亀ヶ池 |
| 398 | おおいけ うばすてかみ 大池(姥捨上) | 419 | きえずがいけ 不消ヶ池 |
| 399 | おおいけ うばすてしも 大池(姥捨下) | 420 | つるがいけ 鶴ヶ池 |
| 400 | ひじりこ 聖湖 | 421 | ごんげんいけ 権現池 |
| 401 | わしほのいけ 鷺羽池 | (計 7) | |
| 402 | みやかわいけ 宮川池工(明神池工) | | |

| 湖沼番号 | ふりがな 湖沼名 | 湖沼番号 | ふりがな 湖沼名 |
|------|----------------|------|----------------|
| | < 静岡県 > | 435 | にしのご 西之湖 |
| 422 | いっぺきこ 一碧湖 | (計6) | |
| 423 | はっちょういけ 八丁池 | | |
| 424 | いのはなこ 猪鼻湖 | | < 京都府 > |
| 425 | はまなこ 浜名湖 | 436 | はなれこ 離湖 |
| 426 | さなるこ 佐鳴湖 | 437 | くみはまわん 久美浜湾 |
| (計5) | | 438 | あそかい 阿蘇海 |
| | < 愛知県 > | 439 | ありがいけ 蟻ヶ池 |
| 427 | あぶらがふち 油ヶ渚 | 440 | みどろがいけ 深泥ヶ池 |
| (計1) | | 441 | くつわいけ 轡池 |
| | < 三重県 > | (計6) | |
| 428 | おおたぬま 大田沼 | (計0) | < 大阪府 > |
| 429 | しらいしこ 白石湖 | | |
| (計2) | | | < 兵庫県 > |
| | < 滋賀県 > | 442 | おくいけ 奥池 |
| 430 | よごこ 余呉湖 | (計1) | |
| 431 | びわこ 琵琶湖 | | < 奈良県 > |
| 432 | そねぬま 曽根沼 | (計0) | |
| 433 | おまつぬま 小松沼 | | |
| 434 | いばないこ 伊庭内湖 | | < 和歌山県 > |
| | | (計0) | |

| 湖沼番号 | ふりがな 湖沼名 | 湖沼番号 | ふりがな 湖沼名 |
|------|---------------|------|---------------|
| | < 鳥取県 > | | < 山口県 > |
| 443 | たねがいけ 多鯨ヶ池 | 454 | おうみこ 青海湖 |
| 444 | こやまいけ 湖山池 | (計1) | |
| 445 | とうごういけ 東郷池 | | < 徳島県 > |
| (計3) | | 455 | えびがいけ 海老ヶ池 |
| | < 島根県 > | (計1) | |
| 446 | おいけ 男池 | | < 香川県 > |
| 447 | めいけ 女池 | (計0) | |
| 448 | なかうみ 中海 | | < 愛媛県 > |
| 449 | しんじこ 宍道湖 | (計0) | |
| 450 | じんざいこ 神西湖 | | < 高知県 > |
| 451 | じゃいけ 蛇池 | (計0) | |
| 452 | うきぬのいけ 浮布池 | | < 福岡県 > |
| 453 | ばんりゅうこ 蟠竜湖 | (計0) | |
| (計8) | | | < 佐賀県 > |
| (計0) | < 岡山県 > | (計0) | |
| (計0) | < 広島県 > | (計0) | |

| 湖沼番号 | ふりがな 湖沼名 | 湖沼番号 | ふりがな 湖沼名 |
|------|-----------------|-------|------------------|
| | <長崎県> | | <鹿児島県> |
| 456 | おおいけ 大池 | 468 | しんもえいけ 新燃池 |
| (計1) | | 469 | おおなみのいけ 大浪池 |
| | <熊本県> | 470 | なまこいけ 海鼠池 |
| 457 | かみえづこ 上江津湖 | 471 | すぐちいけ 須口池 |
| 458 | しもえづこ 下江津湖 | 472 | かいいけ 貝池 |
| (計2) | | 473 | くわぎきいけ 鍬崎池 |
| | <大分県> | 474 | いむたいけ 藺牟田池 |
| 459 | しだかこ 志高湖 | 475 | すみよしけ 住吉池 |
| 460 | おだのいけ 小田の池 | 476 | いけだこ 池田湖 |
| 461 | たていしいけ 立石池 | 477 | うなぎいけ 鰻池 |
| (計3) | | 478 | かがみいけ 鏡池 |
| | <宮崎県> | 479 | うちうみ 内海 |
| 462 | ふどういけ 不動池 | (計12) | |
| 463 | ろっかのんいけ 六観音池 | | <沖縄県> |
| 464 | びやくしいけ 白紫池 | 480 | おおいけ 大池(南大東島) |
| 465 | おおはたいけ 大幡池 | (計1) | |
| 466 | みいけ 御池 | (総計) | 480 |
| 467 | こいけ 小池 | | |
| (計6) | | | |

別表2 特定湖沼一覧

| 湖沼番号 | 湖沼名 | 都道府県名 | 湖沼番号 | 湖沼名 | 都道府県名 |
|------|-----------|-------|------|----------|-------|
| 11 | クツチャ口湖 | 北海道 | 328 | 新 湊 池 | 東 京 |
| 20 | サ 口 マ 湖 | " | 329 | 震 生 湖 | 神奈川 |
| 44 | 屈 斜 路 湖 | " | 330 | 芦 ノ 湖 | " |
| 48 | 阿 寒 湖 | " | 333 | 加 茂 湖 | 新 潟 |
| 77 | 湧 洞 沼 | " | 359 | 河 北 湖 | 石 川 |
| 101 | 支 笏 湖 | " | 361 | 柴 山 湖 | " |
| 112 | 洞 爺 湖 | " | 368 | 水 月 湖 | 福 井 |
| 122 | 大 沼 | " | 369 | 三 方 湖 | " |
| 131 | 宇 曾 利 山 湖 | 青 森 | 371 | 河 口 湖 | 山 梨 |
| 133 | 十 三 湖 | " | 372 | 西 湖 | " |
| 149 | 小 川 原 湖 | " | 373 | 精 進 湖 | " |
| 172 | 十 和 田 湖 | " | 374 | 本 栖 湖 | " |
| 217 | 田 沢 湖 | 秋 田 | 375 | 山 中 湖 | " |
| 228 | 板 戸 沼 | " | 382 | 野 尻 湖 | 長 野 |
| 264 | 桧 原 湖 | 福 島 | 393 | 青 木 湖 | " |
| 277 | 猪 苗 代 湖 | " | 394 | 中 綱 湖 | " |
| 278 | 沼 沢 沼 | " | 397 | 木 崎 湖 | " |
| 283 | 酒 沼 | 茨 城 | 411 | 諏 訪 湖 | " |
| 287 | 霞 ケ 浦 | " | 425 | 浜 名 湖 | 静 岡 |
| 288 | 北 浦 | " | 426 | 佐 鳴 湖 | " |
| 293 | 中 沼 | " | 430 | 余 呉 湖 | 滋 賀 |
| 296 | 湯 ノ 湖 | 栃 木 | 431 | 琵琶 湖 | " |
| 300 | 中 禅 寺 湖 | " | 444 | 湖 山 池 | 鳥 取 |
| 301 | 尾 瀬 沼 | 群 馬 | 445 | 東 郷 池 | " |
| 304 | 菅 沼 | " | 448 | 中 海 池 | 島 根 |
| 305 | 丸 沼 | " | 449 | 穴 道 湖 | " |
| 309 | 大沼(赤城) | " | 466 | 御 池 | 宮 崎 |
| 311 | 榛 名 湖 | " | 476 | 池 田 湖 | 鹿 児 島 |
| 321 | 手 賀 沼 | 千 葉 | 477 | 鰻 池 | " |
| 322 | 印 旛 沼 | " | 480 | 大池(南大東島) | 沖 縄 |
| 327 | 大 路 池 | 東 京 | | | |

計 61 湖沼

別表3 魚類分類表

| | |
|----------|--------------|
| ヤツメウナギ科 | カジカ科 |
| チヨウザメ科 | アカメ科 |
| カライワシ科 | スズキ科 |
| ハイレン科 | シマイサキ科 |
| ウナギ科 | ユゴイ科 |
| ニシン科 | サンフィッシュ科 |
| カタクチイワシ科 | アジ科 |
| サケ科 | ヒイラギ科 |
| アユ科 | フエダイ科 |
| キュウリウオ科 | タイ科 |
| シラウオ科 | クロホシマンジュウダイ科 |
| コイ科 | カワスズメ科 |
| ドジョウ科 | ボラ科 |
| ギギ科 | ツバサハゼ科 |
| ナマズ科 | ハゼ科 |
| ヒレナマズ科 | カワアナゴ科 |
| サヨリ科 | タイワンドジョウ科 |
| メダカ科 | キノボリウオ科 |
| カダヤシ科 | タウナギ科 |
| トゲウオ科 | カレイ科 |
| ヨウジウオ科 | フグ科 |
| フサカサゴ科 | |
| コチ科 | |

第 2 回自然環境保全基礎調査要綱

第 13 河川調査

1979

環境庁自然保護局

第13 河 川 調 査

目 次

| | |
|------------------------|----|
| 河川調査要綱 | 2 |
| 別紙1 河川調査実施要領 | 6 |
| 様式1 魚類調査票 | 15 |
| 様式2 魚類調査総括表 | 19 |
| 様式3 河川改変状況調査票 | 33 |
| 様式4 河川調査図 | 37 |
| 様式5 原生流域図 | 41 |
| 別紙2 報告書作成要領 | 43 |
| 別紙3 河川調査図帳作成要領 | 54 |
| 別表1 調査対象河川一覧 | 59 |
| 別表2 都道府県別調査分担及び魚類調査地点数 | 73 |
| 別表3 魚類分類表 | 87 |

河川調査要綱

1. 調査目的及び調査概要

わが国の河川においては、水質の悪化について対策が講じられてきているが、ダム等の建設、護岸改修、都市部における河川の埋立・暗きょ化等の著しい改変による生物相の貧困化、住民の憩の場の消失等の問題に対処するための継続的体系的調査は、ほとんどなされていないのが現状である。

このため、本調査においては、わが国の河川の自然性の現況及び利用の状況を把握するために、主として全国の1級河川の幹川を対象として、魚類の生息状況及び河岸の改変状況等について調査する。

また、集水域全体が原生状態を保っている河川（「原生流域」）は、わが国ではごくわずか残されているにすぎないと思われるため、早急に保全対策を講じる必要から、これらの地域の摘出を行う。

2. 調査実施者

国が都道府県に委託して実施する。

3. 調査対象河川

別表1「調査対象河川一覧」に掲げた河川の河口から上流
端までを調査対象とする。

ただし、「原生流域」の調査は、全国のすべての河川
を対象とする。

4. 調査実施期間

契約締結の日から昭和55年3月31日までとする。

5. 調査内容及び調査方法

下記の事項について調査する。なお、調査方法の詳細
は、別紙1「河川調査実施要領」による。

(1) 魚類調査

投網による漁獲試験を実施して、魚類相を調査する。
調査地点数については、それぞれの都道府県において
別表2に示した通りとする。さらに補足のために既存
資料の収集・整理及び漁協等からの聞き取りを行い、
次の事項について調査する。

ア. 生息する魚種名

イ. 漁獲量

ウ. 放流量

エ. 天然繁殖の有無

オ. 魚類相に関する記録

また、調査地点の水温、底質等を調べるとともに、
流量の変動等についても既存資料より調査する。

(2) 河川改変状況調査

現地確認調査を実施し、次の事項について調査する。

- ア． 水際線の改変状況
- イ． 河原の土地利用状況
- ウ． 河畔の土地利用状況
- エ． 河川横断工作物の設置箇所数
- オ． 取水施設の有無
- カ． 河川の利用状況
- キ． 河川環境における不快要因

(3) 原生流域調査

1000ha 以上の面積を有し、その全体が人工構築物、
森林伐採等人為の影響が認められないような河川の集
水域(「原生流域」)を摘出する。

6 . 調査結果のとりまとめ

受託者は、調査結果を下記の図票にとりまとめる。

(1) 魚類調査票

調査事項を、「魚類調査票」(様式 1)にとりまと
める。

(2) 魚類調査総括表

調査事項を、「魚類調査総括表」(様式 2) にとりまとめる。

(3) 河川改変状況調査票

調査事項を、「河川改変状況調査票」(様式 3) にとりまとめる。

(4) 河川調査図

河川区域、魚類調査地点、河川改変状況調査の調査区間等を「河川調査図」(様式 4) にならい、国土地理院発行の 1/2.5 万地形図に表示する。

(5) 原生流域図

調査した結果を、「原生流域図」(様式 5) にならい、国土地理院発行の 1/5 万地形図に表示する。

7 . 調査結果の報告

受託者は調査結果をとりまとめ、報告書 150 部、河川調査図帳 1 部、及び原生流域図帳 1 部 (原生流域が抽出されなかった都道府県では不要) をそれぞれ別紙 2 により作成し、昭和 55 年 3 月 31 日までに環境庁自然保護局長あて提出する。

<別紙 1 >

河 川 調 査 実 施 要 領

1 . 通 則

第 2 回自然環境保全基礎調査河川調査は、この実施要領に従って行うこととし、その調査内容は次のとおりとする。

- (1) 魚類調査
- (2) 河川改変状況調査
- (3) 原生流域調査

2 . 河川等の定義

- (1) この調査で「河川区域」とは、河川法の規定による「河川区域」とする。

(注) 河川区域の境界は、建設省地方建設局の工事事務所(管理が都道府県または市町村に委任されている場合は、都道府県または市町村の担当課)が保管している河川現況台帳の付属図面(通常、縮尺 1/2,500 または 1/5,000)に表示されている。

- (2) 「水際線」とは、平水位における水面が陸地と接する部分をいう。
- (3) 「河原」とは、河川区域内の陸部のうち、比較的平

坦な部分をいう。

(4) 「河畔」とは、河川区域の外側幅 100mの区域をいう。

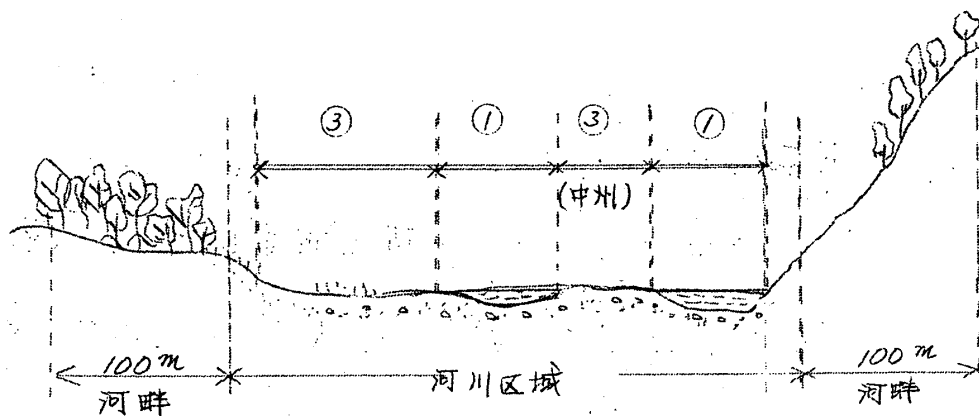
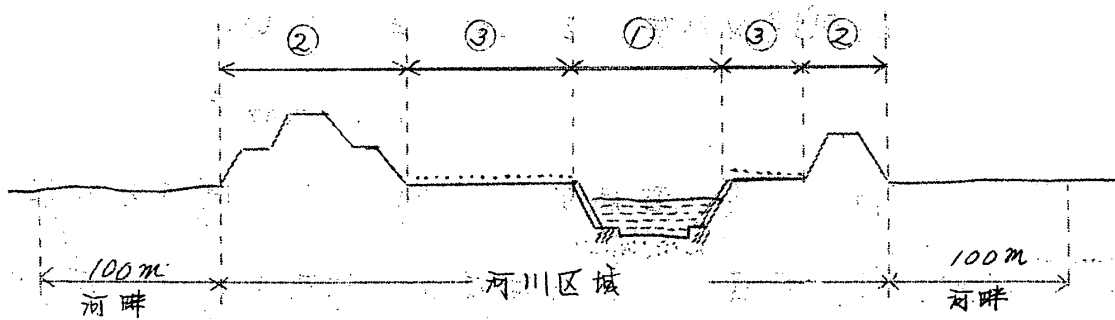
(5) 「右岸」「左岸」とは、それぞれ上流から下流に向けた呼称である。

(参考)

① 流水敷

② 堤防敷

③ 河原



3. 調査対象河川及び都道府県別調査分担

調査対象河川、都道府県別調査分担は、別表1「調査対象河川一覧」、別表2「都道府県別調査分担及び魚類調査地点数」によるものとする。

ただし、原生流域調査は、全国のすべての河川を対象とする。

4. 魚類調査

(1) 別表1に示す河川の幹川を対象として、次に示すとおり、漁獲試験及び生息環境の調査を行い、「魚類調査票」(様式1)を作成する。また、漁獲試験の結果を既存資料の収集・整理及び漁協等からの聞きとりにより補足し、「魚類調査総括表」(様式2)を作成する。

(2) 漁獲試験

ア. 調査地点

(ア) 調査地点は、次の事項に留意しながら設定する。

地点数はそれぞれの河川ごとに別表2の魚類調査地点数による。

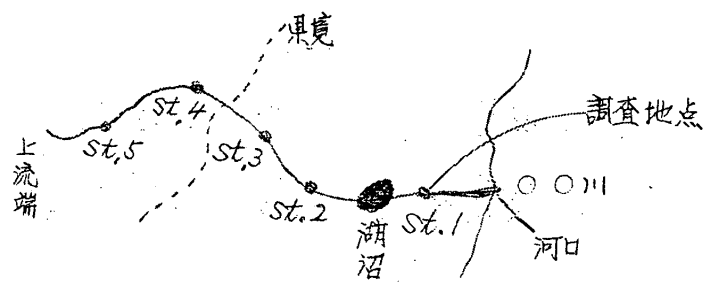
河口と上流端の間に、できる限り均等に分散するようにする。

1 河川を 2 以上の都府県が分担して調査する場合には、関係都府県間で調査地点の位置を調整する。

湖沼（天然、人工）内での調査は原則として避ける。

できる限り投網の打ちやすい場所を選ぶようにする。

(例)



(イ) 調査地点には、下流側より st.1、st.2

というように調査地点番号を付す。(1 河川を 2 以上の都府県で分担して調査する場合も、通し番号とする。) また、調査地点の通称を調べ、調査地点、調査地点番号とともに「河川調査図」(様式 4) にならい、国土地理院発行の 1/2.5 万地形図に表示する。

(ウ) 調査地点の「河口からの距離」を河川の流心線に沿って計測する。(単位は Km で小数第 1 位まで求める。)

(エ) 調査地点(河床)の「標高」を計測する。(単位は m 単位で求める。)

イ. 調査実施期間

調査は夏(主として 7、8 月)に実施する。ただし雨後の濁りが著しい期間は避け、平常に戻った後に行うものとする。

ウ. 調査内容

調査地点ごとに、投網による漁獲試験を実施し、次の項目について調査する。

(ア) 魚種名: 捕獲された魚種の標準和名(種レベルまでの)を調べる。

(イ) 捕獲数

(ウ) 最小全長及び最大全長: 単位は mm で計測する。

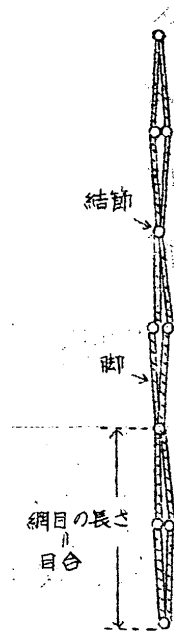
エ. 捕獲方法

捕獲には、原則として、投網を使用する。ただし、投網では捕獲できない魚種を捕獲するために河川の状態に合わせて適宜、投網以外の方法を併用することが望ましい。

(ア) 投網の目合

目合の異なる2種類の投網(網目の長さ18mmと12mm程度のもの)を使用し、使用した投網の目合を調査票に記入する。また、網裾の長さを計測(単位はmで、小数第1位まで)し、調査票に記入する。

通称6分目と4分目



(参考)

漁具網地の目合の表示方法
網地を縦方向にのばして、「網目の長さ」を測定する。

(イ) 投網の打数

上記の2種類の投網についてそれぞれ、捕獲数

が50尾を越えるか、または、打数が10回に達するまで打つ。

(ウ) 投網を打つ場所

各調査地点において、できるだけ多くの種類の魚を捕獲するために瀬、淵、岸辺、流心等河川の多様な状況のところを広く打つようにする。

(エ) 投網以外の捕獲方法を用いた場合は、その方法について、調査票に記入する。

オ. 種の同定が困難な魚種が捕獲された場合は、標本として保存するか、またはカラー写真を撮影する。

カ. 調査に当たり、魚類の捕獲には、漁協組合員等の協力を、また、魚類の同定には、専門家の協力を得て実施するものとする。

(3) 生息環境調査

ア. 漁獲試験の調査地点ごとに、次の項目について調査する。

(ア) 気温

漁獲試験時の気温を測定する。測定は、日光の直射および周囲の放射を避けて行う。(単位はで小数第1位まで求める。)

(イ) 水 温

漁獲試験時の水温（表面水温）を測定する。測定はできるだけ流心付近で行う。（単位は で小数第1位まで求める。）

(ウ) 底 質

現地観察により、底質の状態が泥、砂、礫、岩、コンクリートのいずれに該当するか調べる。なお、瀬と淵等により底質の状態が異なる場合は、分けて調査票に記入する。

(エ) 塩分（変更）

感潮域において、漁獲試験を実施する場合は、「海洋観測指針」（気象庁編）の測定法により、漁獲試験時の塩

分

を測定する。測定はできるだけ流心付近で行う。

なお、塩素イオン濃度を測定するかわりに、比重計により、比重を測定してもさしつかえない。

イ. 調査地点付近で、調査地点と状況が類似していると思われる地点において、水温、流量に関する資料があれば、その資料により次の項目について調査する。

(ア) 夏期水温の日変動

夏期(7、8月)における水温の日変動(平均水温及び日較差の平均)を調べる。

(イ) 夏期流量の日変動

夏期(7、8月)における流量の日変動(平均流量及び日較差の平均)を調べる。

(ウ) 流量の年変動

流量の年変動(最大・最小・平均流量)を調べる。

ウ. 調査地点の概要として、調査地点付近でのダム、堰、護岸等の人工構築物の設置状況、水草の繁茂状況、水質、水のにごり、土砂の堆積、水深等魚類の生息、繁殖に関係すると思われる事項について調べる。

エ. 調査地点において調査地点付近の状況を示す写真を撮影する。

(様式1) 魚類調査票

| 魚 類 調 査 票 | | | | 調査年度 1979 | | | | |
|-------------------------------|----------|---------------------|---------------------|-----------|-------|---------|----------|-------|
| | | | | 都道府県 | | | | |
| 河川番号 | | 河 川 名 | | 捕獲魚種名 | 捕獲数 | 全 長 | | 備 考 |
| | | | | | | 最小(mm) | 最大(mm) | |
| 標高 | 調査地点番号 | | | 1 | | | | |
| | 調査地点の通称 | | | 2 (記入例) | | | | |
| | 河口からの距離 | Km | | 3 オイカワ | 21 | 95 | 154 | |
| | 調査月日 | | | 4 カワムツ | 18 | 81 | 132 | |
| | 調査時刻 | | | 5 | | | | |
| | 天 候 | | | 6 | | | | |
| | 気 温 | ℃ | | 7 | | | | |
| | 水 温 | ℃ | | 8 | | | | |
| | 底 質 | | | 9 | | | | |
| | 底質 | | | 10 アユ | 6 | 160 | 295 | |
| 塩分 | 底質 | | | 11 | | | | |
| | 底質 | | | 12 | | | | |
| | 底質 | | | 13 | | | | |
| | 底質 | | | 14 マハセ | 3 (4) | 100(12) | 210 (24) | (セコ網) |
| | 底質 | | | 15 Xダカ | (18) | (12) | (39) | (タモ網) |
| | 底質 | | | 16 カジカ | (2) | (62) | (65) | (セコ網) |
| | 底質 | | | 17 | | | | |
| | 底質 | | | 18 | | | | |
| | 底質 | | | 19 | | | | |
| | 底質 | | | 20 | | | | |
| 調査地点付近の状況 | 夏期水温の昼夜動 | 平均水温 | ℃ | 21 | | | | |
| | 夏期流量の昼夜動 | 昼夜の平均 | ℃ | 22 | | | | |
| | 流量の年変動 | 最大流量 | m ³ /sec | | 23 | | | |
| | | 最小流量 | m ³ /sec | | 24 | | | |
| | 平均流量 | m ³ /sec | | 25 | | | | |
| | 平均流量 | m ³ /sec | | 26 | | | | |
| 調査地点の概要 | | | | 27 | | | | |
| (記入例) | | | | 28 | | | | |
| ・上流500mに砂防ダム | | | | 29 | | | | |
| ・右岸側にアシ繁茂 | | | | 30 | | | | |
| ・上流域での森林伐採による土砂流失により水かたがっている。 | | | | 31 | | | | |
| ・上流より農薬流入 | | | | 32 | | | | |
| ・河川改修により河床平坦化 | | | | 33 | | | | |
| ・流心付近の水深3m位 | | | | 34 | | | | |
| | | | | 35 | | | | |
| | | | | 36 | | | | |
| | | | | 37 | | | | |
| 調査者(所属・氏名) | | | | 38 | | | | |
| | | | | 39 | | | | |
| | | | | 40 | | | | |
| | | | | 計 | 18種類 | 計 135 | 計 36 | |

(注) ()内は、投網以外の方法による漁獲

(魚類調査票記入上の注意)

- 1 . 調査票は、1 調査地点ごとに作成する。
- 2 . 「都道府県」には、調査担当都道府県名を記入する。
- 3 . 「河川番号」には、別表 1 に示す、当該河川の河川番号を記入する。
- 4 . 「調査地点の概要」には、記入例のように調査地点の概要について記入する。
- 5 . 「捕獲魚種名」には、投網による捕獲数の多い順に、魚種名を記入する。
- 6 . 「捕獲数」「最小全長」「最大全長」については、投網以外の方法で捕獲された分は、() 内に記入する。
- 7 . 投網以外の方法で捕獲された魚種の場合は、「備考」欄にその捕獲方法を () 書きで記入する。
- 8 . 「調査者」には、調査にあたった者の代表者の所属及び氏名を記入する。
- 9 . 調査票裏面には、当該調査地点付近の状況を示す写真を貼付するとともに撮影方向についてコメントする。

(4) 魚類調査総括表の作成

漁獲試験の他に、既存資料の収集・整理及び漁協等からの聞きとりを行い次の事項について整理し、「魚類調査総括表」(様式2)を作成する。

なお、魚類相の調査に関しては、魚類に詳しい専門家の協力をあおぐものとする。

ア. 魚類相に関する記録

当該河川の魚類相全般についての学術調査等による記録があれば、その時、記録されている魚種名(原則として当該都道府県に係る分)を記入する。

イ. 調査地点別魚類相

漁獲試験及び漁協等からの聞きとりにより、生息が確認された魚種を漁獲試験の調査地点別に整理する。

ウ. 漁獲量(年平均漁獲量)

漁獲統計等により過去5年間の漁獲量の年平均を魚種ごとに単位はtで小数第1位まで調べる。

エ. 放流量(年平均放流量)

放流されている魚類があれば、過去5年間の放流量の年平均を魚種ごとに調べる。卵放流の場合は単

位は「千粒」、稚魚（ないしは成魚）放流の場合は、
単位は「千尾」で示す。

オ． 天然繁殖の有無

当該河川に現在生息していると思われる魚種につ
いて、採卵、人工孵化によらず自然の状態で繁殖し
ているかどうかについて調べる。

(様式2) 魚類調査総括表

(記入例)

魚類調査総括表

| 河川番号 | | 河川名 | | 調査地点別魚類相 | | | | | 漁獲量 (t/年) | 放流量 | | 天然 繁殖 | 備 考 |
|---------|---------------|------------|------|----------|------|------|------|-----|--------------|--------------|-------------------------|----------|--|
| 〇〇 | | 〇〇川 | | St1 | St2 | St3 | St4 | St5 | | 卵放流 (t/年) | 稚魚 成魚 放流 (t/年) | | |
| | | | | 下井 | 小橋 | 川登 | 井草 | 岩間 | | | | | |
| 魚 種 名 | 魚類相に 関する記録 | | | | | | | | | | | | |
| | *1 1947 | *2 1969 | 8.5 | 16.2 | 28.1 | 42.2 | 49.5 | | | | | | |
| スナヤツメ | | | | ○ | | | | | — | — | — | | |
| アマゴ | ○ | | | | | | ○ | | — | — | 50 | ○ | |
| ニジマス | | ○ | | | | | ○ | | 15.4 | — | 300 | | 1960年より放流 |
| イワナ | | ○ | | | | | | ○ | 0.0 | — | 0 | ? | |
| アユ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | 92.4 | 576 | — | ○ | 湖上は家でもよく採新し たが、湖下では採れ ない。採れたのは 採れた。採れた。 |
| タモロコ | | ○ | ○ | | | | | | — | — | — | ○ | |
| カマツカ | ○ | | | □ | | | | | 0.0 | — | — | ? | |
| ウグイ | ○ | ○ | | | | ○ | ○ | | 22.1 | — | — | ○ | |
| タカハヤ | ○ | ○ | | | | | ○ | | 0.0 | — | — | ○ | 病気で発生のため激減 |
| オイカワ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | 79.4 | — | — | ○ | 移殖で増加 |
| ギンブナ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | 70.2 | 100 | — | ○ | |
| ゲンゴロウブナ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | — | ? |
| トジョウ類 | ○ | | | □ | | | | | — | — | — | ○ | シマトジョウらしい |
| カジカ類(1) | ○ | ○ | | | | ○ | ○ | | — | — | — | ○ | |
| カジカ類(2) | ○ | ○ | | | | | ○ | | — | — | — | ○ | |
| チチブ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | — | — | — | | |
| カワヨシノボリ | ○ | ○ | | | | □ | ○ | | — | — | — | ○ | |
| マハゼ | | | ○ | | | | | | — | — | — | | |
| ウキゴイ | ○ | | □ | □ | | | | | — | — | — | | |
| (種数計) | | | 8 | 9 | 7 | 8 | 1 | | | | | 11 | |
| | | | 19魚種 | | | | | | | | | | |

資料

- * 1 大学水産学部 星野一昭光橋
~羽村橋
- * 2 水産試験場
梅ノ又~元湯 投網

(注1) 類は種名まで確認できなかったもの

(注2) 調査地点別魚類相の記号

漁獲試験により生息を確認したもの

上記以外で漁協等からの聞きとりにより生息を確認したもの

(総括表作成上の注意)

- 1 . 総括表は、当該都道府県の調査対象河川ごとに作成する。
- 2 . 「魚種名」には、別表3「魚類分類表」に示す順序に準じて魚種名を記入する。
- 3 . 「魚種名」には標準和名を使用するものとする。また、「フナ」というような総称を用いることは避け、極力「ギンプナ」₁、「ゲンゴロウブナ」というように種レベルの名称まで調べるよう努める。どうしても種名まで確認できない場合には、必ず「フナ類」₁、「ドジョウ類」のように表示する。
- 4 . 記入例(ギンプナ、ゲンゴロウブナ、カワヨシノボリ)のように、文献の記録等で種名まで確認できなかったものは、類と表示する。
- 5 . 記入例(カジカ類(1)₁(2))のようにカジカ類に明らかに2種いることが判っているが種名までは判明していない場合は、記入例のように「カジカ類(1)」₁、「カジカ類(2)」と表示する。
- 6 . 調査地点別魚類相の欄に用いる記号は次のように使い分ける。

.....漁獲試験により生息を確認したもの。

.....上記以外で漁協等の聞きとりにより生息を確認したもの。

7. 「漁獲量」が四捨五入しても0.1t/年に達しない場合は、記入例のように「0.0t/年」と表示し、漁獲実績がない場合は「-」と表示する。
8. 「放流量」が四捨五入しても1千粒（または1千尾）に達しない場合は、記入例のように「0千粒」（または、「0千尾」と表示し、放流実績がない場合は「-」と表示する。
9. 「天然繁殖」の有無がはっきりしない場合は、「？」と表示する。
10. 「備考」には、記入例のようにそれぞれの魚種について特記すべき事項があれば記入する。
11. （種数計）には、調査地点別魚類、それらを合せたもの及び天然繁殖していると思われる魚類の種類数を記入する。種名まで確認できず「 類」とされたものは1種に数える。また、天然繁殖の有無がはっきりせず「？」印となったものは、カウントしない。
12. 表の欄外には、魚類相について調べた既存資料の名称、

調査区間、調査（捕獲）方法等を記載する。また、類印の説明、調査地点別魚類相の記号の凡例を記入例のように記載する。

5. 河川改変状況調査

(1) 別表1に示す河川の幹川の水際線の改変状況、河原の土地利用状況、河畔の土地利用状況、ダム、堰等河川横断工作物の設置箇所数、取水施設の有無、河川の利用状況、河川環境における不快要因について、次に示すとおり既存資料(1/2.5万地形図)による調査及び現地確認調査を実施し、「河川改変状況調査票」(様式3)を作成する。

(2) 調査区間の設定

河川を河口より流路延長1kmごとに区切り、区切られた各区間を調査区間とする。調査区間には下流側より番号を付す。(1河川を2以上の都府県で分担して調査する場合も、通し番号とする。)

各調査区間ごとに(4)以下の項目について調査するものとする。

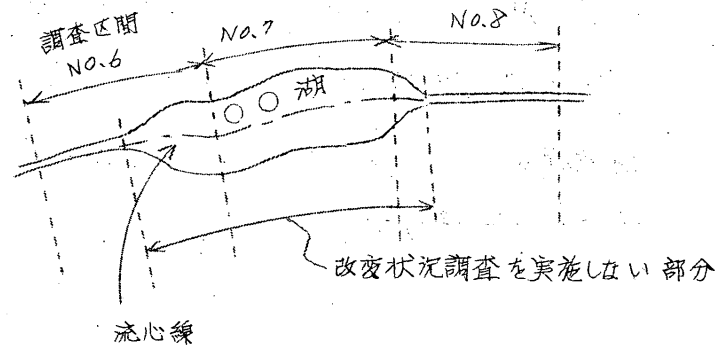
なお、調査区間の設定に際しては、次のことに留意する。

ア. 流路の途中に、湖沼がある場合、湖沼部分の流路延長は、流心線に沿って計測する。

イ. 網走湖、十三湖、小川原湖、穴道湖、中海につい

では、「湖沼調査」を実施するので、調査区間は設定するが、当該湖沼部分では、河川改変状況調査は行なわない。

(例)

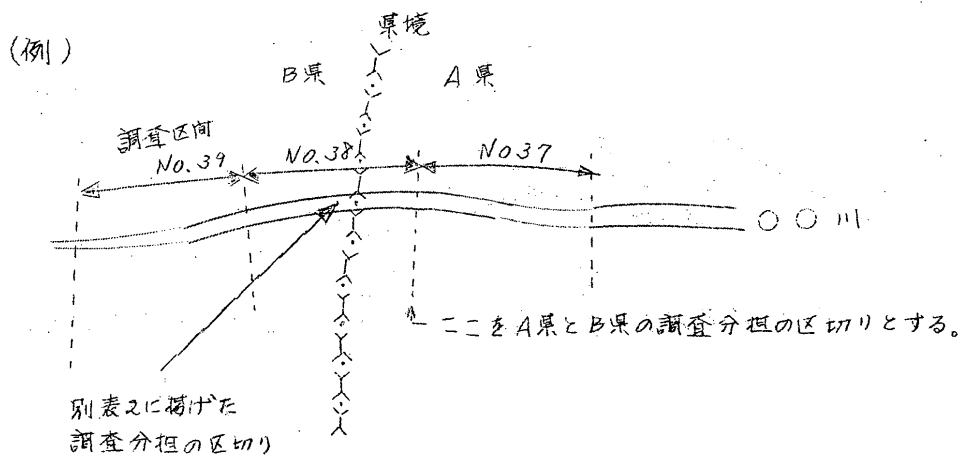


ウ． 最上流端の区間については、区間延長が1 km 未満であっても、1 調査区間とする。

また、調査区間の区切り線、調査区間番号を「河川調査図」(様式4)にならい、国土地理院発行の1/2.5万地形図に表示する。

(3) 都府県間の調査分担

1 河川を2以上の都府県で分担して調査する場合、都府県間の調査分担の区切りは、別表2の調査担当区間の欄に掲げた地点に最も近い調査区間の区切り線のところとする。

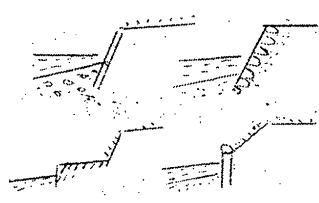


(4) 水際線の改変状況

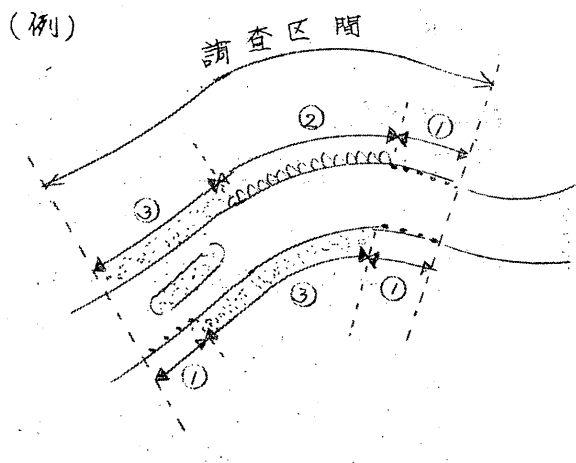
水際線の改変状況を表1のとおり区分し、それぞれの調査区間において、各区分ごとの合計延長の10分比を求める。この場合、右岸と左岸のみを計測し、中洲については、計測しないものとする。

表1 水際線の改変状況区分

コード

| | | |
|------------------------------------|---|--|
| 水際線がコンクリート護岸、石積護岸、矢板等の工作物で構成されている。 |  | |
| 水際線が上記の工作物によって構成されていない。 | がけ地である | |
| | がけ地でない | |

(注) がけ地とは、傾斜30°以上、高さ3m以上の傾斜地をいう。



①～③の各区分ごとの合計延長の10分比は、右岸、左岸を合わせた水際線の総延長を10とし

$$\text{①} : \text{②} : \text{③} = 3 : 2 : 5$$

(5) 河原の土地利用状況

河原の土地利用状況を表2のとおり区分し、それぞれの調査区間において、各区分ごとの合計面積の10分比を求める。この場合、中洲の部分についても計測するものとする。

なお、調査区間内において、右岸、左岸及び中洲のいずれにおいても、幅100mを越える河原がない場合は、当該調査区間では、河原の土地利用状況の調査を実施しない。(調査区間内でほんの一部でも、幅100mを越える部分があれば、調査を実施する。)

表2 河原の土地利用状況区分

| | | コード |
|---|---------------------|-----|
| 自然 地 | 砂礫地または荒原地 | |
| | 背丈の低い草地 | |
| | 背丈の高い草地（アシ、オギ、ススキ等） | |
| | 樹林地 | |
| 農業地（水田、畑、果樹園等） | | |
| 未利用造成地（河川改修等に伴い高水敷が造成されているが、施設の土地利用、農業的土地利用はなされていない。） | | |
| 施設の土地利用地（自動車教習場、ゴルフ場、グラウンド、公園、広場等の施設の土地利用がなされている。宅地等も含む。） | | |

（6） 河畔の土地利用状況

河畔の土地利用状況を表3のとおり区分し、各調査区間において、右岸、左岸別にそれぞれ、河畔がいずれの区分に該当するかを調べ、コード番号で示す。

1 調査区間の片側の河畔において、2以上の土地利用がなされている場合は、最も大きな面積を占めている土地利用を当該河畔の土地利用状況区分とする。

表3 河畔の土地利用状況区分

| | | コード | |
|-------------------|---|-----|---|
| 自然地 | 樹林地、自然草地、湿地等自然が人工によって著しく改変されていないで自然の状態を保持している土地 | 樹林地 | 1 |
| | | その他 | 2 |
| 農業地 | 水田、畑、放牧地、果樹園等の農業的な利用が行なわれている土地 | | 3 |
| 市街地 工業地 その他 | 住宅地、業務地、工場、廃棄物処理場、遊園地等都市的な利用が行なわれている土地 | | 4 |

(7) 河川横断工作物の設置箇所数

ダム、堰、床固、水門、閘門等の河川横断工作物

(橋梁を除く)を表4のとおり区分し、それぞれの調査区間において、各区分ごとの設置箇所数を求める。

なお、閘門については、閘門一室をもって1基とする。

また、堰堤部の高さ15m以上のダムをチェックし

ておく。

表4 河川横断工作物区分

| | | コード |
|---------|-----|-----|
| 魚の溯上可能 | 魚道有 | |
| | 魚道無 | |
| 魚の溯上不可能 | 魚道有 | |
| | 魚道無 | |

(8) 取水施設の有無

それぞれの調査区間において、取水施設の有無を調べる。

(9) 河川の利用状況

それぞれの調査区間の河川区域及び河畔において、次に掲げる利用状況が見られるかどうかについて調査する。

ア． 風景探勝（遊歩道）

イ． キャンプ

- ウ． 温 泉
- エ． ボート
- オ． 川下り
- カ． 常設釣場
- キ． 漁 業

その他に、顕著な河川の利用が見られる場合は、調査票に記入する。

(10) 河川環境における不快要因

それぞれの調査区間において、次に掲げる項目が、河川環境において、非常に不快感を生じさせているかどうかについて調査する。

- ア． 水のごり
- イ． 水面上のアワ
- ウ． 河川の悪臭
- エ． 河川区域内のゴミ・残材
- オ． 砂利採取
- カ． 河畔の道路法面
- キ． 水量の少なさ
- ク． 渇水時の露出したダム湖岸

その他に、河川環境において非常に不快感を生じさ

せている事例があれば、具体的に調査票に記入する。

(11) 保全地域の指定状況

それぞれの調査区間の河川区域において、自然公園、自然環境保全地域等（以下「保全地域」という。）が指定されている場合には、その地域地区区分を次のコード番号で示す。2以上の地域地区区分がある場合は、そのすべてのコード番号を示す。

表5 保全地域の地域地区区分

| 地域地区区分 | | コード |
|------------|--------|-----|
| 国立公園 | 特別保護地区 | 11 |
| | 特別地域 | 12 |
| | 普通地域 | 13 |
| 国定公園 | 特別保護地区 | 21 |
| | 特別地域 | 22 |
| | 普通地域 | 23 |
| 県立自然公園 | 特別地域 | 32 |
| | 普通地域 | 33 |
| 原生自然環境保全地域 | | 41 |
| 自然環境保全地域 | 特別地区 | 52 |
| | 普通地区 | 53 |
| 県自然環境保全地域 | 特別地区 | 62 |
| | 普通地区 | 63 |

(12) 鳥獣保護区の設定状況

それぞれの調査区間の河川区域において、鳥獣保護区の設定状況を調べ、次により区分し、コード番号で示す。

表6 鳥獣保護区の設定状況区分

| | | コード |
|--------------|--------------|-----|
| 鳥獣保護区の設定がない | | 0 |
| 鳥獣保護区の設定がある。 | 特別保護地区の指定がない | 1 |
| | 特別保護地区の指定がある | 2 |

(様式3) 河川改変状況調査票

河川改変状況調査票

| | |
|------|------|
| 調査年度 | 1979 |
| 都道府県 | 〇〇県 |

| 河川番号 | | 河川名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------|-----|---------|---------|---------|------------|---------|---------|----|-----|----|---------|---------|-----------|---------|----|---|---------|---------|---|---|---|-----|-------|--------|-----|---------|-------|----------------------|---------|-------|---------|-----|---|---|---|----|---|---|-----|
| 〇〇 | | 〇〇川 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 調査区間番号 | 保全地 | 鳥獣保護区 | 水際線(比) | | 河原の土地利用(比) | | | | | | 河畔の土地利用 | | 河川工作物 | | | | 取水施設の有無 | 河川の利用状況 | | | | | | | | | | 備考 (*印は河辺林の存在を示す) | | | | | | | | | | | |
| | | | 未設置 | その他 | 自然 | | | 農 | 未利用 | 施設 | 右岸 | 左岸 | 河川 | | 風景 | キ | | 瀬 | 木 | 川 | 岸 | 設 | 釣 | 業 | その他 | 不快要因 | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | 砂礫地 | 背丈の低い草地 | 背丈の高い草地 | | | | | | 樹林地 | (急)道の有無 | | | | | | | | | | | | (急)道の有無 | 川 | | 岸 | 風 | カ | 水 | 氷 | 悪 | 砂 | 利用 | 水 | 沼 | その他 |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 未設置 | その他 | 砂礫地・荒原地 | 背丈の低い草地 | 背丈の高い草地 | 樹林地 | 農 | 未利用 | 施設 | 右岸 | 左岸 | 河川工作物 | 取水施設の有無 | 風景探勝(遊歩道) | キ | 瀬 | 木 | 川 | 岸 | 設 | 釣 | 業 | その他 | 水のニゴリ | 水面上のヤワ | | 悪臭 | ゴミ・残材 | 砂利採取 | 河畔の道路法面 | 水深の浅さ | 沼水のガム湖岸 | その他 | | | | | | | |

湖沼調査の対象

(河川改変状況調査票記入上の注意)

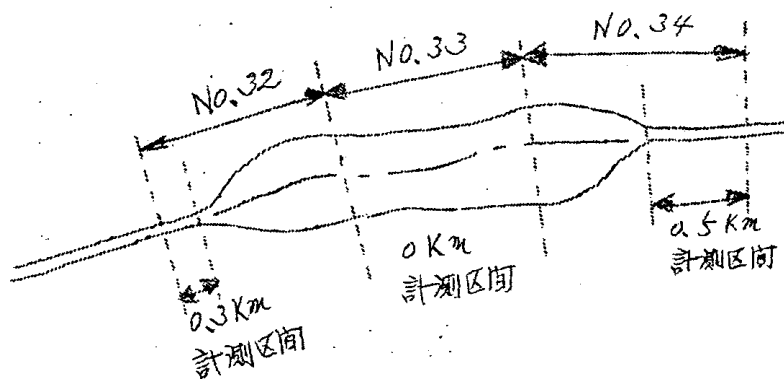
- 1 . 「保全地域」には、表 5 より該当するコード番号をすべて記入する。
- 2 . 「鳥獣保護区」には表 6 より該当するコード番号を記入する。
- 3 . 「水際線(比)」の各欄には、表 1 の各区分の延長の 10 分比を記入する。
- 4 . 「河原の土地利用(比)」の各欄には、表 2 の各区分の面積の 10 分比を記入する。調査区間内に幅 100m を越える河原がないため、河原の土地利用状況の調査を実施しなかった調査区間の欄には斜線を引く。
- 5 . 「河畔の土地利用」には、右岸、左岸別に表 3 より該当するコード番号を記入する。
- 6 . 「河川工作物」の各欄には、それぞれの設置箇所数を記入する。
- 7 . 「取水施設の有無」には、当該調査区間に取水施設がある場合は数字の「1」をない場合は、数字の「0」を記入する。
- 8 . 「河川の利用状況」及び「不快要因」には、該当する

欄に数字の「1」を該当しない欄には数字の「0」を記入する。

9. 「備考」には、流入河川、流路途中の湖沼、上流端について記入例のように記入する。

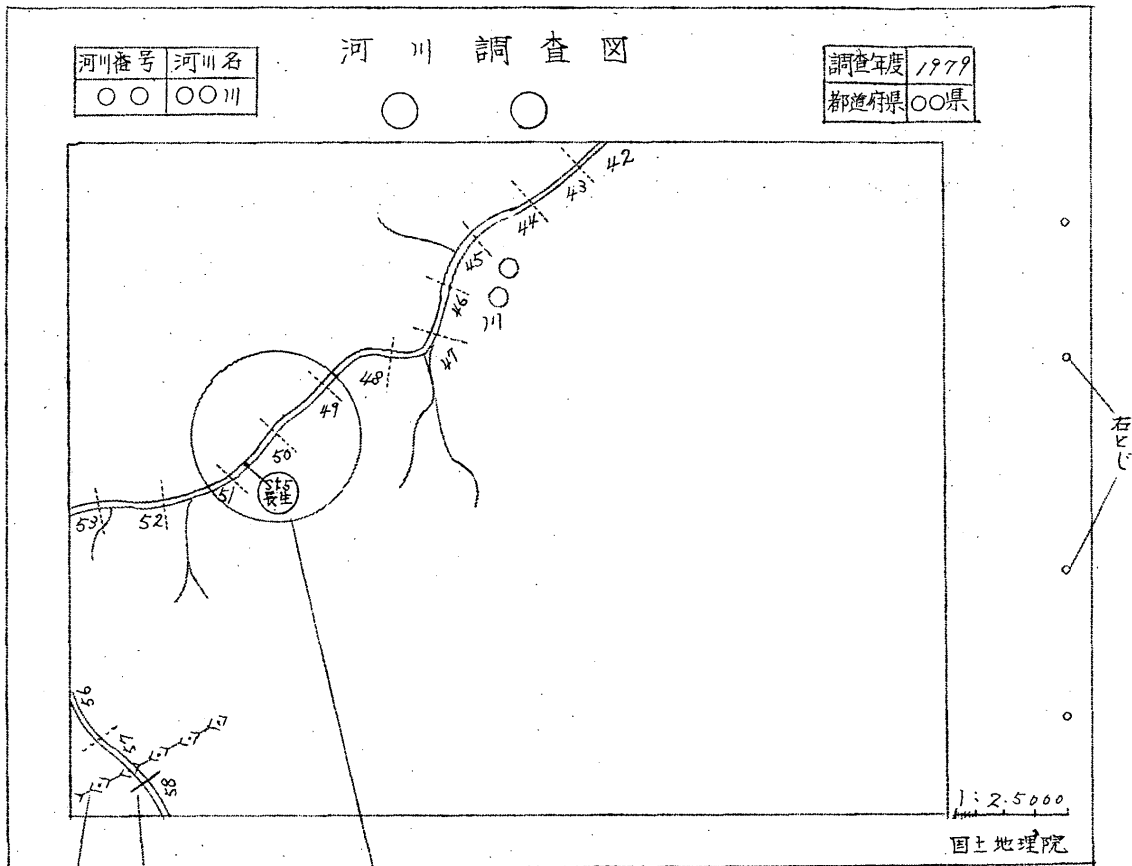
調査区間の一部が、網走湖、十三湖、小川原湖、宍道湖及び中海である場合、当該湖沼部分では、改変状況調査を実施しないが、この場合、備考欄には、残された河川部分の延長を計測区間として記入する。

(記入例の場合)



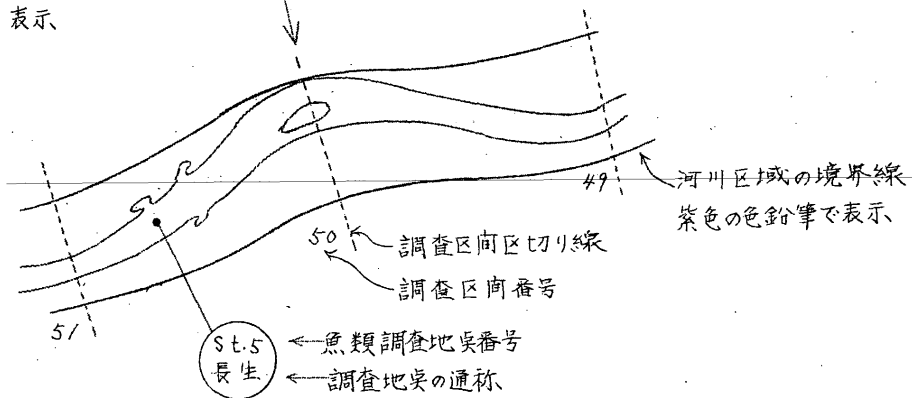
また、「河辺林」が、当該調査区間の河岸（両岸）の1/2以上にわたって存在している場合は、備考欄に*印を記入する。

(様式4) 河川調査図



県境

都府県間の調査分担
の区切りを赤鉛筆で
表示



(河川調査図作成上の注意)

- 1 . 調査図には、必ず国土地理院発行の 1/2.5 万地形図を使用する。複写図、編さん図等は使用しないこと。
- 2 . 調査図は、当該都道府県の調査対象河川ごとにまとめる。
- 3 . 調査図例のように、地形図の余白の所定の位置に「タイトル」「河川番号」「河川名」「調査年度」(西暦)、「都道府県名」を記入する。
- 4 . 河川区域の境界線を紫色の色鉛筆で表示する。上流域など、河川区域幅が狭く、河川区域の境界線を地形図上に表示することが困難な部分では、表示する必要はない。
- 5 . 魚類調査地点、調査地点番号及び調査地点の通称を調査図例のように、黒で表示する。
- 6 . 調査区間の区切り線を黒の点線で表示する。区切り線と区切り線の間(下流側に寄せて)調査区間番号を記入する。
- 7 . 都府県間の調査分担の区切りは赤鉛筆で表示する。

6. 原生流域調査

(1) 全国のすべての河川を対象として、次に示すとおり、
既存資料による調査を行ない、原生流域を抽出する。

(2) 原生流域の定義

この調査で「原生流域」とは、次のすべての要件に該当する河川の集水域であって、その面積が1000ha以上のものをいう。

ア. 集水域内で河川改修工事、砂防工事が行なわれていないこと。

イ. 集水域内に人工構築物（建築物、車道、各種工作物）が存在しないこと。ただし、
標識、測量杭等の軽微な工作物及び歩道（登山道、踏み分け道）については、この限りではない。

ウ. 集水域内で森林の伐採（皆伐、択伐）、土石、鉱物の採取、水面の埋立、土地の形状変更等の人為の影響が認められないこと。（過去に択伐等による森林の伐採が行なわれていたが、現在は行なわれておらず、ほとんど自然の状態に復元している森林などは、人為の影響が認められないと判断してさしつかえない。）

(3) 原生流域を「原生流域図」（様式5）にならい、国土

地理院発行の1/5万地形図に図示する。

また、原生流域に保全地域の指定がなされている場合

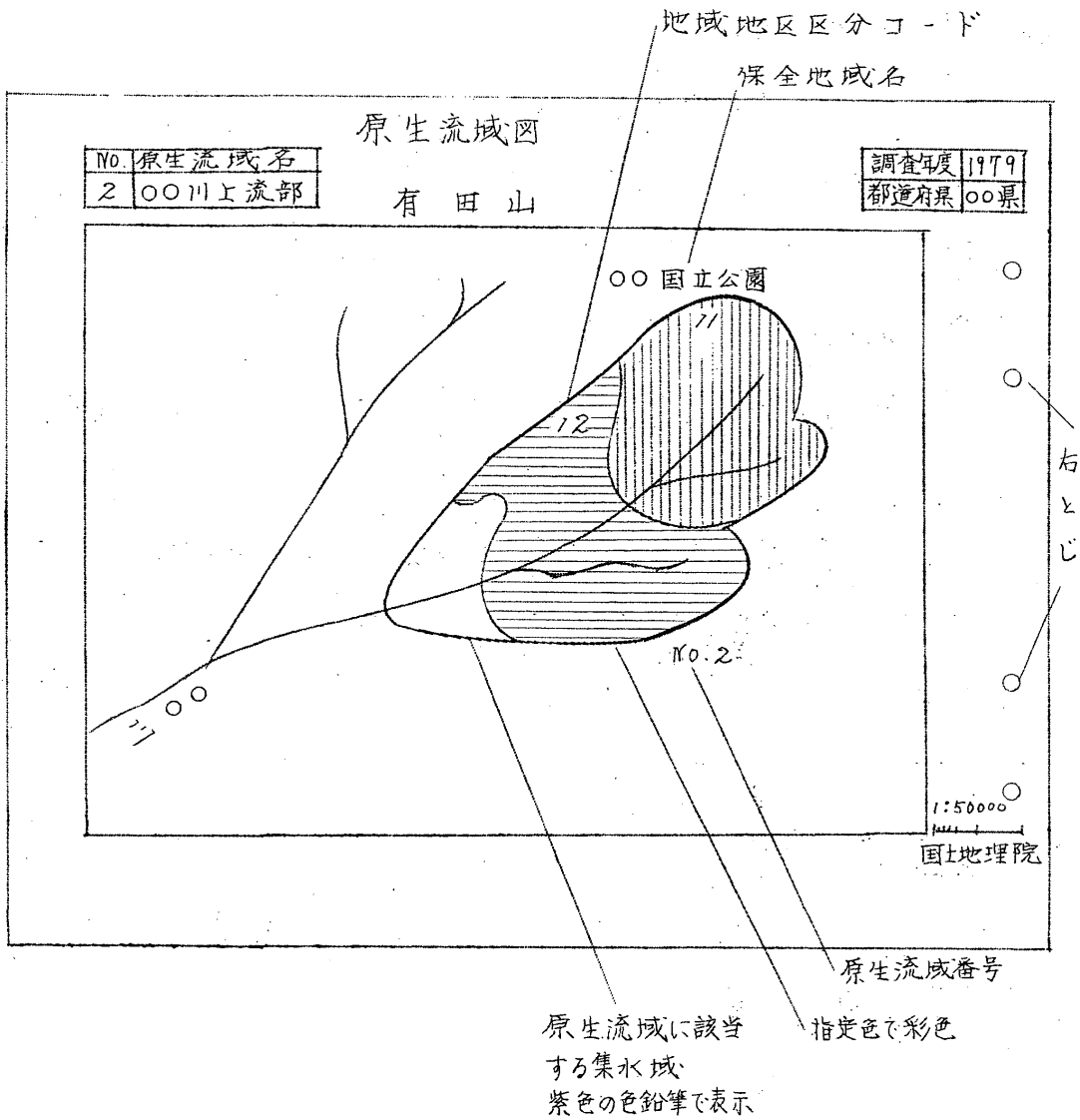
には、次により地域地区を図示する。

| 地域地区区分 | | コード | 指定色 | 色鉛筆の指定 |
|---------------|--------|-----|------|----------------|
| 国立公園 | 特別保護地区 | 11 | 橙色 | 三菱ポリカラー 7500-4 |
| | 特別地域 | 12 | ピンク色 | " 13 |
| | 普通地域 | 13 | 水色 | " 8 |
| 国定公園 | 特別保護地区 | 21 | 橙色 | " 4 |
| | 特別地域 | 22 | ピンク色 | " 13 |
| | 普通地域 | 23 | 水色 | " 8 |
| 県立自然公園 | 特別地域 | 32 | ピンク色 | " 13 |
| | 普通地域 | 33 | 水色 | " 8 |
| 原生自然環境保全地域 | | 41 | 橙色 | " 4 |
| 自然環境 保全地域 | 特別地区 | 52 | ピンク色 | " 13 |
| | 普通地区 | 53 | 水色 | " 8 |
| 県自然環 境保全地域 | 特別地区 | 62 | ピンク色 | " 13 |
| | 普通地区 | 63 | 水色 | " 8 |

(4) 原生流域について、河川名、流域面積、関係する市町

村名、保全地域名、植生の概要等を調査する。

(様式5) 原生流域図



(原生流域図作成上の注意)

1. 原生流域図には、必ず国土地理院発行の1/5万地形図を使用する。複写図、編さん図等は使用しないこと。

- 2 . 図例のように地形図の余白の所定の位置に「タイトル」「調査年度」(西歴)、「都道府県名」を記入する。
- 3 . 原生流域に、都道府県ごとに北から順に番号を付すとともに、「川上流部」というような名称を付け、地形図の余白の所定の位置に記入する。

同一地形図に2以上の原生流域がある場合は、「NO」「原生流域名」を連記する。
- 4 . 原生流域に該当する集水域の境界を紫色の色鉛筆で表示する。
- 5 . 原生流域にかかる保全地域の地域地区区分を指定色により表示するとともに、地域地区区分のコード番号を記入する。

また、「国立公園」「原生自然環境保全地域」のように保全地域の名称を記入する。
- 6 . 1つの原生流域が2以上の都府県にまたがる場合は、関係都府県間で調整し、1つの原生流域については、1都府県が原生流域図をまとめるようにする。

<別紙 2 > 報告書作成要領

1. 規格

B 5 版、左とじ、横書きとする。

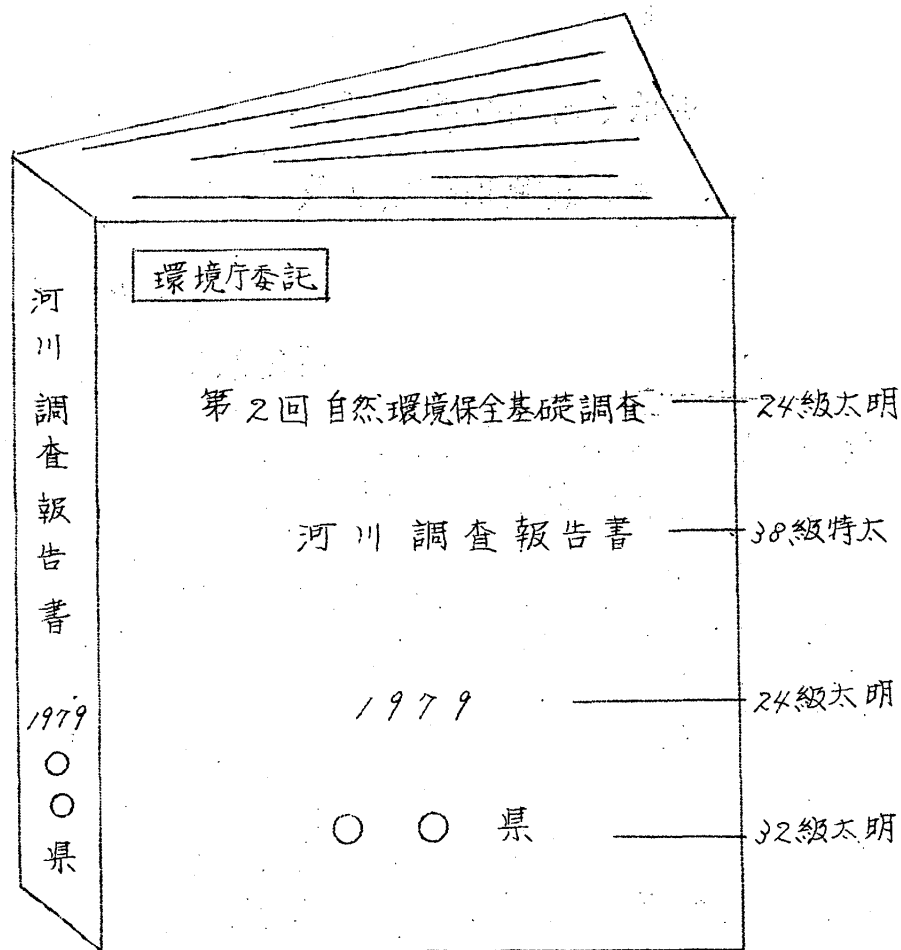
印刷は、タイプ印刷程度とする。

2. 表紙及び背文字

表紙（及び裏表紙）の色は、青嵐色、厚さは 215kg

（レザック 66Y 程度）とし、様式は下図によるものとする。

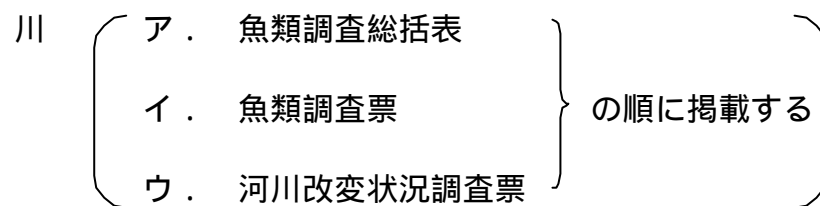
る。



3. 配 列

報告書における各項目の配列は、以下のとおりとする。

- (1) 目 次
- (2) 調査対象河川及び調査担当都道府県
- (3) 調査対象河川概略図
- (4) 調査結果の概要
 - ア. 魚類調査
 - イ. 河川改変状況調査
 - ウ. 原生流域調査
- (5) 河川別調査結果（河川番号の順）



川

川



- (6) 調査担当者名簿
- (7) 付録 「河川改変状況調査表の見方について」

4. 調査対象河川及び調査担当都道府県

当該都道府県の調査対象河川（魚類調査、河川改変状況調査）

について、次の例のように、調査担当都道府県別の流路延長、魚類調査地点数を表の形にまとめる。

(例)

A 県調査対象河川及び調査担当都道府県

今の測定値を印

| 河川番号 | 調査対象河川 | 調査担当県 | 担当区間延長 (km) | 魚類調査地点数 |
|------|--------|-------|-------------|---------|
| 〇〇 | 〇 〇 川 | A 県 | 56.4 | 5 |
| 〇〇 | 〇 〇 川 | A 県 | 65.3 | 5 |
| | | 〇 〇 県 | 24 | 2 |
| 〇〇 | 〇 〇 川 | A 県 | 56 | 5 |
| | | 〇 〇 県 | 27.7 | 3 |
| 〇〇 | 〇 〇 川 | A 県 | 12.6 | 8 |
| | | 〇 〇 県 | 112.6 | 7 |
| 〇〇 | 〇 〇 川 | A 県 | 95.4 | 10 |

下流側の県から記入する。

(注) 原生流域調査については、県内のすべての河川を対象としている。

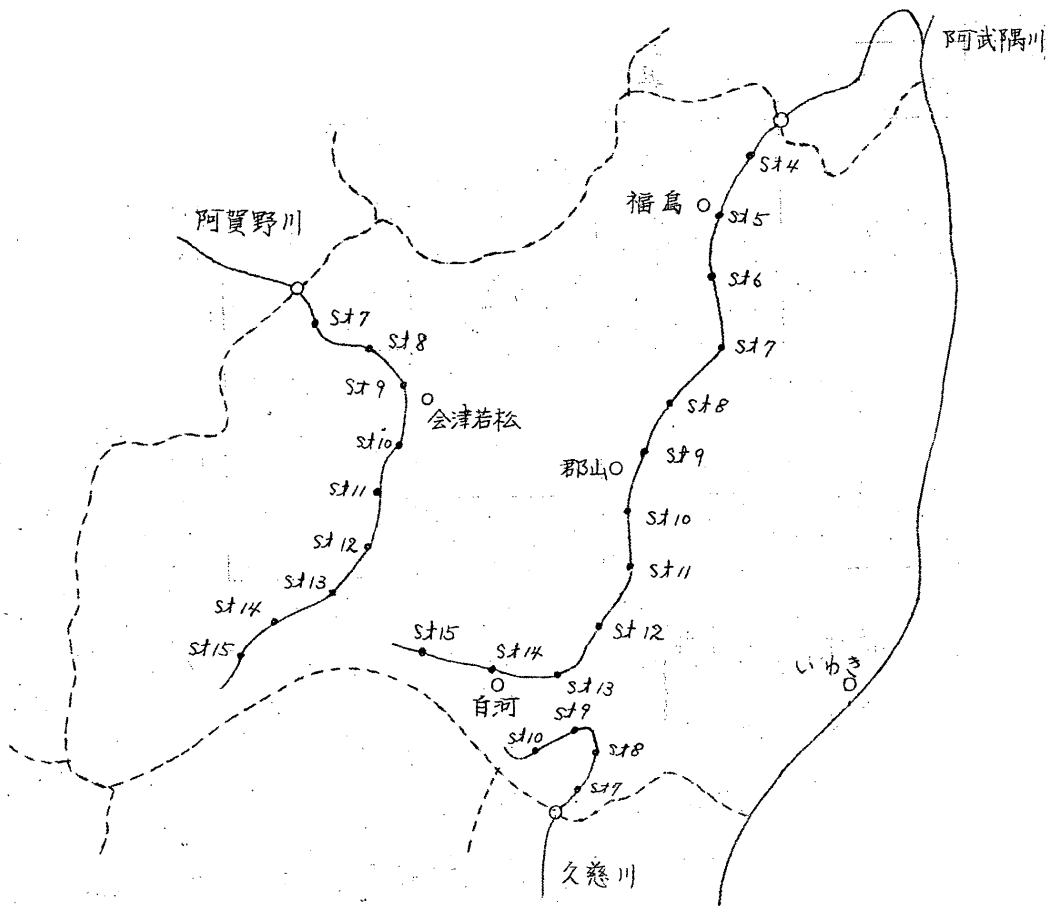
5. 調査対象河川概略図

当該都道府県の調査対象河川（魚類調査、河川改変状況調査）及び魚類調査地点を示すために、調査対象河川概略図を作成する。

調査対象河川概略図は、当該都道府県の概略図（B5版
 もしくはB4版に収まる程度の大きさ）に、次の例になら
 い、調査対象河川、魚類調査地点等を表示する。

（例）

〇〇県調査対象河川概略図



（注） 印は、都道府県間の調査分担の区切りを示す。

印は、魚類調査地点を示し、

わきの数字は魚類調査地点番号である。

6 . 調査結果の概要

(1) 魚類調査

調査対象河川ごとに、魚類相について簡単に記載する。

(数行で収まる程度)

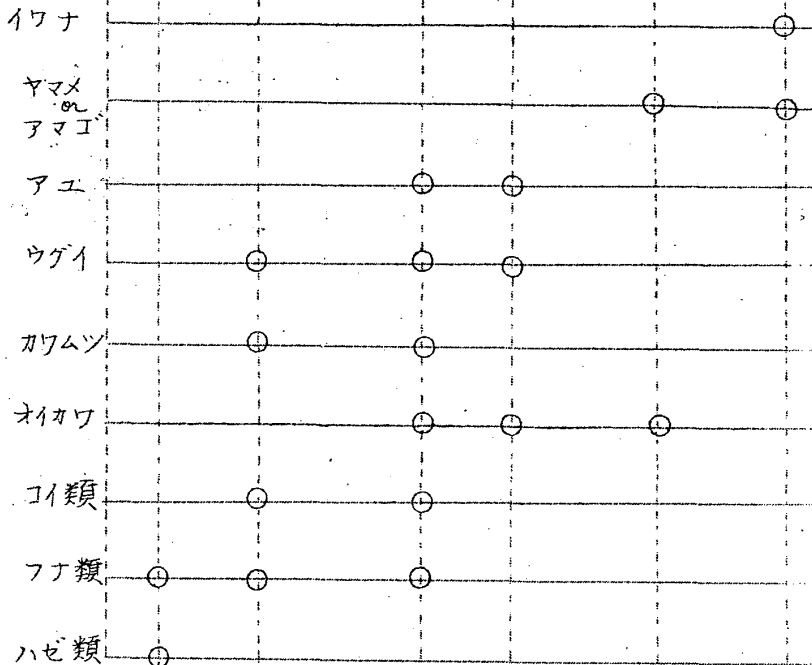
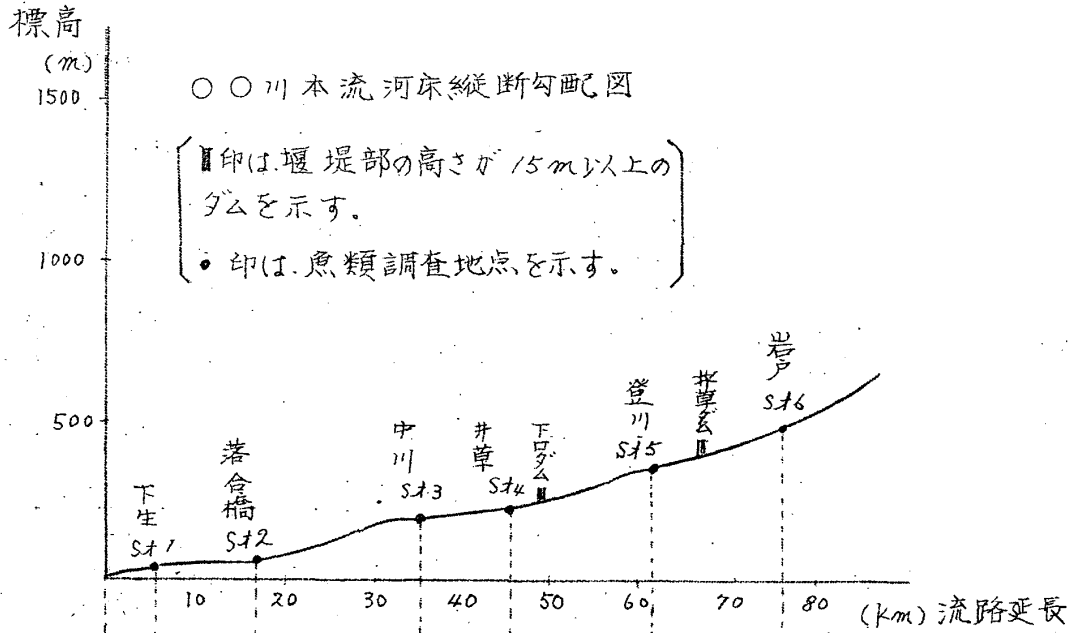
魚類の生息、繁殖にとって問題となっている点があれば、それについても記載する。

また、次の図例のように、調査結果を河川縦断勾配図と対照できるようにとりまとめる。

図にとりまとめる魚種は、イワナ、ヤマメ、アマゴ、アユ、ウグイ、カワムツ、オイカワ、コイ類、フナ類、ハゼ類とするが、他に当該河川において特徴的なもの等を適宜加えてもさしつかえない。

(例)

〇〇川魚類調査結果



○印は、漁獲試験及び漁協等からの聞き取りにより調査地点において生息が確認されたものを示す。

(2) 河川改変状況調査

調査結果を次の例にならい、表にとりまとめる。

(例) 河川改変状況調査結果

| 調査対象 河川名 | 調査区 間数 | 水際線の改変状況 | | | 河原の土地利用状況 | | | 河畔の土地利用状況 | | | | | |
|-------------|-----------|---------------------------------|-----|------|--------------------------------|-----|------|-----------|-----|------|-----|------|--|
| | | *1 人工化された水際線の割合 (延長の10分比) | | | *2 人工化された河原の割合 (面積の10分比) | | | 計 | 自然地 | (市街) | 自然地 | (市街) | |
| | | 0~2 | 3~5 | 6~10 | 0~2 | 3~5 | 6~10 | | 樹林地 | その他 | 農業地 | 市街地 | |
| ○ ○ 川 | | | | | | | | | | | | | |
| ○ ○ 川 | | | | | | | | | | | | | |
| ○ ○ 川 | | | | | | | | | | | | | |
| ○ ○ 川 | | | | | | | | | | | | | |

| 調査対象 河川名 | 調査区 間数 | 河川工作物の有無 | | | | 取水施設の有無 | 河川の利用状況 | | | | | | 不伏要四 | | | | | | | | |
|-------------|-----------|----------|---|--------|---|---------|-----------|------|----|-----|-----|------|------|-------|--------|----|-------|------|---------|-------|---------|
| | | (魚の) 上 | | (魚の) 下 | | | 風景探勝(遊歩道) | キャンプ | 温泉 | ボート | 川下り | 常設釣場 | 漁業 | 水のにごり | 水面上のアワ | 悪臭 | ゴミ・残材 | 砂利採取 | 河畔の道路法面 | 水量の減少 | 渇水時の干涸岸 |
| | | 有 | 無 | 有 | 無 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○ ○ 川 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○ ○ 川 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○ ○ 川 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○ ○ 川 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

(注) 各欄には、該当する調査区間数が記入されている。

*1 「人工化された水際線」とは、コンクリート護岸、矢板等の工作物により構成された水際線をいう。

*2 「人工化された河原」とは、公園、グランド等の施設の土地利用地、未利用造成地、農業地になっている河原をいう。

(表作成上の注意)

1. 「調査実施調査区間数」には、当該都道府県担当の調査区間数から、調査区間全体が次の湖沼に含まれるため、改変状況調査をまったく実施しなかった調査区間数を引いたものを記入する。

網走湖、十三湖、小川原湖、宍道湖、中海

2. 「河原の土地利用状況」の(計)には、河原の土地利用状況調査を実施した調査区間数を記入する。

3. 「河川工作物の有無」には、4つに分類された河川工作物のそれぞれについて、それが設置されている調査区間数を記入する。

(3) 原生流域調査

原生流域が抽出された場合は、原生流域ごとに、原生流域の概要を次の例のような表にとりまとめる。

(例)

| NO | 原生流域名 | 植生等の概要 |
|------------------|--------|--------|
| 3 | 〇〇川上流部 | |
| 関係都道府県 及び市町村名 | | |
| 地形図名 (1/5万) | | |
| 保全地域名 | | |
| 流域面積(ka) | | |

(注) 地形図名、保全地域名とは、当該原生流域にかかる地形図(1/5万)、保全地域(自然公園、自然環境保全地域)の名称である。

7. 河川別調査結果

(1) 河川ごとに調査結果を河川番号の若い順に掲載する。

それぞれの河川においては、調査票等を次の順で掲載する。

ア. 魚類調査総括表

イ. 魚類調査票

ウ. 河川改変状況調査票

(2) 魚類調査票に貼付された写真は、河川ごとに適宜まとめ、掲載する。

(3) 河川改変状況調査票は、B5版見開き2頁大に1枚の割で掲載する。

8. 調査担当者名簿

当調査に実際に従事した者全員の氏名、所属、分担分野を次の表にならとりまとめる。

| 番号 | 代 名 | 所 属 | 分 担 分 野 |
|----|-----|-----|---------|
| 1 | | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |
| | | | |

9 . 付録 「河川改変状況調査票の見方について」

「河川改変状況調査票」の見方について、別紙1「河川調査実施要領」にならい、特に、次の事項等を解説する。

- (1) 「調査区間」及び「調査区間番号」について解説する。
- (2) 「保全地域の地域地区区分」について表5を示す。
- (3) 「鳥獣保護区の設定状況区分」について表6を示す。
- (4) 「水際線の改変状況区分」について表1を示すとともに延長の10分比の調査であることを解説する。
- (5) 「河原の土地利用状況区分」について表2を示すとともに面積の10分比の調査であることを解説する。また、幅100mを越える河原がない調査区間では、河原の土地利用状況の調査を実施していないことを説明する。
- (6) 「河畔の土地利用状況区分」について表3を示す。

10. 奥付け

奥付けの様式は、下図によるものとする。

| |
|----------------|
| 第2回 自然環境保全基礎調査 |
| 河川調査報告書 |
| 昭和55年3月31日 |
| 編集 ○ ○ 県 |

環境庁委託調査

<別紙 3> 河川調査図帳作成要領

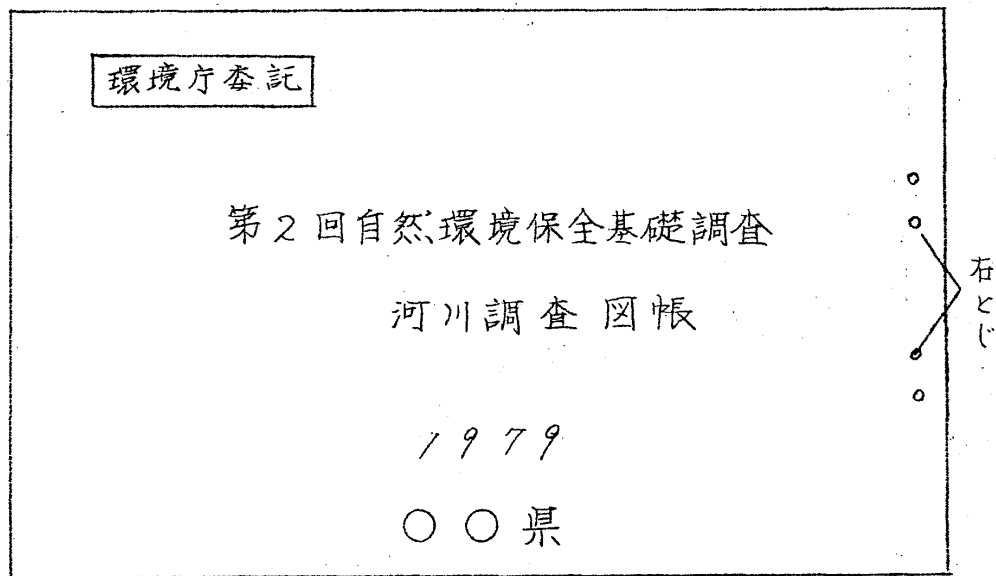
1. 河川調査図帳

(1) 表紙及び裏表紙

表紙は、国土地理院発行の1/2.5万地形図の大きさとし、表紙の色、厚さは報告書に準ずる。

様式は下図によるものとする。

裏表紙は、厚手のボール紙を使用する。



(2) 配列

配列は以下のとおりとする。

1. 表紙

2. 河川位置図

3. 河川調査図 { 河川番号の若い順に、河川ごとにまとめる。同一河川
に関する図葉は、下流側から順に並べる。 }

4. 裏表紙

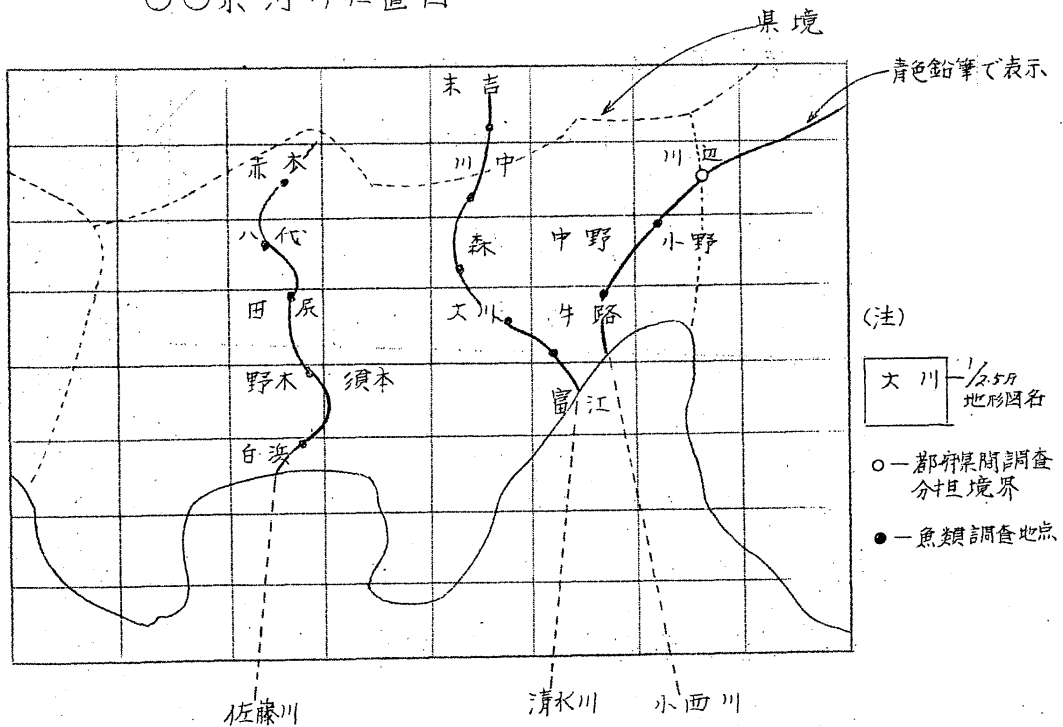
(3) 河川位置図

当該都道府県の概略図に、1/2.5万地形図のメッシュをかけ、
 それに、調査対象河川を青色の色鉛筆で表示する。1/2.5
 万地形図名は、当該都道府県の調査担当区間に係る1/2.5
 万地形図についてのみ記入する。

また、都府県間調査分担の境界を()印で、魚類調査
 地点を()印で表示する。

(例)

〇〇県河川位置図



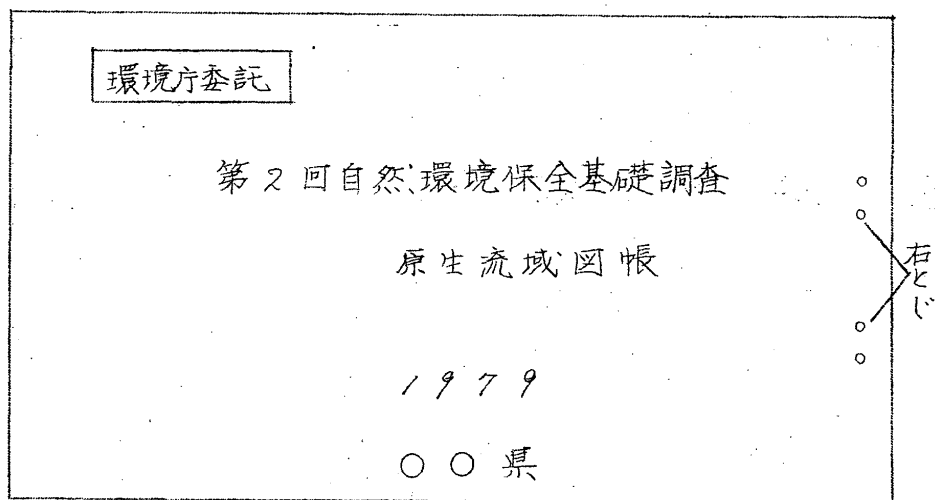
(図葉の並べ方例)

- ・ 小西川：牛路 - 中野 - 小野 - 川辺
- ・ 清水川：富江 - 牛路 - 大川 - 森 - 川中 - 末吉
- ・ 佐藤川：白浜 - 野木 - 須本 - 田尻 - 八代 - 赤木

2 . 原生流域図帳

(1) 表紙及び裏表紙

表紙は、国土地理院発行の 1/5 万地形図の大きさとし、表紙の色、厚さは報告書に準ずる。様式は下図によるものとする。裏表紙は厚手のボール紙を使用する。



(2) 配 列

配列は以下のとおりとする。

- ア . 表 紙
- イ . 原生流域図 (流域ごとにまとめる。)
- ウ . 裏表紙

| | |
|-------------------------|----|
| 別表 1 調査対象河川一覧 | 59 |
| 別表 2 都道府県別調査分担及び魚類調査地点数 | 73 |
| 別表 3 魚類分類表 | 87 |

別表1 調査対象河川一覧

| 河川 番号 | 河川名 | 上流端 | 調査担当 都道府県名 |
|----------|---------------------|---|---------------|
| 1 | 天塩川 | 左岸 北海道上川郡朝日町国有林上川 北部経営計画朝日事業区 149 林 班い小班地先 右岸 同町国有林上川北部経営計画朝 日事業区 137 林班い小班地先 | 北海道 |
| 2 | 渚滑川 | 南ノ川の合流点 | 〃 |
| 3 | 湧別川 | 左岸 北海道紋別郡白滝村字奥白滝区 国有林 93 林班い小班地先 右岸 同村同字 473 番地先 | 〃 |
| 4 | 常呂川 | 北海道常呂群置戸町国有林 71 林班地 先の峰峡橋下流端 | 〃 |
| 5 | 網走川 (網走湖を 含む) | 山越の沢川の合流点 | 〃 |
| 6 | 留萌川 | 留萌市留萌村字峠下 2039 番地先の道 道橋下流端 | 〃 |
| 7 | 石狩川 | ヤンベタツ川 <small>ツ</small> の合流点 | 〃 |
| 8 | 尻別川 | 左岸 北海道有珠郡大滝村字愛地 101 番地 右岸 同村同字 76 番地先 | 〃 |
| 9 | 後志利別川 | 左岸 北海道瀬棚郡今金町国有林 238 林班ち小班地先 右岸 同町国有林 169 林班ろ小班地先 | 〃 |

| 河川 番号 | 河川名 | 上 流 端 | 調査担当 都道府県名 |
|----------|--------------------------------|--|---------------|
| 10 | 鷗川 | 左岸 北海道勇払郡占冠村字トマム 1161 番の 4 地先 右岸 同村同字 1160 番の 1 地先 | 北海道 |
| 11 | 沙流川 | 左岸 北海道沙流郡日高町字千栄国 有林 89 林班い小班地先 右岸 同町同字国有林 50 林班い小 班地先 | " |
| 12 | 釧路川 | 屈斜路湖からの流出点 | " |
| 13 | 十勝川 | 北海道上川郡新得町字新得国有林 154 林班地先 | " |
| 14 | 岩木川 (十三湖 を含む。) | 暗門川の合流点 | 青 森 |
| 15 | 高瀬川 (小川原湖 及び七戸 川を含む。) | 長坂川の合流点 | " |
| 16 | 馬淵川 | 小屋瀬川の合流点 | 青 森 岩 手 |
| 17 | 北上川 | 左岸 岩手県岩手郡岩手町大字沼宮 内 35 地割 35 番の 3 地先 右岸 同町大字御堂 5 地割 46 番の 2 地先 | 宮 城 岩 手 |
| 18 | 鳴瀬川 | 北辻倉沢の合流点 | 宮 城 |

| 河川 番号 | 河川名 | 上流端 | 調査担当 都道府県名 |
|----------|---------------------|---|---------------|
| 19 | 名取川 | 高倉川の合流点 | 宮 城 |
| 20 | 阿武隈川 | 左岸 福島県西白河郡西郷村大字鶴 生字江森山 3 番地先 右岸 同村大字真船字寺下 3 番のイ 地先 | 宮 城 福 島 |
| 21 | 米代川 | 根石川の合流点 | 秋 田 |
| 22 | 雄物川 | 南沢の合流点 | ＼ |
| 23 | 子吉川 | 上玉田川の合流点 | ＼ |
| 24 | 最上川 (松川を 含む。) | 佐原沢の合流点 | 山 形 |
| 25 | 赤川 | 大鳥池からの流出点 | ＼ |
| 26 | 久慈川 | 左岸 福島県東白川郡棚倉町大字大 梅字入梅平 280 番地先 右岸 同町同大字同字 261 番の 4 地 先 | 福 島 茨 城 |
| 27 | 那珂川 | 左岸 栃木県那須郡那須町大字湯本 那須岳国有林 168 林班地先 右岸 同町同大字那須岳国有林 169 林班地先 | 茨 城 栃 木 |
| 28 | 利根川 | 群馬県利根郡水上町大字藤原地先の 大水上山山麓水源 | 群 馬 千 葉 |

| 河川 番号 | 河川名 | 上流端 | 調査担当 都道府県名 |
|----------|-----------------------|--|---------------|
| 28-2 | 鬼怒川 | 栃木県塩谷郡栗山村大字川俣字鬼怒 沼 646 番地先 | 茨 城 栃 木 |
| 29 | 荒川 | 左岸 埼玉県秩父郡大滝村大字大滝 東京大学附属演習林内 27 林 班地先 右岸 同村同大学東京大学附属演習 林内 22 林班地内 | 東 京 埼 玉 |
| 30 | 多摩川 〔丹波川を 含む。〕 | 落合柳沢川への合流点 | 東 京 |
| 31 | 鶴見川 | 町田市上小山田町 55 番の 1 地先の 新橋 | 神奈川 |
| 32 | 相模川 〔桂川を 含む。〕 | 左岸 山梨県南都留郡山中湖村大字 山中字梁尻 1464 番の 2 地先 右岸 同村同大字同字 1465 番地先 | 神奈川 山 梨 |
| 33 | 荒川 | 山形県西置賜郡小国町大字五味沢字 針生平地先の大石沢の合流点 | 新 潟 山 形 |
| 34 | 阿賀野川 〔阿賀川 を含む。〕 | 左岸 福島県南会津郡田島町大字滝 ノ原字獅子小屋 1706 番地先 右岸 同町同大字朝日岐 1699 番地 先 | 新 潟 福 島 |
| 35 | 信濃川 〔千曲川を 含む。〕 | 左岸 長野県南佐久郡川上村大字秋 山字西毛木場 51 番の 5 地先 右岸 同村大字梓山字東毛木場山 1 番地先 | 新 潟 長 野 |
| 35-2 | 犀川 | 長野県南安曇郡安曇村 4472 番地 先 | 長 野 |
| 36 | 関川 | 鍋倉谷の合流点 | 新 潟 |

| 河川 番号 | 河川名 | 上流端 | 調査担当 都道府県名 |
|----------|----------------------|--|---------------|
| 37 | 姫川 | 左岸 長野県北安曇郡白馬村大字神 城字荒神 918 番地先 右岸 同村同大字字花見 3459 番 地先 | 新 潟 長 野 |
| 38 | 黒部川 | 薬師沢の合流点 | 富 山 |
| 39 | 常願寺川 (真川を 含む。) | 富山県上新川郡大山町大字有峰字真 川谷割 10 番の地先 | " |
| 40 | 神通川 (宮川を 含む。) | 左岸 岐阜県大野郡宮村字釜屋敷 6551 番地先 右岸 同村字カラ谷 6603 番地先 | 富 山 岐 阜 |
| 41 | 庄川 | 左岸 岐阜県大野郡荘川村大字三尾 河字川原 300 番地先 右岸 同村同大字字冗ノ平 409 番 地先 | " |
| 42 | 小矢部川 | 富山県西砺波郡福光町大字刀利字下 小屋地先の不動滝下流端 | 富 山 |
| 43 | 手取川 | 湯ノ谷川の合流点 | 石 川 |
| 44 | 梯川 | 西俣川の合流点 | " |
| 45 | 狩野川 | 滑沢の合流点 | 静 岡 |

| 河川 番号 | 河川名 | 上流端 | 調査担当 都道府県名 |
|----------|----------------------|--|---------------|
| 46 | 富士川 〔釜無川 を含む。〕 | 左岸 長野県諏訪郡富士見町大字落 合字釜無山ノ内唐沢 13,345 番の3地先 右岸 山梨県北巨摩郡白洲町大字大 武川字釜無山 2127 番地外 70 林班 8 小班地先 | 静 岡 山 梨 |
| 47 | 安倍川 | 左岸 静岡市梅ヶ島 5264 番地先 右岸 同市梅ヶ島 5268 番の4地 先 | 静 岡 |
| 48 | 大井川 | 西俣川の合流点 | 〃 |
| 49 | 菊川 | 逆川の合流点 | 〃 |
| 50 | 天竜川 | 左岸 岡谷市湊字城下 3744 番の 1 地先 右岸 同市湊字ナガレ田 5187 番 の9地先 | 静 岡 長 野 |
| 51 | 豊川 〔寒狭川 を含む。〕 | 澄川の合流点 | 愛 知 |
| 52 | 矢作川 | 左岸 長野県下伊那郡根羽村字ブナ 立 3370 番の1地先 右岸 同村字小戸名山 3343 番の 1 地先 | 〃 |
| 53 | 庄内川 〔土岐川 を含む。〕 | 左岸 恵那市三郷町野井字法仙寺 141 番の1地先 | 愛 知 岐 阜 |

| 河川 番号 | 河川名 | 上流端 | 調査担当 都道府県名 |
|----------|------------------------------|---|--------------------------|
| 54 | 木曽川 | 右岸 同市同町野井字川上 209 番 地先 長野県木曽郡木祖村鉢伏国有林 | 愛知・岐阜 長野 |
| 54-2 | 長良川 | 左岸 岐阜県郡上郡高鷲村大字西洞 字中川原 3715 番地先 右岸 同村同大字字喰栃 2771 番 地先 | 岐 阜 |
| 55 | 鈴鹿川 | 左岸 三重県鈴鹿郡関町大字坂下字 大滝 691 番の 1 地先 | 三 重 |
| 56 | 雲出川 | 右岸 同町同大字同字 689 番地先 三重県一志郡美杉村大字川上字深谷 3489 番地先の神橋 | 〃 |
| 57 | 櫛田川 | 三重県飯南郡飯高町大字舟戸字高見 283 番地先 | 〃 |
| 58 | 宮川 | 三重県多気郡宮川村大字大杉字堂倉 谷地先の上流端を示す標柱 | 〃 |
| 59 | 由良川 | 京都府北桑田郡美山町大字芦生字芦 生奥 7 番地先 | 京 都 |
| 60 | 淀川 (宇治川 及び瀬田川 を含む。) | 左岸 大津市瀬田大江町字高砂 2179 番の 2 地先 | 大 阪 大 京 滋 都 賀 府 |
| 61 | 大和川 | 右岸 同市晴嵐 1 丁目字南 1040 番の 1 地先 桜井市大字小夫地先の県道笛吹橋 | 大 阪 奈 良 |

| 河川 番号 | 河川名 | 上流端 | 調査担当 都道府県名 |
|----------|-----------|---|---------------|
| 62 | 円山川 | 曾利谷川の合流点 | 兵 庫 |
| 63 | 加古川 | 広柴川の合流点 | " |
| | { 佐治川 } | | |
| | { を含む。 } | | |
| 64 | 揖保川 | 左岸 兵庫県宍粟郡一宮町倉床字三 五郎 360 番の 23 地先 | " |
| | { 倉床川 } | | |
| | { を含む。 } | 右岸 同町倉床字桑垣 335 番地先 | |
| 65 | 紀の川 | 三公川の合流点 | 和歌山 奈 良 |
| | { 吉野川 } | | |
| | { を含む。 } | | |
| 66 | 新宮川 | 左岸 奈良県吉野郡天川村大字北角 字塩ノ坪 155 番の 8 地先 | " |
| | { 川迫川、天 | | |
| | { 川及び、十津 | 右岸 同村同大字字中井谷 152 番 地先 | |
| | { 川を含む。 } | | |
| 67 | 九頭竜川 | 左岸 福井県大野郡和泉村大字上半 原 35 字北深瀬 3 番の 1 地先 | 福 井 |
| | | 右岸 同村同大字六字番屋 37 番の 29 地先 | |
| 68 | 北川 | 左岸 滋賀県高島郡今津町大字天増 川字宮畑 528 番地先 | " |
| | { 天増川 } | | |
| | { を含む。 } | 右岸 同町同大字同字 529 番地先 | |
| 69 | 千代川 | 左岸 鳥取県八頭郡智頭町大字駒帰 字石舟 262 番の次第 1 地先 | 鳥 取 |
| | | 右岸 同町同大字字上田 250 番の 1 地先 | |

| 河川 番号 | 河川名 | 上流端 | 調査担当 都道府県名 |
|----------|--|---|---------------|
| 70 | 天神川 | 左岸 鳥取県東伯郡三朝町大字大谷 字榎畑 826 番の 1 地先 右岸 同町同大字字長通 610 番地 先 | 鳥 取 |
| 71 | 日野川 | 左岸 鳥取県日野郡日南町大字新屋 字坂郷 1860 番の 10 地先 右岸 同町同大字字天ヶ淵 1050 番の 1 地先 | 〃 |
| 72 | 斐伊川 <small>(境水道、中海 大橋川及び穴 道湖を含む。)</small> | 小万才川の合流点 | 島 根 |
| 73 | 江の川 | 左岸 広島県山県郡大朝町大字筏津 字猿ヶ馬場 340 番の 9 地先 右岸 同町同大字字矢淵 339 番の 1 地先 | 島 根 広 島 |
| 74 | 高津川 | 島根県鹿足郡六日市町大字田野原字 岩崎 2045 番地先 | 島 根 |
| 75 | 吉井川 | 岡山県苫田郡上斎原村 2045 番の 1 地先の恩原橋 | 岡 山 |
| 76 | 旭川 | 左岸 岡山県真庭郡川上村大字上徳 山字家の上 658 番地先 右岸 同村大字本茅部字林流 612 番地先 | 〃 |

| 河川 番号 | 河川名 | 上流端 | 調査担当 都道府県名 |
|----------|-----|---|---------------|
| 77 | 高梁川 | 左岸 新見市千屋花見字条 6871 番地先 右岸 同市千屋花見字ヲチアイ 1083 番地先 | 岡 山 |
| 78 | 芦田川 | 左岸 広島県賀茂郡大和町大字蔵宗 字鳥井原 1623 番地先 右岸 同町同大字同字 1622 番地 先 | 広 島 |
| 79 | 太田川 | 左岸 広島県佐伯郡吉和村字吉和西 1585 番地先 右岸 同村字吉和東 1587 番地先 | ” |
| 80 | 小瀬川 | 左岸 広島県佐伯郡佐伯町大字飯ノ 山字天徳 18 番の 115 地先 右岸 同町同大字同字 18 番の 118 地先 | ” |
| 81 | 佐波川 | 山口県佐波郡徳地町大字抽木字山田 3322 番地先の町道橋下流端 | 山 口 |
| 82 | 吉野川 | 左岸 高知県土佐郡本川村大字寺川 字白猪谷 104 番地先 右岸 同村同大字同字 182 番の 3 地先 | 徳 島 高 知 |
| 83 | 那賀川 | 左岸 徳島県那賀郡木頭村大字北川 字高野瀬山 6 番の 4 地先 右岸 同村同大字同字 6 番の 2 地先 | 徳 島 |
| 河川 番号 | 河川名 | 上流端 | 調査担当 都道府県名 |

| | | | |
|----|----------------------|---|------------|
| 84 | 土器川 | 左岸 香川県仲多度郡琴南町勝浦字 下福家 1646 番地先 右岸 同町勝浦字八峰 1074 番の 2 地先 | 香 川 |
| 85 | 重信川 | 小松谷川の合流点 | 愛 媛 |
| 86 | 肱川 | 愛媛県東宇和郡宇和町大字久保 3 番 耕地 328 番の 1 地先 | ” |
| 87 | 物部川 | 左岸 高知県香美郡物部村別府国有 林第 61 林班地先 右岸 同村別府国有林第 53 林班地 先 | 高 知 |
| 88 | 仁淀川 (面河川 を含む。) | 左岸 愛媛県上浮穴郡面河村大字大 味川字面河山 21 番耕地 15 81 番地先 右岸 同村同大字字黒滝三番耕地 1251 番地先 | 愛 媛 高 知 |
| 89 | 渡川 (四万十川) | 左岸 高知県高岡郡東津野村船戸字 除地 3847 番地先 右岸 同村船戸字向屋敷 2396 番 地先 | 高 知 |
| 90 | 遠賀川 | 左岸 福岡県嘉穂郡嘉穂町大字桑野 字市野 2212 番地先 右岸 同町同大字同字 3519 番の 1 地先 | 福 岡 |

| 河川 番号 | 河川名 | 上流端 | 調査担当 都道府県名 |
|----------|--------------------------------------|---|-------------------|
| 91 | 山国川 | 左岸 大分県下毛郡山国町大字槻ノ 木森本 129 番の 2 地先 右岸 同町同大字字屋形 173 番の 1 地先 | 大 分 |
| 92 | 筑後川 (三隅川 大山川及 び杖立川 を含む。) | 左岸 熊本県阿蘇郡南小国町大字満 願寺字北黒川 6564 番の 1 地先 右岸 同町同大字字火焼輪智 6423 番の 3 地先 | 福 岡 大 分 熊 本 |
| 93 | 矢部川 | 福岡県八女郡矢部村大字北矢部字虎 仗木下 9177 番の 3 地先の虎仗木 橋 | 福 岡 |
| 94 | 松浦川 | 左岸 佐賀県杵島郡山内町大字宮野 字古場 1888 番の 42 地先 右岸 同町同大字同字 1888 番の 36 地先 | 佐 賀 |
| 95 | 六角川 | 左岸 武雄市西川登町神六字村内 29740 番地先 右岸 同市西川登町神六字長蓮和 28996 番地先 | 〃 |
| 96 | 嘉瀬川 | 佐賀県神埼郡三瀬村大字藤原字ゾ ウメキ 85 番の 81 地先の村道橋 | 〃 |
| 97 | 本明川 | 諫早市大字中本明古場名字四ノ川 内 2025 番の 2 地先の砂防堰堤 | 長 崎 |

| 河川 番号 | 河川名 | 上流端 | 調査担当 都道府県名 |
|----------|-----|--|---------------|
| 98 | 菊池川 | 左岸 菊池市大字原字深葉 5026 番地先 右岸 同市同大字字一成 5024 番 地先 | 熊 本 |
| 99 | 白川 | 熊本県阿蘇郡白水村大字白川字谷向 2494 番地先の谷相砂防堰堤下流 端 | 〃 |
| 100 | 緑川 | 熊本県上益城郡清和村大字緑川字内 ノ口 1746 番の 3 地先の宇毛橋 | 〃 |
| 101 | 球磨川 | 左岸 熊本県球磨郡水上村大字江代 字横才 1764 番の 2 地先 右岸 同村同大字字上屋敷 2048 番の 10 地先 | 〃 |
| 102 | 大分川 | 左岸 大分県大分郡湯布院町大字川 上字今ボリ 2051 番地先 右岸 同町同大字同字 2022 番地先 | |
| 103 | 大野川 | 左岸 宮崎県西臼杵郡高千穂町大字 五ヶ所字祖母山 1194 番の 2 地先 右岸 同町同大字同字 1194 番の 3 地先 | |
| 104 | 番匠川 | 左岸 大分県南海部郡本匠村大字山 部字カゲウラ 2160 番地先 右岸 同村同大字字森平 2149 番 地先 | 〃 |

| 河川 番号 | 河川名 | 上流端 | 調査担当 都道府県名 |
|----------|------|--|---------------|
| 105 | 五ヶ瀬川 | 左岸 宮崎県西臼杵郡五ヶ瀬町大字 鞍岡字小仁田山 4762 番の 2 地先 右岸 同町同大字字大谷 4228 番 地先 | 宮 崎 |
| 106 | 小丸川 | 左岸 宮崎県東臼杵郡椎葉村大字大 河内字尾崎 186 番の 48 地 先 右岸 同村同大字字吐野々 452 番 の 1 地先 | 〃 |
| 107 | 大淀川 | 左岸 鹿児島県嚙啖郡末吉町大字南 之郷字中之丸 10538 番の 6 地先 右岸 同町同大字字轟木 10572 番 の 3 地先 | |
| 108 | 川内川 | 宮崎県西諸県郡飯野町大字大河平字 苗杉 133 番地先 | 宮 崎 |
| 109 | 肝属川 | 左岸 鹿屋市下高隅町字吉別府 58 26 番地先 右岸 同市同町字堂の後 5687 番 の 1 地先 | 鹿児島 鹿児島 |
| 110 | 浦内川 | (沖縄県が指定する上流端) | 沖 縄 |

別表2 都道府県別調査分担及び魚類調査地点数

| 河川名 | 調査担当区間 | 魚類調査地点数 |
|-----|--------|---------|
|-----|--------|---------|

<北海道>

| | | |
|-------|--------|-------|
| 天塩川 | 河口～上流端 | 15 |
| 渚滑川 | " | 0 |
| 湧別川 | " | 5 |
| 常呂川 | " | 10 |
| 網走川 | " | 0 |
| 留萌川 | " | 5 |
| 石狩川 | " | 0 |
| 尻別川 | " | 10 |
| 後志利別川 | " | 0 |
| 鷲川 | " | 0 |
| 沙流川 | " | 10 |
| 釧路川 | " | 0 |
| 十勝川 | " | 10 |
| | | (計65) |

<青森県>

| | | |
|-----|--------|----|
| 岩木川 | 河口～上流端 | 10 |
|-----|--------|----|

| 河川名 | 調査担当区間 | 魚類調査地点数 |
|-----|-------------|---------|
| 高瀬川 | 河口～上流端 | 5 |
| 馬淵川 | 〃～県境（青森・岩手） | 3 |
| | | （計18） |

<岩手県>

| | | |
|-----|---------------|-------|
| 馬淵川 | 県境（岩手・青森）～上流端 | 7 |
| 北上川 | 県境（岩手・宮城）～上流端 | 12 |
| | | （計19） |

<宮城県>

| | | |
|------|--------------|-------|
| 北上川 | 河口～県境（宮城・岩手） | 3 |
| 鳴瀬川 | 河口～上流端 | 10 |
| 名取川 | 〃 | 5 |
| 阿武隈川 | 河口～県境（宮城・福島） | 3 |
| | | （計21） |

<秋田県>

| | | |
|-----|-------------|-------|
| 米代川 | 河口～上流端（岩手県） | 10 |
| 雄物川 | 〃 | 10 |
| 子吉川 | 〃 | 5 |
| | | （計25） |

| 河川名 | 調査担当区間 | 魚類調査地点数 |
|-----|--------|---------|
|-----|--------|---------|

<山形県>

| | | |
|-----|---------------|--------|
| 最上川 | 河口～上流端 | 15 |
| 赤川 | " | 5 |
| 荒川 | 県境（山形・新潟）～上流端 | 2 |
| | | （計 22） |

<福島県>

| | | |
|------|---------------|--------|
| 阿武隈川 | 県境（福島・宮城）～上流端 | 12 |
| 久慈川 | 県境（福島・茨城）～上流端 | 4 |
| 阿賀野川 | 県境（福島・新潟）～上流端 | 9 |
| | | （計 25） |

<茨城県>

| | | |
|-----|----------------|--------|
| 久慈川 | 河口～県境（茨城・福島） | 6 |
| 那珂川 | 河口～県境（茨城・栃木） | 3 |
| 鬼怒川 | 利根川との合流点～水戸線鉄橋 | 3 |
| | | （計 12） |

<栃木県>

| | | |
|-----|---------------|--------|
| 那珂川 | 県境（栃木・茨城）～上流端 | 7 |
| 鬼怒川 | 水戸線鉄橋～上流端 | 7 |
| | | （計 14） |

| 河川名 | 調査担当区間 | 魚類調査 地点数 |
|-----|--------|-------------|
|-----|--------|-------------|

<群馬県>

| | | |
|-----|------------|-----------|
| 利根川 | 東北本線鉄橋～上流端 | 8 (計8) |
|-----|------------|-----------|

<埼玉県>

| | | |
|----|------------|-----------|
| 荒川 | 東北本線鉄橋～上流端 | 9 (計9) |
|----|------------|-----------|

<千葉県>

| | | |
|-----|-----------|-----------|
| 利根川 | 河口～東北本線鉄橋 | 7 (計7) |
|-----|-----------|-----------|

<東京都>

| | | |
|-----|-------------|-------|
| 荒川 | 河口～東北本線鉄橋 | 1 |
| 多摩川 | 河口～上流端(山梨県) | 10 |
| | | (計11) |

<神奈川県>

| | | |
|-----|---------------|-------|
| 鶴見川 | 河口～上流端(東京都) | 5 |
| 相模川 | 河口～県境(神奈川・山梨) | 5 |
| | | (計10) |

| 河川名 | 調査担当区間 | 魚類調査 地点数 |
|-----|--------|-------------|
|-----|--------|-------------|

<新潟県>

| | | |
|------|--------------|--------|
| 荒川 | 河口～県境（新潟・山形） | 3 |
| 阿賀野川 | 河口～県境（新潟・福島） | 6 |
| 信濃川 | 河口～県境（新潟・長野） | 7 |
| 関川 | 河口～上流端 | 5 |
| 姫川 | 河口～蒲原沢との合流点 | 2 |
| | | （計 23） |

<富山県>

| | | |
|------|-------------|--------|
| 黒部川 | 河口～上流端 | 10 |
| 常願寺川 | 〃 | 5 |
| 神通川 | 河口～高原川との合流点 | 4 |
| 庄川 | 河口～境川との合流点 | 5 |
| 小矢部川 | 河口～上流端 | 5 |
| | | （計 29） |

<石川県>

| | | |
|-----|--------|--------|
| 手取川 | 河口～上流端 | 5 |
| 梯川 | 〃 | 5 |
| | | （計 10） |

| 河川名 | 調査担当区間 | 魚類調査 地点数 |
|-----|--------|-------------|
|-----|--------|-------------|

<福井県>

| | | |
|------|---------|--------|
| 九頭竜川 | 河口～上流端 | 10 |
| 北川 | " (滋賀県) | 5 |
| | | (計 15) |

<山梨県>

| | | |
|-----|----------------|--------|
| 相模川 | 県境(山梨・神奈川)～上流端 | 5 |
| 富士川 | 県境(山梨・静岡)～上流端 | 9 |
| | | (計 14) |

<長野県>

| | | |
|-----|---------------|--------|
| 信濃川 | 県境(長野・新潟)～上流端 | 8 |
| 犀川 | 信濃川との合流点～上流端 | 5 |
| 姫川 | 蒲原沢との合流点～上流端 | 3 |
| 天竜川 | 県境(長野・静岡)～上流端 | 10 |
| 木曾川 | 県境(長野・岐阜)～上流端 | 5 |
| | | (計 31) |

<岐阜県>

| | | |
|-----|--------------|---|
| 神通川 | 高原川との合流点～上流端 | 6 |
| 庄川 | 境川との合流点～上流端 | 5 |

| 河川名 | 調査担当区間 | 魚類調査地点数 |
|-----|-------------------|---------|
| 庄内川 | 県境（岐阜・愛知）～上流端 | 4 |
| 木曽川 | 名鉄小牧線鉄橋～県境（岐阜・長野） | 5 |
| 長良川 | 河口～上流端 | 10 |
| | | （計 30） |

< 静岡県 >

| | | |
|-----|--------------|--------|
| 狩野川 | 河口～上流端 | 5 |
| 富士川 | 河口～県境（静岡・山梨） | 1 |
| 安倍川 | 河口～上流端 | 5 |
| 大井川 | 〃 | 10 |
| 菊川 | 〃 | 5 |
| 天竜川 | 河口～県境（静岡・長野） | 5 |
| | | （計 31） |

< 愛知県 >

| | | |
|-----|--------------|--------|
| 豊川 | 河口～上流端 | 10 |
| 矢作川 | 〃（長野県） | 10 |
| 庄内川 | 河口～県境（愛知・岐阜） | 6 |
| 木曽川 | 河口～名鉄小牧線鉄橋 | 5 |
| | | （計 31） |

| 河川名 | 調査担当区間 | 魚類調査地点数 |
|-----|--------|---------|
|-----|--------|---------|

<三重県>

| | | |
|-----|--------|-------|
| 鈴鹿川 | 河口～上流端 | 5 |
| 雲出川 | " | 5 |
| 櫛田川 | " | 10 |
| 宮川 | " | 10 |
| | | (計30) |

<滋賀県>

| | | |
|----|---------------|------|
| 淀川 | 県境(滋賀・京都)～上流端 | 2 |
| | | (計2) |

<京都府>

| | | |
|-----|---------------------|-------|
| 由良川 | 河口～上流端 | 10 |
| 淀川 | 県境(京都・大阪)～県境(京都・滋賀) | 3 |
| | | (計13) |

<大阪府>

| | | |
|-----|--------------|------|
| 淀川 | 河口～県境(大阪・京都) | 5 |
| 大和川 | " (大阪・奈良) | 2 |
| | | (計7) |

| 河川名 | 調査担当区間 | 魚類調査 地点数 |
|-----|--------|-------------|
|-----|--------|-------------|

< 兵庫県 >

| | | |
|-----|--------|--------|
| 円山川 | 河口～上流端 | 5 |
| 加古川 | " | 10 |
| 揖保川 | " | 5 |
| | | (計 20) |

< 奈良県 >

| | | |
|-----|---------------|--------|
| 大和川 | 県境(奈良・大阪)～上流端 | 3 |
| 紀の川 | "(奈良・和歌山)～上流端 | 5 |
| 新宮川 | " " | 7 |
| | | (計 15) |

< 和歌山県 >

| | | |
|-----|---------------|-------|
| 紀の川 | 河口～県境(和歌山・奈良) | 5 |
| 新宮川 | " | 3 |
| | | (計 8) |

< 鳥取県 >

| | | |
|-----|--------|--------|
| 千代川 | 河口～上流端 | 5 |
| 天神川 | " | 5 |
| 日野川 | " | 10 |
| | | (計 20) |

| 河川名 | 調査担当区間 | 魚類調査地点数 |
|-----|--------|---------|
|-----|--------|---------|

< 島根県 >

| | | |
|-----|------------------|--------|
| 斐伊川 | 河口～上流端 | 10 |
| 江の川 | 河口～三江南線口羽駅付近の両国橋 | 4 |
| 高津川 | 河口～上流端 | 10 |
| | | (計 24) |

< 岡山県 >

| | | |
|-----|--------|--------|
| 吉井川 | 河口～上流端 | 10 |
| 旭川 | " | 10 |
| 高梁川 | " | 10 |
| | | (計 30) |

< 広島県 >

| | | |
|-----|-------------------|--------|
| 江の川 | 三江南線口羽駅付近の両国橋～上流端 | 6 |
| 芦田川 | 河口～上流端 | 10 |
| 太田川 | " | 10 |
| 小瀬川 | " | 5 |
| | | (計 31) |

< 山口県 >

| | | |
|-----|--------|-------|
| 佐波川 | 河口～上流端 | 5 |
| | | (計 5) |

| 河川名 | 調査担当区間 | 魚類調査 地点数 |
|-----|--------|-------------|
|-----|--------|-------------|

<徳島県>

| | | |
|-----|--------------|-------|
| 吉野川 | 河口～県境（徳島・高知） | 6 |
| 那賀川 | 河口～上流端 | 10 |
| | | （計16） |

<香川県>

| | | |
|-----|--------|------|
| 土器川 | 河口～上流端 | 5 |
| | | （計5） |

<愛媛県>

| | | |
|-----|---------------|-------|
| 重信川 | 河口～上流端 | 5 |
| 肱川 | 〃 | 10 |
| 仁淀川 | 県境（愛媛・高知）～上流端 | 4 |
| | | （計19） |

<高知県>

| | | |
|-----|---------------|-------|
| 吉野川 | 県境（高知・徳島）～上流端 | 4 |
| 物部川 | 河口～上流端 | 5 |
| 仁淀川 | 河口～県境（高知・愛媛） | 6 |
| 渡川 | 河口～上流端 | 10 |
| | | （計25） |

| 河川名 | 調査担当区間 | 魚類調査 地点数 |
|-----|--------|-------------|
|-----|--------|-------------|

<福岡県>

| | | |
|-----|---------|-------|
| 遠賀川 | 河口～上流端 | 5 |
| 筑後川 | 河口～夜明ダム | 6 |
| 矢部川 | 河口～上流端 | 5 |
| | | (計16) |

<佐賀県>

| | | |
|-----|--------|-------|
| 松浦川 | 河口～上流端 | 5 |
| 六角川 | " | 5 |
| 嘉瀬川 | " | 5 |
| | | (計15) |

<長崎県>

| | | |
|-----|--------|------|
| 本明川 | 河口～上流端 | 5 |
| | | (計5) |

<熊本県>

| | | |
|-----|--------------|---|
| 筑後川 | 津江川との合流点～上流端 | 2 |
| 菊池川 | 河口～上流端 | 5 |
| 白川 | " | 5 |
| 緑川 | " | 5 |

| 河川名 | 調査担当区間 | 魚類調査地点数 |
|-----|--------|-------------|
| 球磨川 | 河口～上流端 | 10 (計27) |

<大分県>

| | | |
|-----|---------------|-------|
| 山国川 | 河口～上流端 | 5 |
| 大分川 | " | 5 |
| 大野川 | " (宮崎県) | 10 |
| 番匠川 | " | 5 |
| 筑後川 | 夜明ダム～津江川との合流点 | 2 |
| | | (計27) |

<宮崎県>

| | | |
|------|----------------|-------|
| 五ヶ瀬川 | 河口～熊本県内～上流端 | 10 |
| 小丸川 | 河口～上流端 | 5 |
| 大淀川 | " (鹿児島県) | 10 |
| 川内川 | 県境(宮崎・鹿児島)～上流端 | 2 |
| | | (計27) |

<鹿児島県>

| | | |
|-----|---------------|---|
| 川内川 | 河口～県境(鹿児島・宮崎) | 8 |
| 肝属川 | 河口～上流端 | 5 |

| 河川名 | 調査担当区間 | 魚類調査地点数 |
|-----|--------|---------|
| | | (計13) |

< 沖縄県 >

| | | |
|-----|--------|----------------------|
| 浦内川 | 河口～上流端 | 5 (計5) (総計)885 |
|-----|--------|----------------------|

別表3 魚類分類表

| | |
|----------|--------------|
| ヤツメウナギ科 | アカメ科 |
| チョウザメ科 | スズキ科 |
| カライワシ科 | シマイサキ科 |
| ハイレン科 | ユゴイ科 |
| ウナギ科 | サンフィッシュ科 |
| ニシン科 | アジ科 |
| カタクチイワシ科 | ヒイラギ科 |
| サケ科 | フエダイ科 |
| アユ科 | タイ科 |
| キュウリウオ科 | クロホシマンジュウダイ科 |
| シラウオ科 | カワスズメ科 |
| コイ科 | ボラ科 |
| ドジョウ科 | ツバサハゼ科 |
| ギギ科 | ハゼ科 |
| ナマズ科 | カワアナゴ科 |
| ヒレナマズ科 | タイワンドジョウ科 |
| サヨリ科 | キノビリウオ科 |
| メダカ科 | タウナギ科 |
| カダヤシ科 | カレイ科 |
| トゲウオ科 | フグ科 |
| ヨウジウオ科 | |
| フサカサゴ科 | |
| コチ科 | |
| カジカ科 | |